

密 第一〇九 共九

朝鮮特報第二二號

國境守備隊月報(九月)

朝鮮軍參謀部
昭和十年十月

軍事部
恩賞課
配布ス



目次

- 一、間島臨時派遣隊琿春支隊月報
- 一、歩兵第七十三聯隊國境守備隊月報
- 一、歩兵第七十四聯隊國境守備隊月報
- 一、歩兵第七十五聯隊月報
- 一、歩兵第七十六聯隊國境守備隊月報
- 一、歩兵第七十七聯隊國境守備隊月報
- 一、歩兵第七十八聯隊國境守備隊月報

1233



間島臨時派遣隊琿春支隊月報(九月)



- | | | | | | | | | | |
|-------------|--------|--------|--------|------------------|------------------|--|--|---------------------------------|---------------------------------|
| 第
一
〇 | 第
九 | 第
八 | 第
七 | 第
六 | 第
五 | 第
四 | 第
三 | 第
二 | 第
一 |
| 馬事
軍犬 | 衛
生 | 經
理 | 兵
器 | 交
通
通
信 | 政
情
民
情 | 治
安
工
作
ニ
關
ス
ル
事
項 | 滿
洲
國
軍
警
及
自
衛
團
ノ
狀
況 | 討
伐
警
備
ノ
狀
況 | 一
般
治
安
ノ
狀
況 |

第二 其他

- 附表第一 日滿軍警討伐警備行動概要
- 附表第二 步兵第八團第二營編成並配備表
- 附圖第一 縣内匪賊ノ分布並活動狀況要圖
- 附圖第二 琿春支隊配備要圖
- 附圖第三 步兵第八團第二營配備要圖
- 附圖第四 日滿各警察署配備要圖
- 附圖第五 自衛團緝私隊配備要圖
- 附圖第六 管内警備電話網要圖
- 附圖第七 管内無線電信網要圖

第一 一般治安ノ状況

一 縣内一般治安ノ状況ハ全般的ニ於テ良況ニア
 ルモ土門子北方縣境附近ニ於テハ糧食盜掘砂
 金ノ強奪ヲ企圖スル小匪賊ノ横行其跡ヲ断
 ス又琿春北方山地帯ニ於テハ武装共匪ノ一部
 侵入徘徊スル等局部的ニ於テ匪害ヲ蒙リ依然
 トシテ我軍警ノ積極的討伐ト至嚴ナル警戒ト
 ヲ要スルモノアリ

二 匪情

共匪ノ状況

輝春縣内ニ出沒スル共匪ハ自稱東北人民革命
 軍第二軍第二獨立師第二團ニシテ其根據地ヲ
 汪清縣金蒼及火燒鋪附近ニ置キ總人員ニ五〇名
 ニシテ彼等ハ日滿軍警ノ間斷ナキ討伐ト至嚴
 ナル警戒トニ依リ其活動地域ヲ減少セラレ且
 長期ニ亘ル測量掩護隊ノ討伐掃蕩ニ依リ一時
 根據地ヲ放棄セシト雖モ本年六月末頃軍事部
 ノ指令ニ基キ同團第一、二、三、五、六連及汪清縣人
 民革命軍第三團ハ第四、五連中ヨリ選抜シ遊撃
 遠征隊ヲ組織シ之ヲ東北人民革命軍第二軍第

二獨立師第四團ニ編成ヲ改正シ候國忠之カ團
 長トナリ政治委員ニハ金一成ヲ選定ノ上巧ニ
 我警戒網ヲ潛リ時々東興鎮奧池及大小六道溝
 奧池一帶並ニ輝春河南地區ニ出沒シ人質ノ拉
 致金品ノ掠奪食飼ノ強要特ニ阿片ノ強奪等ヲ
 敢行シ越冬準備ニ仕スル外一面宣傳文ヲ散貼
 布シ同志ノ獲得ニ努メツ、アリ
 尚本月二十二日候國忠ノ指揮スル一隊約百五十名
 ハ六道溝附近ニ於テ物資運搬車輛ヲ襲撃シ
 之カ強奪ヲ企圖セルモ我日滿軍隊ノ出動攻撃

ヲ受ケ遂ニ目的ヲ達セス、打撃ヲ受ケ西南盆方面ニ分散逃走セリ

兵馬ノ匪ノ状況

蘭家陸子附近密林地帯ヲ根據トスル共產系兵匪約三十名ハ徐吉忠之ヲ統率シ東興鎮北方僻地ニ横行シ金品物資ノ掠奪ニ任シアリ。尚密江北方面奥地汪清縣下ニハ馬賊約七十名アリテ密林中ニ蟠居シアルモ主トシテ汪清方面ニ行動シ我管内ニハ未夕其出没ヲ見ス。

三、本月中匪賊ノ出沒及被害ノ状況尤ノ如シ

出沒回数 二九回 被拉置 三名

出沒延人員 三九六名 被害金額 四四九圓

第三 討伐警備ノ狀況

一、琿春守備隊方面

先月引續キ關東軍測量隊ノ琿春北方地區ノ測量實施ニ方リ守備隊ハ三掩護部隊ヲ編成シ馬家店及杜荒子ニ巨ル間ノ圖根測量竝ニ大荒溝附近及北溝嶺以北地區ニ於ケル碎部測量實施ノ掩護ニ任セシム而シテ各掩護部隊ハ至嚴ナ

ル警戒並ニ機ニ乘スル積極的討伐ヲ行ヒ測量
 隊ノ行動ヲ掩護中ニシテ大荒溝附近測量掩護
 隊ハ任務ヲ完了シ九月二十日琿春ニ歸還シ其他
 ハ依然該任務ニ從事中ナリ
 九月二十八日以降測量掩護小隊ノ外主力ハ琿春
 支隊米岡部隊トシテ既報計畫ニ基ク討伐ニ向
 へリ

二 土門子守備隊

本月中旬以來一部ヲ杜荒子附近ニ派遣シ琿春
 守備隊ヨリ派遣ノ掩護部隊ト交代同地附近ノ

測量掩護及森林測量掩護ニ任シアル外時々各地ニ行動シ徘徊匪賊ノ掃蕩ヲ實施セリ

九月二十六日以降秋期討伐計画ニ基キ土門子及東興鎮守備ノ一部及測量掩護ノ河野少尉ヲ残置シ其他ハ彈春ニ到リニテ日以降米岡部隊トシテ秋季討伐ニ參加中ナリ

三、鎮安嶺守備隊方面

密ニ土門子守備隊及管内滿洲國軍警ト協同シ主トシテ五道溝及大六道溝方面徘徊匪賊ノ討伐ニ從事セリ

四、八月二十六日以降各部隊ノ警備討伐豫定既報秋
季討伐計画ノ如シ

五、本月中ニ於ケル討伐ノ概況附表第一ノ如シ

第三 滿洲國軍警及自衛團ノ狀況

一、滿洲國軍隊

ノ各地滿軍ハ特異ノ事項ヲ認メス眞面目ニ警戒
勤務ニ任スル外日本軍ニ協力シ討伐掃蕩ニ任
シツ、アリ

二、本月末ニ於ケル滿軍第二營ノ編成配備附表第
二及附圖第三ノ如シ

二 滿洲國警察

ハ本月中特異ナル事項ヲ認メス眞面目ニ服務シ
アリ

之本月末ニ於ケル縣警察ノ配置附圖第四ノ如ク
人員武器ノ總數右ノ如シ

行政警察

幹部	士兵	小銃	拳銃	輕機關銃	備考
今日現在數	九二 (五)	三一 (三)	四〇 一	一五	一
前月ニ比シ増減數					
(一) 八日系ヲ示ス 人員中本表外夫役ニハラ有ス					

三 埤春縣森林警察隊募集訓練ノ狀況

縣警務司ニ於テハ中央部ノ指令ニ基キ森林集團伐採地ノ警戒ノ夕ノ森林警察隊ヲ編成ノコト、ナリ該隊警士ヲ縣内各地ヨリ募集中ノ處一四三名ノ應募者ヲ得タルヲ以テ九月十二日試験ノ結果八名ノ採用ヲ決定九月二十八日入隊式ヲ舉行シ約二週間訓練ヲ實施シタル後縣内指定ノ森林集團伐採地ニ配置ノ豫定ナリ、

四 自衛團ノ狀況

從來東興鎮ニハ保甲法ニ基ク自衛團ノ組織ナ

019245

カリシカ爲過般縣當局ヨリ當地警察署長宛自衛團縮減方指示準備中ノ處滿軍分水嶺派遣排ノ引揚東興鎮第四連ノ該地移駐等警備手薄トナリタル爲之カ設立ヲ急キ八月二十五日發團式ヲ舉行セリ而シテ憲兵滿警ノ指導ニ依リ東興鎮市内ノ警戒ニ任シツ、アリ
 本月末ニ於ケル人員武器ノ總數尤、如シ

區分	有給自衛團		無給自衛團	
	今月現在數	前月比増減數	今月現在數	前月比増減數
人員	三五四		五二	
小銃	三〇四		五二	

五、本月中ニ於ケル満軍及満警ノ討伐概況附表第

一ノ如シ

第五 政情民情

一、日満警務機關懇談會ヲ開催ス。

琿春日満警務機關連絡會ニ於テハ在琿春警務機關ト朝鮮對岸警務機關トノ關係ハ職務上密接ナル連絡ヲ採ル必要アリト爲シ八月三十一日

琿春領事分館ニ於テ之カ懇談會ヲ開催ス。

二、琿春國境監視隊訓練實施並兵舎建築狀況

琿春國境監視隊ハ九月三日延吉騎兵第十團ニ

入隊目下訓練實施中ニシテ明年一月訓練終了ト共ニ各地ニ配置セラル、豫定ナリ、

而シテ同監視隊兵舎ハ本郡琿春第二營本部ヲ分割シ其他馬滴達及東興鎮ニハ新築スヘク總工費三万八千圓ノ豫定ヲ以テ工事ニ着手シ十月末日迄ニ完成ノ豫定ナリ、

三 集團部落建設運動 ヲナス、

敬信保金塘村特別集團部落ハ其建設當初ニ於テ及對運動ヲナシタル件ニ關シテハ既報ノ通りナルカ其後當局ノ指導幹旋ニ依リ著々移轉

ヲ完了セシモ四道泡子部落民ハ移轉後ノ耕作
地及牧畜上、不便ニ堪エサル故ヲ以テ同甲内
ニ獨立セル集團部落ノ建設ヲ企圖シ關係部落
民八十三名協議ノ上集團部落建設ノ願書ヲ提出
セリ

四、滿洲國承認三周年記念式ヲ開催ス

縣公署ニ於テハ九月十五日滿洲國承認三周年
記念式ヲ開催ス

五、滿洲事變記念日行事左記、如ク實施セルカ一
般ニ盛況ニシテ及勳事項ナク終了セリ

左記

1. 連合演習

2. 講演

3. 實包射撃

4. 慰靈祭

5. 映画

第六 交通通信

一、交通

1. 尾灣子—琿春間輕便鐵道ハ日下順調ニ運行

中ナリ

2 國道ノ狀況

不縣内ニ於テ工事中ナリシ各地國道ハ土門子
 一東寧道ヲ除クノ外完茂シ天候ノ恢復ト共
 ニ地盤強固ニシテ日下自動車ノ運行順調ニ
 實施セラレアリ

ハ土門子一東寧道ノ工事ハ著々進捗シ日下土
 門子北方半料附近ニ達シ下リ

ハ大荒溝一土門子道末夕經費ノ關係上着手ス
 ルニ至ラズ

二 通信

管内通信

不晝夜共疎通良好ナルモ軍規定ニ依ル波長ヲ使用セハ不能目下試験中ナリ現在五六%使用ス
 八月十八日以來測量掩護無線分隊ハ土門子方面ニ在リテ掩護隊ト支隊本部及土門子守備隊間ノ通信連絡ニ任シ下リ

管外通信

一般ニ疎通良好ナルモ軍通信規定改正後感度甚下シニ重通信不能ナルヲ以テ片通信ヲ實施シ疎通良好ナリ

3 軍用電話ノ状況

イ 輝春―慶源間軍用電話ノ断線ニ關シテハ既報
 ノ通りナルカ材料等ノ關係ニ依リ未夕補修ノ
 運ニ至ラス

ロ 輝春―土門子間ノ軍用電話ハ輝春―土門子直
 通不可能ノ處縣當局ヲシテ補修ヲ實施中ナリ

第七 兵器

九月十六七日ノ両日ニ亘リ實施セラレタル師
 團長管理兵器検査ノ結果ニ基キ改善處理ヲ要
 ス、キ事項勘カラス其ノ主要ナルモノ如ク

携帶兵器ノ大部分ハ測量掩護ノ爲携行シ受授
 兵器ハ残留者少数ニ過キサリシモ兵器一般ノ
 程度ハ前年度ニ比シ降下ノ景況ニ下リ。頻繁
 ナル討伐及天候ノ關係上其ノ程度ノ降下ハ已ム
 ラ得サルモノト認ムルモ將來特ニ幹部以下ヲ
 督勵シ之カ程度ノ得特ニ關シ努力セントス。
 之第二中隊供用ノ十年式軽機關銃ハ全般的ニ衰
 損シアルヲ以テ逐次一銃宛工廠修理ニ提出ス
 ヘク目下之カ代品請求ニ關シ手續中ナリ。
 ③「アスタ」拳銃ハ一般ニ故障多シ逐次兵器部依託

修理ヲ實施シ之カ整備ニ努メントス

自動車ノ手入取扱ハ一般ニ不充分ナリ將來一層取扱者ヲ督勵シ之カ整備向上ヲ期セントス
九月二十六日乗用車(クワイク)一台加修ノ爲兵器部ニ送致セリ

豫テ建築中ノ彈倉守備隊ニ於ケル特種彈藥庫ハ九月二日之ヲ完成シ彈藥ノ移管ヲ實施セリ
然レ共當兵器庫彈藥庫銃工場等ノ諸施設等ハ今後改善ヲ要スルモノ尠カラズ將來關係各方
面ト連繫シ可及的速ニ之カ改善ヲ爲サントス

兵器業務ハ之カ平常化ニ伴ヒ逐次改善ヲ要ス
 ルモノアリ將來上司ノ指導ト當事者ノ指導督
 勵トニ依リ逐次整備改善ヲ行ハントス、
 又舊支隊ノ残置兵器中適宜整理ヲ可トスルモノ
 勘カラス將來師團兵器部ト連絡、上速カニ整
 理ヲ行ハントス、

第八 經理

一 金錢事項

關東軍測量掩護ニ要セシ經費中九月五日迄ノ
 分豫算額方申請ス、

2. 本月前途金ニ又百圓、九月十日師團經理會議ノ
爲主計羅南ニ出張ノ際受領帳還シ其支拂モ順
調ニ行ハレツ、アリ

二補給給養事項

ノ糧秣其他軍需品ハ師團經理部及羅南支庫ヨリ
訓戒經由順調ニ追送セラレ、土門子、鎮安嶺守備
隊ヘノ追送ハ本月二日實施セリ

ノ測量掩護隊タル宮澤古賀兩小隊ハ九月五日出
發ノ際十五日分ヲ携行セシメ更ニ九月十七日
十五日分ヲ追送セリ

3. 中村討伐隊測量掩護隊及九沙坪分駐所ノ給養ハ戰時給養規則ヲ適用セリ

4. 討伐隊及測量掩護部隊ハ降雨ト徒涉トニ依リ携帶口糧タル乾パンノ發黴セルモノ多量ヲ生シタルヲ以テ羅南支庫ヨリ追送ヲ受テ整備ス

三. 被服物品事項

1. 支隊ノ縫靴工具中使シ得ルモノハ僅ニ密針機械一機鉄釦一ノミナルヲ以テ之ヲ修理及調整ノ手續ヲ實施ス

2. 兵舎ニ於ケル手箱用トシテ棚ヲ作製中ナリ

四、營繕事項

一、師團經理部ニ於テ契約ノ彈春守備隊兵舎其他
修繕工事及土門子飛行場ハ何レモ九月初旬竣
工セリ

二、彈春守備隊糧秣庫改修工事將校集會所其他ノ
水道引込工事等ハ本月着手セリ

三、土門子守備隊醫務室及宿舍新築工事ハ師團經
理部ニ於テ彈春正木五右衛門ト契約締結シ既
ニ着手セリ

一、患者ノ狀況
第九 衛生

本月中ニ於ケル患者ノ狀況尤表ノ如シ

病名	舊患	新患	計	轉		後送	摘要
				治癒	死亡		
外痔核	—	—	—	—	—	—	—
急性胃炎	—	—	—	—	—	—	—
急性咽喉炎	—	—	—	—	—	—	—
頤部瘡	—	—	—	—	—	—	—
下腿止疹性濕疹	—	—	—	—	—	—	—
尋麻疹	—	—	—	—	—	—	—
掌部刺創	—	—	—	—	—	—	—
左關節炎	—	—	—	—	—	—	—

二 防疫

七、二十八日各便所、塵捨場排水溝ニ石油乳劑ヲ

撒布ス

三 衛生材料ノ狀況

本月間七ノ衛生材料ノ補給ヲ受ク

三日 陸軍倉庫ヨリ丁香油外十五点

四日 羅南支庫ヨリ「ハンクレアシ」外二十五点

六日 陸軍倉庫ヨリ衾避外一点

又子^請守備隊ニ左ノ如ク補給ス

保健錠 一²⁰ヶ 外一点

第一、馬事、軍犬

一、馬保育並衛生一般ノ状態ハ概ネ良好ニシテ特
記スヘキ事項ナシ

二、八月二十二日長嶺子附近ノ戦闘ニ於テ蹄鉄工兵
負傷入院ノ爲欠員中ノ處其交代トシテ母隊ヨ
リ補充ノコト、十リ九月十二日到着セリ

三、厩舎ノ改築工事ハ八月旬日之ヲ完了セリ

四、軍犬保育衛生一般ノ状態ハ概ネ良好ニシテ特
記スヘキ事項ナシ

討伐第一		討伐行動概要	
行動地方	行動部隊	行	動
要	要	概	要
摘	要		
八月十八日	杜荒子	八日十八日以降關東軍測量掩護ニ任シ アル中村少尉以下三名九月三日杜荒子ニ 到リ土門子河野部隊ト交代五日午後六 時歸還ス	
九月五日	北荒嶺	九月五日關東軍測量掩護隊トシテ宮 澤中尉以下三名及右賀特務曹長以下三 十名午前七時彈春出發大荒嶺附近ニ到リ 測量掩護ニ任スルト共ニ該方面ノ警備ニ 任シタリ	
九月九日	長嶺子	而シテ古賀部隊ハ二十日午後四時宮澤 部隊ハ二八日午後二時彈春ニ歸還セリ 九月九日午前五時中村少尉以下三名 彈春出發長嶺子附近ガクローマヤ	

<p>月八十月 日十=三</p>	<p>六日 八日</p>	<p>日八十月九 日九十月九</p>	<p>計一月九 日</p>	<p>日一</p>
<p>子陸家蘭</p>	<p>〃</p>	<p>近附子荒杜</p>		<p>近附</p>
<p>門 土</p>				
<p>九月十八日深谷特務曹長以下十名森林調査掩護ノ爲土門子出發蘭家陸子ニ向ヒ二十日午後四時三分歸還ス</p>	<p>歸還ス 九月六日大谷特務曹長以下土名森林伐採現地調査ノ爲出發シ八日午前十時</p>	<p>警戒ニ任シ九月二十九日歸還ス 至リ測量掩護ニ任スルト共ニ同地附近ノ</p>	<p>九月六日大谷特務曹長以下三十五名測量掩護ノ爲土門子出發杜荒子附近ニ</p>	<p>方面一帯ヲ掃蕩シ十日午後三時歸還ス 九月二十五日午前八時理香發シテ菅岡特務曹長以下二十七名、王八脖子、杜荒子附近ノ関東軍測量掩護ニ任シツリ</p>

自 九 月 二 十 二 日

至 九 月 二 十 四 日

大 六 道 清 奥 地

子 守 備 隊

八月二十四日以陣河野少尉以下三土名杜荒子
に至り陣春中村部隊ト交代測量掩護ニ仕
スル外同地附近ノ掃蕩ヲ實施シ九月
十四日午後四時三十分歸還ス

九月二十日木村大尉公鎮安嶺部隊及陣
春中島部隊満軍領警ノ一部ヲ併セ指
揮シ大六道清ニ於テ、麥粉満載ノ支那
馬車及満軍護衛兵ヲ奇襲セル候國志
部隊ノ馬匪賊混合ノ共匪約百五十名
ヲ追撃シ打撃ヲ與ヘ掠奪品全部ヲ
奪回シ敵ハ西南山奥地密林中ニ遣走
ス更ニ之ヲ追撃スルモ逐ニ賊影ヲ失シ
敵ヲ欺騙ノ目的ヲ以テ一時土門子ニ歸還
翌二十日ニ隊ニ分レ敵ヲ要撃ニ努ム午前六
時三十分鈴木部隊ハ大六道清奥地ニ於テ約

敵ノ擧書

多大ナリ

奪回品

支那馬三九頭

牛 二頭

馬車 十三台

牛車 二台

麥粉ニ表

<p>日 十 月 九 自 日 二 十 月 九 至</p>	<p>日 六 月 九 自 日 八 月 九 至</p>
<p>地 奥 溝 道 六 大 地 奥 溝 道 五</p>	<p>地 奥 溝 道 五</p>
<p>安 鎮</p>	
<p>九月十日午後零時出發鈴木中尉以下十七名葦塔溝(五道溝北才三料)ニ現ハレタル自敵海一隊ノ共匪十六名ヲ追撃シ大六道溝奥地ニ於テ匪賊ト交戦敵ハ大西南方ニ向密林中ニ潰走セルヲ以テ一部ヲ追撃シ地ノ掃蕩ヲ行ヒ潜伏逃避ノ要撃ニ努メ主力ハ更ニ杵房子南谷奥地ニ向ヒ追撃セ</p>	<p>三名ノ共匪ト交戦打撃ヲ與ヘ附近一帯ヲ掃蕩シ二十四名ヲ駐屯地ニ歸還ス 九月六日午前十二時三十分鈴木中尉以下十六名大六道溝ヲ経テ五道溝奥地ヲ掃蕩シ標高1009東方一料密林中ニ於テ共匪假根據地ト思ハル、半永久的小屋ニテ發見奇襲セルモ逃走シアリ、之ヲ焼却附近一帯ヲ掃蕩シ八日午後二時三十分歸還ス</p>
<p>敵損害 多大ノ見込</p>	

日 二 十 二 日 九
日 四 十 二 月 九

地 奥 溝 道 六 大

隊 備 守 嶺

ルモ遂ニ賊影ヲ失シ同地ニ掃蕩ヲ行
ヒ十二日午後六時十分歸還ス

九月二十二日午前八時十分出發鈴木中尉以
下二十名大六道溝ニ於テ麥粉満載ノ支那馬車
及滿軍護衛兵ヲ奇襲セル候國忠部隊ノ馬匪
賊混合ノ共匪約百五十名ヲ追撃土門中隊長
ノ許ニ在リテ交戦掠奪品ヲ全部奪回シ敵
隊ヲ奥地密林中潰走ス更ニ之ヲ追撃ス
ルモ遂ニ賊影ヲ失シ敵ヲ欺騙ノ目的ヲ以テ時
土門子ニ歸還ス 翌ニ言瀬春部隊ノ十
名ヲ併セ指揮シ大六道溝奥地ニ於テ午前六
時十分共匪約三十名ト交戦打撃ヲ與ヘ敵ハ密
林中ニ潰走セルヲ以テ之ヲ急追スルモ遂ニ賊
影ヲ失ス附近ニ掃蕩シ二十四日午三時三
十分歸還ス

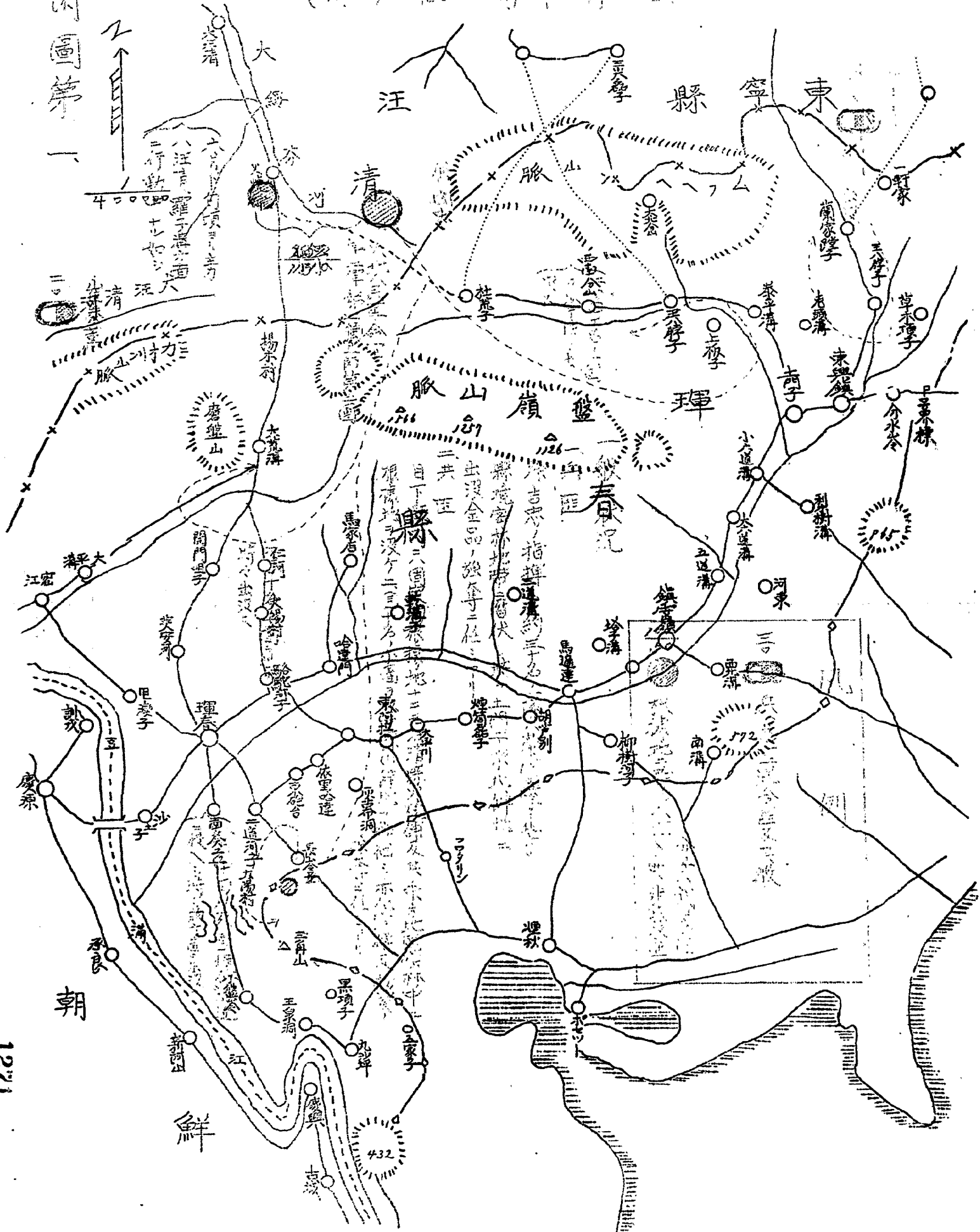
土守ニ至

九月十日	自九月十日	自九月十日	九月八日	八月九日	日
葦塘溝	大六道溝地	胡芦別	蘭家窪子	大小灣子	一帶
第六連			連		
捕同日前十時歸還ス	中吉盧玉珩以下十名自衛團數名ヲ併セ葦塘溝ニ午前九時到着、共匪二名(東北人民革命軍、武装匪)ヲ逮	李排長以下二十名、採金會社警備員三名ヲ指揮シ午後六時小六道溝出發、大六道溝奥地一帯ヲ掃蕩シ十六日午後四時歸還ス	祖排長以下二十名八午前八時胡芦別ニ至リ國境監視隊ノ兵舎修築ヲ護衛ス、日下ノ所十月末歸還ノ豫定	少尉排長以下二十名八午前七時守備隊出發、大小灣溝附近一帯ヲ掃蕩シ午後六時歸還ス	咀子、王八脖子附近一帯ヲ掃蕩シ午後六時歸還ス
取調中	三名ハ鑛安嶺	賊情(關シ)	右全	右全	

彈春北六區縣分市要圖

(此圖係用下月七)

附圖第一

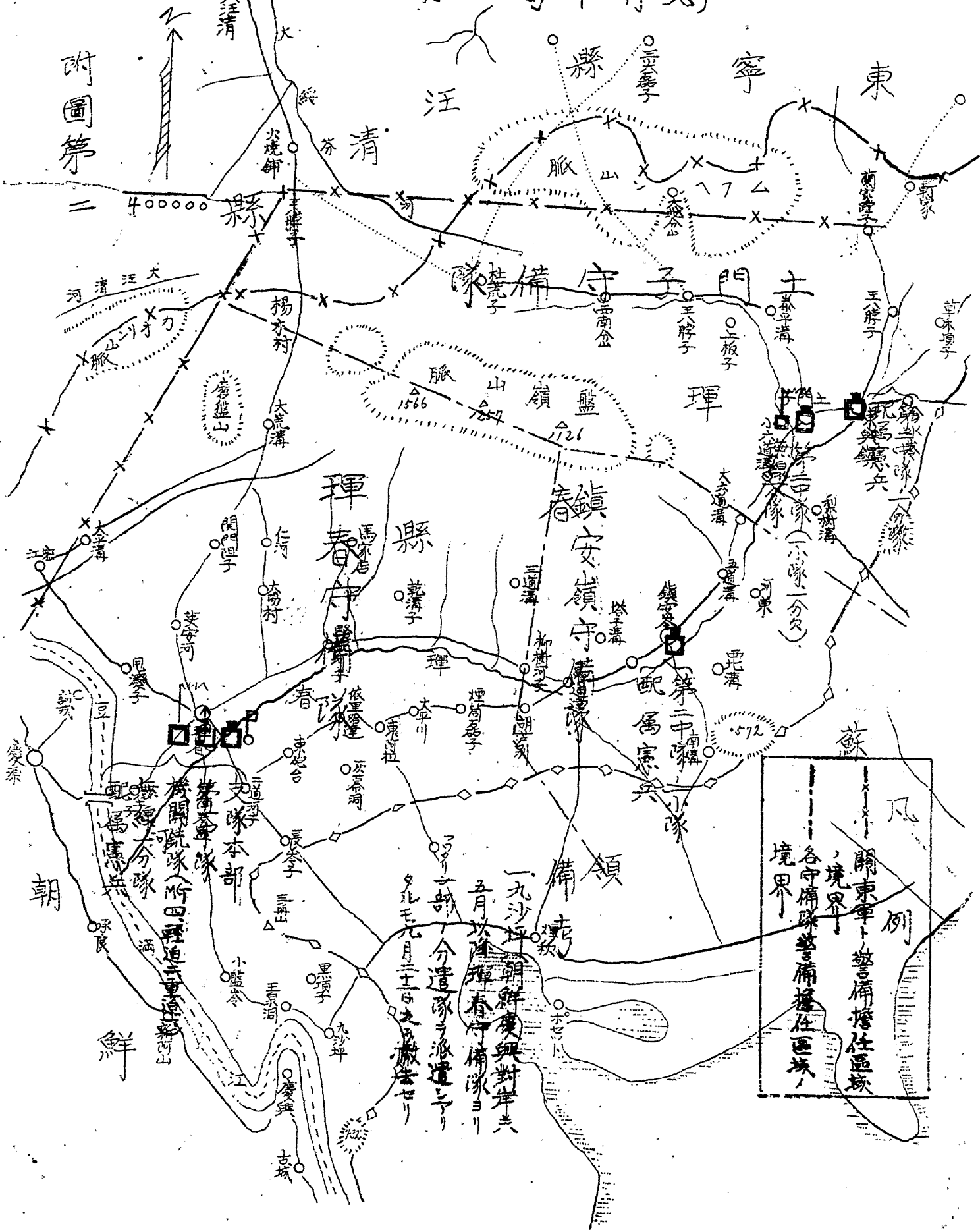


1271

圖要置配力兵隊支春琿

(ルケ於ニ旬下月九)

附圖第

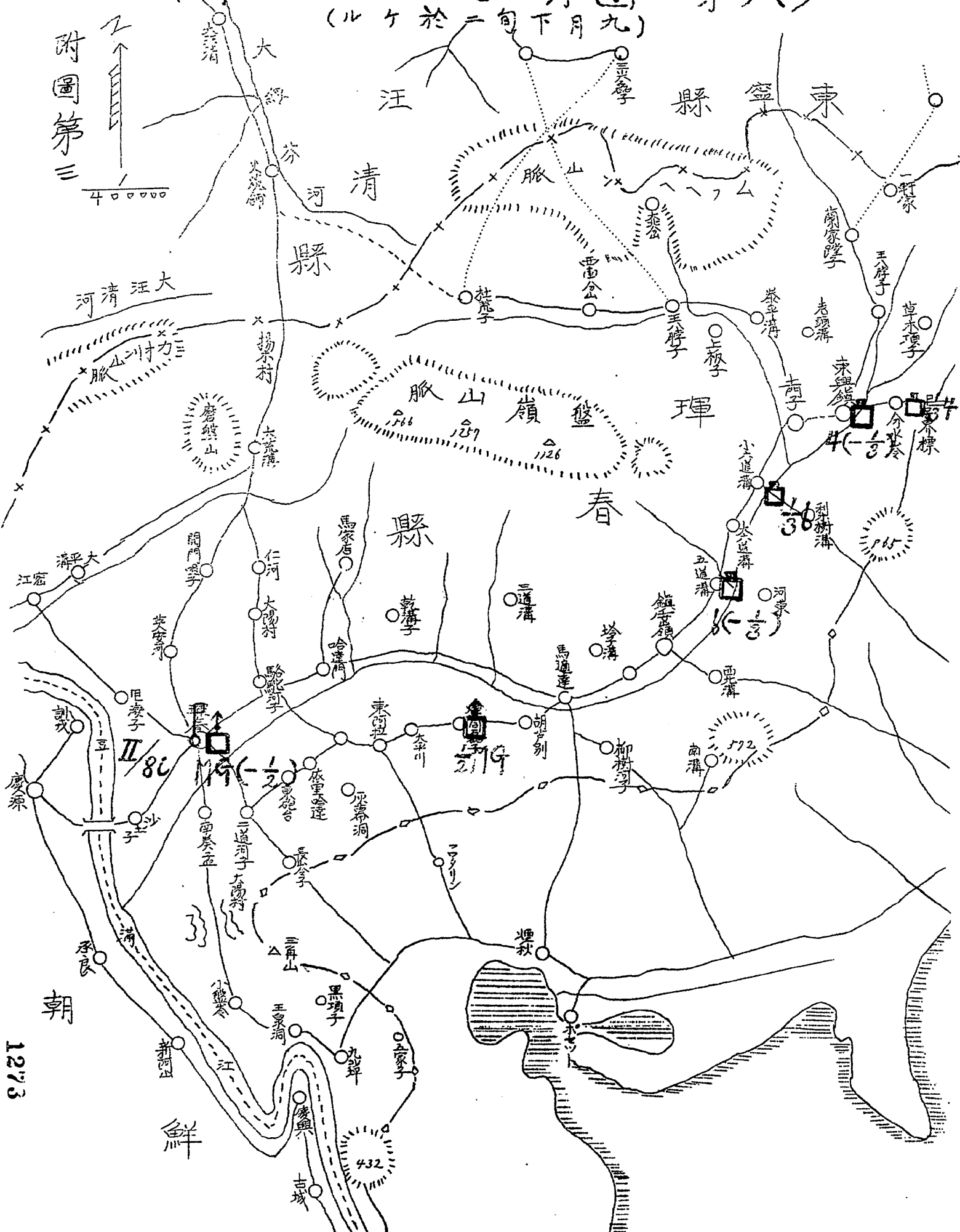


1272

步兵第八團第二營(五連)兵力配備要圖

(九月下旬二於ヶル)

附圖第三

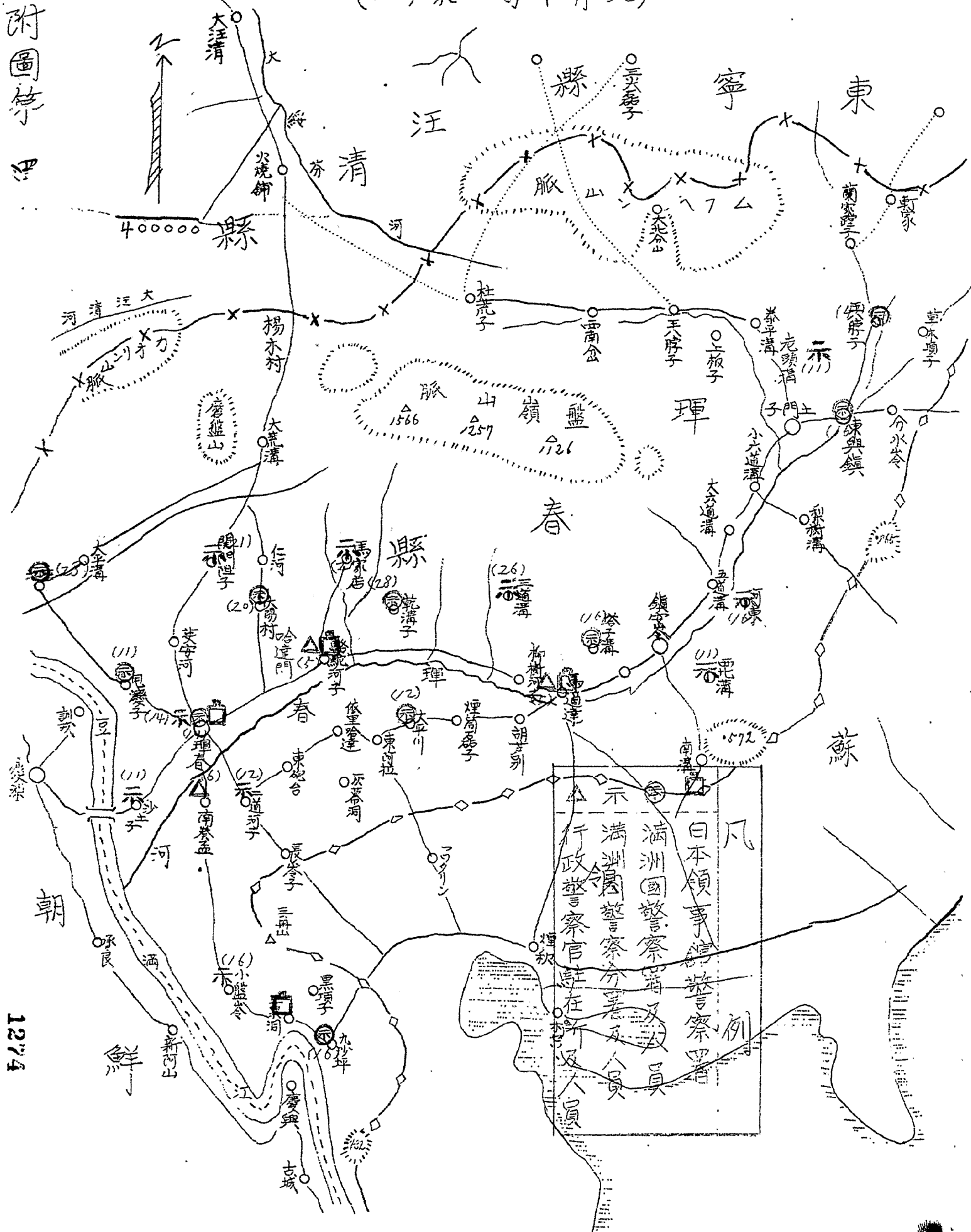


1273

圖要備配察警國洲滿及察警館事領

(ルナ於二旬下月九)

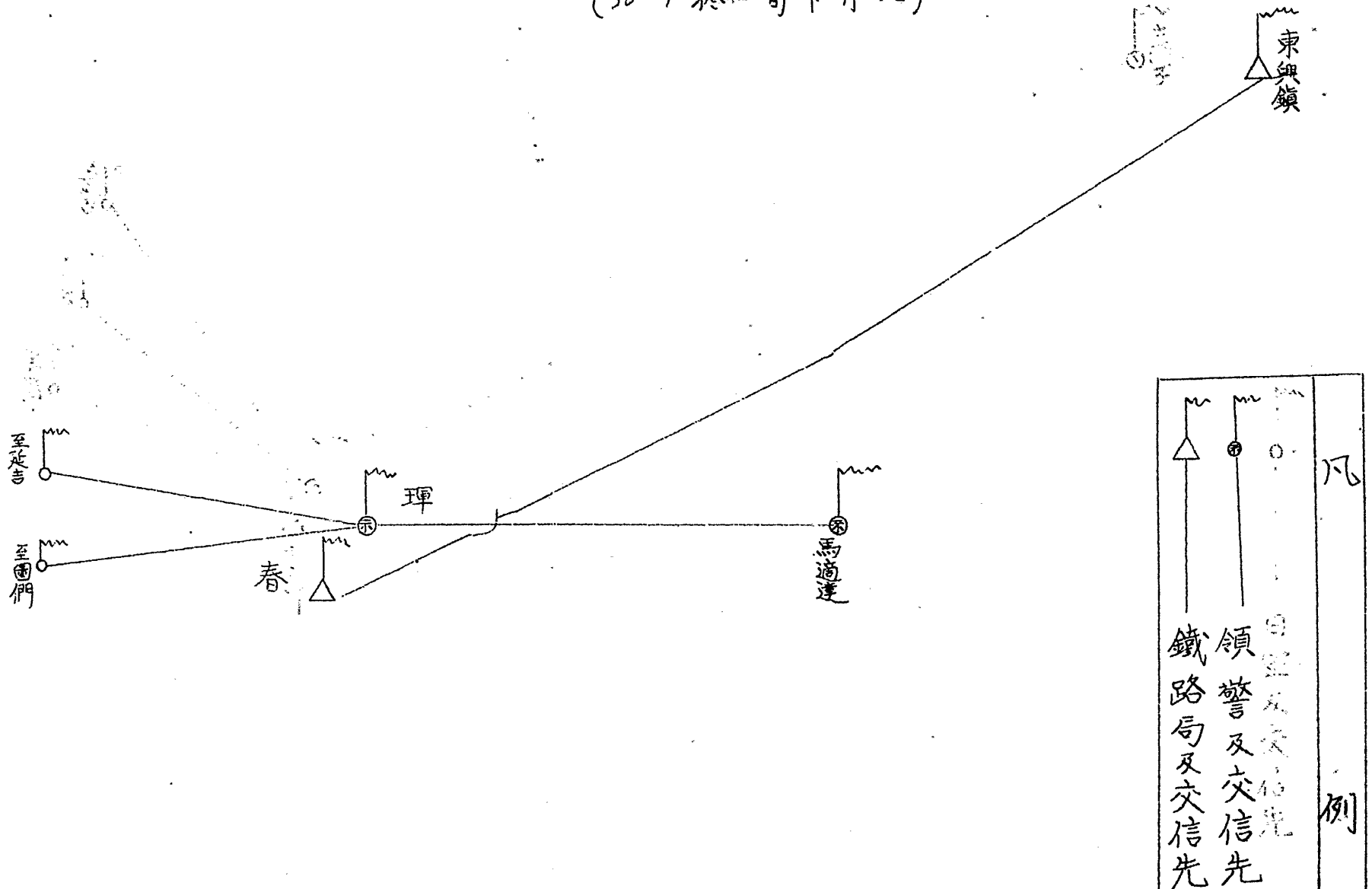
附圖第 四



1274

管内無線電信網要圖
 (九月下旬於此)

附圖第七



各分屯守備隊編成裝備表

昭和十年九月五日調

備考	合計	九沙坪 <small>臨時</small>	鎮安嶺	土門子	彈春	隊別		人員	兵器	馬	職員表
						別	級				
一、本表に憲兵無線班ヲ含ミマ 二、本表外九如ノ軍馬及臨時雇傭人ヲ有ス 通譯八運轉手ニ馬丁四筆料ニ廚夫一計一六	1				1	中	砲	1			
	3			1	2	大	尉	3			
	6			1	1	4	中	少尉	6		
	4				2	2	特	曹	4		
	6				2	4	曹	長	6		
	26			4	5	17	單	伍	26		
	35			3	9	23	上	兵	35		
	174			24	48	122	一	兵	174		
	275			32	68	175	小	計	275		
	1					1	銃	工長	1		
	1					1	生	計	1		
	2				1	11	計	手	2		
	2				1	1	單	医	2		
	3			1	1	1	看	長護	3		
	3				1	2	看	兵發	3		
	2				1	1	單	馬	2		
	14			1	5	8	小	計	14		
	287			33	73	183	合	計	287		
	8			1	3	4	擲	筒	8		
	15			3	3	9	控	機	15		
4					4	砲	機	4			
3			1	1	1	狙	砲	3			
2					2	狙	砲	2			
8				8	7	駟	馬	8			
13				43	16	駟	馬	13			
21				4	17	計	計	21			
			中村 榮 権 部	大村 木 村 修 一 少尉 河 野 正 見	大村 木 村 修 一 少尉 河 野 正 見	中村 官 澤 好 生 少尉 中 村 好 生 憲 兵 德 永 勇 介	中 依 米 田 米 吉 大 村 榮 田 護 彰 中 村 官 澤 好 生 日 中 官 澤 好 生 少 村 中 村 好 生				

説明ターゲット

次の原稿

不鮮明

3年12月18日

主務者又は

撮影立会者 加部東保夫



間島臨時派遣隊彈藥工廠編成裝備表

昭和十一年九月二五日調

備考	合計	機關銃隊	第三中隊	第二中隊	憲兵	無線班	本部	區分		兵器	馬	馬匹
								大	小			
	1						1					
	3		1	1			1					
	6	1	2	2	1							
	4		2	2								
	6		1	1	2	1	1					
	26	4	6	6	6	1	3					
	35	7	11	10	3	1						
	17	37	7	73		11						
	27	51	7	75	15	14	6					
	1						1					
	1						1					
	2						2					
	2						2					
	3						3					
	6	2	2	2								
	2				1	1						
	17	2	2	2	1	1	7					
	273	53	77	74	16	15	15					
	274	50	101	101	7	12	3					
	8	12	12	12	14	2	4					
	6	2	4	4								
	8	2	2	2								
	4	4	4	4								
	2	2										
	1						1					
	2	2										
	7				5		2					
	3	1					2					
	3	3										
	6	6										
	2	2										
	21	10			5		4					

一 本隊八支隊の機關銃隊(二分隊)編成トス
 二 本隊八支隊の機關銃隊(一分隊)編成トス
 三 無線班六挺短銃(一十五年式)一挺機關銃一挺電燈機六挺電機機三挺有ス
 四 中隊八小隊編成トス
 五 第一中隊二等兵中隊員九月五日迄現員有ス
 六 第一中隊二等兵中隊員九月五日迄現員有ス
 七 第一中隊二等兵中隊員九月五日迄現員有ス
 八 第一中隊二等兵中隊員九月五日迄現員有ス

1280

秘

歩兵第七十三聯隊國境守備隊月報
自九月一日起至九月三十日

目次

第一章 警備ノ概況

第一節 舞内警備

第二節 對岸警備

第二章 對岸ニ於ケル政情並治安ノ概況

第一節 對岸ニ於ケル政情

第二節 對岸ニ於ケル治安概況

第三章 討伐ノ概況

第一節 和龍縣

第二節 安圖縣

第四章 對岸ニ於ケル馬匪賊ノ概況

第一節 和 龍 縣

第二節 安 圖 縣

附 表

第一編 成 裝 備 一 覽 表

附 圖

第二 吳 公 地 區 警 備 行 軍 實 施 一 覽 表

第三 對 岸 馬 匪 賊 之 狀 况 要 圖

第一章 警備、概況

第一節 縣内警備

當守備隊管区内ハ一般ニ平穩ニシテ特記スヘキ
事項無キモ常ニ國境ニ沿フ地區ニアリテ警備行
軍及演習ヲ實施シ且警務機關ト綿密ナル連繫ヲ
採リ情報ノ交換勲集ニ努メツツアリ

然レ共モ安圖縣界ニ在ル農事洞與地ニ至リテハ
警務機關ノ稀薄ナル為賊匪錢永林配下ノ出沒橫
行ヲ見ルコトアルヘシ

演習行軍實施要圖附圖第一ノ如シ

第二節 對岸警備

對岸和安地方一帯治安ノ状態ハ前月ニ比シ大差
 ナク警備諸機関ノ努力ニ依リ一般ニ小康ヲ保持
 セラレアルモ諸方面ニ於ケル匪賊ノ状況ハ別項
 ニ述フル如ク近時其ノ数稍々増加ノ謀アリテ其
 行動モ又漸次活潑ニナリツツアルリ
 九月中旬頃安圖縣卓廠子ニ根拠ヲ有スル革命軍
 ニ於テハ數回ニ渡リ安圖城襲撃ヲ敢行セシモ警
 備機ノ努力ニ依リ撃退セシメタリシ尚收穫期ナ
 ルヲ以テ樂觀ヲ許ササルモノアリ

第二章 對岸ニ於ケル政情並岩安ノ概况

第一節 對岸ニ於ケル政情

康徳二年度間島省國有林伐採計畫ニ関シ間島省
 二於テハ從來伐木業者カ動モスレハ匪賊ト通シ
 地方ノ治安ヲ紊亂セル情无ニ鑑ミ通匪ノ根絶ヲ
 期セン為中央ニ於テ規定セル「康徳二年度國有林
 伐採計畫並之ニ伴フ警備計畫」ニ依ル外間島省内
 國有林伐採並之ニ伴フ規定ヲ樹テ新ニ森林警
 察隊ヲ編成シテ警備ニ任セシメ左記要領ニ依リ
 本年度森林伐採ヲ行フ事トナリ追テ本年度伐採
 許可區域ハ差當リ和龍縣三道溝奧地官地方甌峰
 里地方ノ一ヶ所若クハ二ヶ所並ニ延吉縣必用營奧地
 二一ヶ所指定セララルヘク旺清縣琿春縣ニ於テハ尚
 三

未定ナリ

一、警備ニ就テ

ハ各縣ノ警備隊ノ編成及訓練ハ九月盡日迄ニ之ヲ終了スルモノトス

ニ省警務廳ハ森林警備隊ノ編成裝備任務駐屯地警備要領等所要事項ヲ關係員滿軍隊ノ長ニ通報スルモノトス

ニ伐採現場ト後方ノ連絡用トシテ既設ノ警備電話ヲ利用スル外新設ヲ要スルモノハ省警務廳ニ於テ實施スルモノトス

ニ森林事務所長ハ伐採人及其ノ使用者ノ使用ス

刻印ノ使用區分ヲ明ニシ關係目滿軍警ニ通告スルモノトス

二、森林警察隊ノ編成要領其ノ他

一、森林警察隊ノ編成並ニ之ニ伴フ増員ヲ伐採事業着手一ヶ月前ニ完結スルモノトス

編成ニ際シテハ現有警察隊員中ノ優秀者ヲ選抜シ之ヲ基幹トシ新採用者ヲ配ス

三、森林警察隊ノ裝備

巡官以上ハ拳銃警長警士ハ小銃トシ一隊ニ付可成輕機関銃一乃至二ヲ配當スル外縣城及森林警察隊ニ短波無線ヲ設置ス馬匹ハ一隊概ネ

四

總員ノ三分ノ一ヲ標準トス

六、武器彈藥ノ取扱

銃器彈藥ノ保管使用ニ付テハ嚴密ナル監督ヲ
實施シ特ニ輕機ハ日系警察官ニ於テ保管取扱

ノ責ニ任スルモノトス

三、長直對岸五口江流域ニ於ケル亦拔作業ニ對
スル警備ノタメ七月十八日小馬鹿溝ニ於テ配
置サレタル安圖縣弁入自衛團員五名ハ事業ノ
終末ニ伴ヒ警備應援不用トナリタル為九月五
日解散セシメタリ

森林警察隊員募集

和龍縣ニ於テハ今般森林警察隊員ヲ募集中ノ處
 南坪第四區管内ニ於テ志願者百四十一名アリ九
 月十五日同縣柿谷指導官來南シ試験ノ結果六十
 二名ヲ採用セリ而シテ九月二十日縣公署ニ集合セ
 シメ約三週間所要ノ學術科ヲ講習セシメタル後
 各地ニ配置セシムル筈ナリ
 和龍縣内ニ窮民救済金御下賜
 滿洲國皇帝陛下ニハ内帑金ヨリ各縣ニ窮民救済
 金トシテ御下賜セラレタルカ和龍縣ニハ八四五
 圓ニシテ縣當局ヨリ各社ニ傳達下賜配當セリ

窮民救濟篤志狀況

延吉縣老頭溝居住清人唐錫瑞ハ和龍公署ニ麥粉
 五〇石ヲ持參同縣内窮民ニ贈與セラレタキ旨申
 出タル為縣公署ニ於テハ之ヲ賣却現金二百五円
 トナリタルヲ以テ之ヲ各社ニ配當分配セリ

第二節 對岸ニ於ケル治安概況

一、對岸和龍安圖兩縣内ニ根據スル馬匪賊ノ分布ハ概ネ前月ト大ナル移動ナク其ノ勢力伸張ニ腐心シアリテ其ノ行動活潑ニシテ偷安ヲ許サ、ル狀況ニシテ目下何レモ小部隊ニ分散豆満江方面ニ出沒シ依然金品掠奪入質拉致或ハ主要都市襲撃計畫ヲ企圖シアルモノノ如シ

二、和龍安圖兩縣界ニ蟠居中ノ合流匪團ハ安圖縣車廠子地方ヲ根據トシ日滿軍警ノ對伐ニ依リ損害ヲ避クルタメ大部ノ行動不利ナリトシ小部隊ヲ各地ニ分散敦化縣地方並和龍縣紅旗河流域直對

六

岸地方ヲ行動區域トシ阿片物資入質拉致ニ狂奔
 竊内侵入ノ機ヲ窺ヒツツアルカ如シ

三、中國共產黨東滿特別委員會(共匪)ハ主義超越軍一
 合同化ヲ提唱シツツアリシカ最近錢永林一派ノ
 合流匪アリ 同代ヲ連絡指道機長ニ推戴反日抗
 日政策強化實行ニ就ケルモノノ如シ

第三章 討伐ノ概況

第一節 和龍縣

特記スヘキ事項ナシ

第二節 安圖縣

安圖縣城駐屯軍吳營長部隊ハ九月十八日在車廠

子入民革命軍第一團長林部隊約八十名同縣老頭溝東方約二十丁ニ進出シ縣城附近一帯ヲ掠奪スルト共ニ縣城内ニ侵入セントスル氣勢ヲ監視シ一擧ニ之ヲ前記老頭溝ニ要撃シ同月二十一日迄四日間ニ渡リ相當激戦ヲ交ヘタリ

第四章 對岸ニ於ケル馬匪賊ノ概况

第一節 和龍縣

一 馬兵匪ノ状況

縣西部安和縣界地方ニ蟠踞セル振金山約七〇新山約五〇、東山好約八〇計約二〇〇名ノ馬兵匪ハ第一獨立師長王德泰命ニ依リ安圖縣地方

七

ニ移動中ナリ

而シテ殘置部隊ハ夫々秋季討伐ヲ虞レ各地ニ
分散食糧物資ノ掠奪工作ヲ為シ目下冬營準備
ニ忙殺中ナリ

ニ共匪ノ狀況

縣内西半部ニ蟠踞スル主ナル共匪ハ東北抗日
救國軍第一師第三團ニ屬スルモノニシテ常時
和龍縣三道溝及太拉子延吉縣三道溝方面ニ出
没シアリシカ 最近日滿軍警討伐積極化ヲ怖
レ各地ニ分散移動セルモノノ如シ

第二節 安圖縣

一、馬兵匪ノ狀況

縣内ニ蟠踞スル馬兵匪ノ概況ハ八月申ニ比シ
 稍々増加ヲ示シ居リテ移動頻繁ナルト交通通
 信不便ノ爲其ノ實數ノ的確ヲ期シ難シ目下主
 ナルモノハ三江好約ニ五〇、錢永林ニ三〇、金一龍
 約ニ五〇、田禮山約ニ三〇、王德泰約ニ三〇、海龍軍
 一、派約五五〇、吳義成一派約三〇、孫成龍約三
 〇ニシテ依然糧食缺乏ト冬令準備並日滿軍警ノ
 討伐ヲ避クル爲小部隊トナリ食糧金品ノ掠奪
 ヲ敢行シアリ

二、共匪ノ狀況

ハ

縣内ニ於ケル武装共匪ハ東北抗日救國軍第一
 師第二團ニシテ車廠子地方ニ根據シ馬兵匪ト
 提携連絡ヲ密ニシ及滿抗日行動ヲ持續シアリ
 テ目下各地ニ分散出没シ縣城襲撃入質拉致或
 ハ金品掠奪工作ヲ爲シアリテ之カ討伐殲滅ハ
 困難ナル實情ニアリ

<p>九、一、二</p>	<p>九、一、</p>	<p>月 日</p>	<p>和龍縣 匪賊出沒狀況</p>
<p>勇化社 集團部落</p>	<p>崇善社 瞎子溝</p>	<p>場 所</p>	
<p>共 匪 五</p>	<p>共 匪 三</p>	<p>匪賊種類 員數</p>	
<p>同日午前土時頃全部落居住鮮人金 姓女ハ農耕ヨリノ暇途同地集團部 落北方一里ノ地兵空屋ニ於テ各自長 銃携行ノ共匪四五名カ焚火ヲ濡衣 ヲ乾シ炬ルヲ發見同地集團部落警戒 部隊ニ急報同警戒部隊ノ來動ニ依リ之ニ應 スル氣配ナク何レカ立去レリ</p>		<p>概 要</p>	

九

		安圖縣 匪賊出沒狀況		月	日
九、七	安圖縣 大馬底洞	九、五	安圖縣 紅旗河直洞	九、一	安圖縣 荒溝
	共一匪	共一匪	共一匪	共一匪	共一匪
<p>衣類食糧(時價三円)強奪セリタリ</p> <p>取及負取ノ為今地ニ赴キ上記賊ノ為</p> <p>延社居住趙應五外ニ名ハ白桦皮採</p> <p>方ヲ命シ大馬底溝間水坪ニ面ニ向ヒタリト</p>		<p>強奪食ヲテシ石人溝自衛團ニ脅迫狀ヲ送還</p> <p>ニ侵入メリケン粉一袋地下足袋一足(價拾圓)ヲ</p> <p>中ニ移動シ露處ニ日下前八時頃察奎習カ</p> <p>同日午後一時頃自稱革命軍直洞附近密林</p>		<p>當地居住鮮人金成奎當六十五年外一名ハ藥</p> <p>草採取ノ夕々安圖縣奧地ニ赴ク途中心地ニテ</p> <p>賊ノ為現金一千元ヲ強奪セリタリ</p>	
		概		要	

安圖縣匪賊分布狀況						
頭目又ハ人名	入馬數	岩及 彈藥數	横行地區 根據地	色彩	統	摘
革命軍 (柘蘭) 三〇	一六〇		水溪洞	〃	共匪	
革命軍 (黑虎) 二〇	二〇		老頭溝	〃		
革命軍 (葉) 一一	一一		頭道溝	〃		
紅軍 張林 一五	一五		大甸子	〃		
王德泰 三〇	三〇		軍李	〃		
大和軍 (李德成) 七〇	七〇		老令	匪賊		

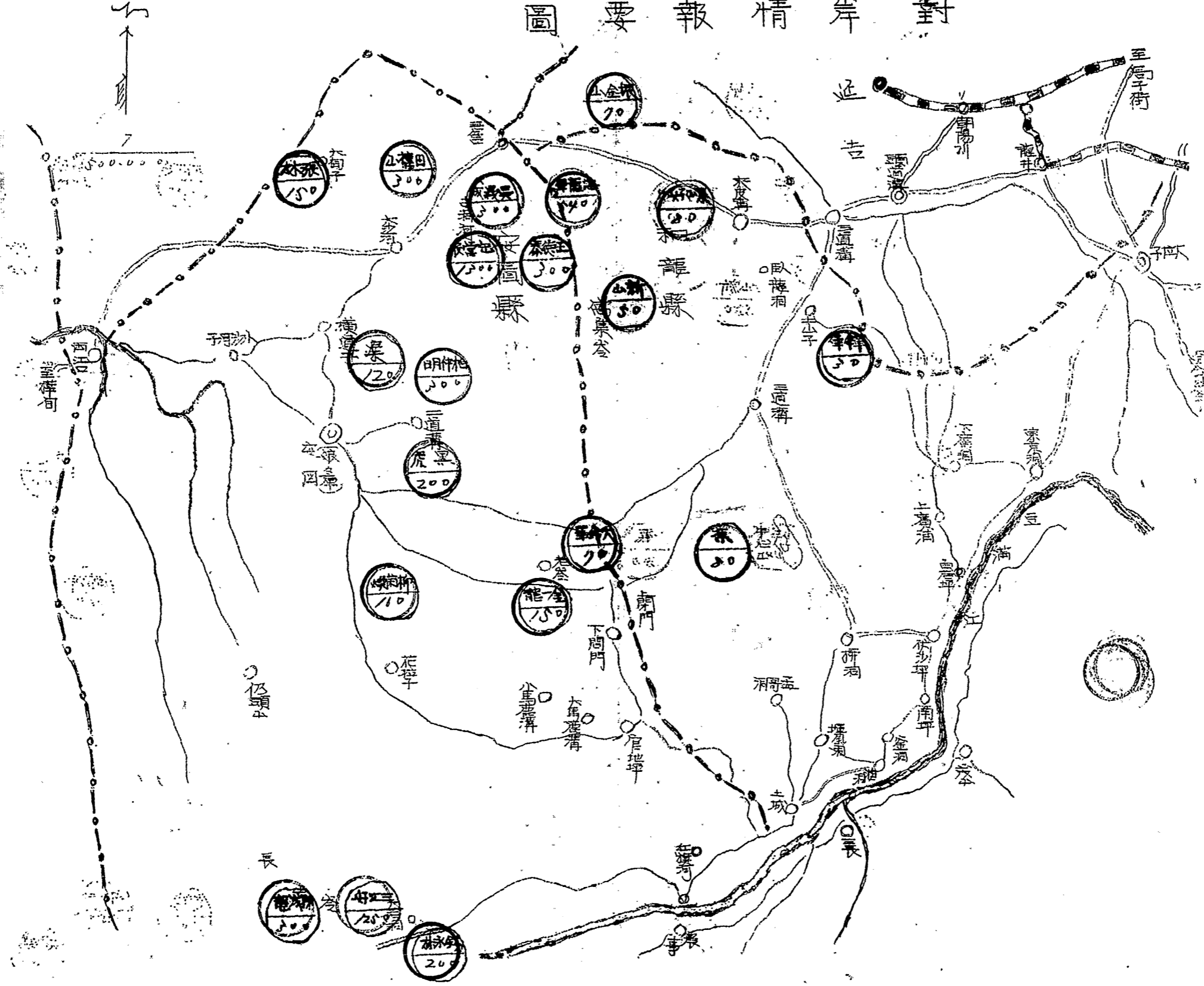
歩兵第七十三聯隊國境守備隊編成裝備一覽表

昭和十年十月一日調

備考	合計	小三隊長	中隊	本部	守備隊區分		職	摘
					隊	分		
一 コ附シアルハ 無線電信所要員ヲ示ス	1			1	少	副	編成人員	計
	2		1	1	尉	大		
	2	1	1		中	隊		
	3		3		曹	特		
	3 (1)	1	1	1 (1)	長	曹		
	10	2	6	2	兵	隊		
	21 (1)	2	14 (1)		兵	隊		
	149 (1)	38	111 (1)		兵	隊		
	191 (2)	49	137 (2)	5 (1)	計			
	2	1		1	計			
	1			1	區	軍		
	2	1		1	隊	領		
	1			1	靴	隊		
	1			1	隊	維		
	5	2	3		隊	補		
	203 (3)	51	140 (2)	10 (1)	計	總		
	1			1	馬	乘	馬正	
	1			1	計			
	4	1	3		機	重	裝	
	4	1	3		機	輕		
1		1		砲	迫			
1		1		砲	輕			
4	1	3		砲	陣			
		小隊長 森田一壽	中隊長 濱田八郎	松澤正雄	職		員	
				大尉一名(陸軍少佐分遣) 中隊長(陸軍少佐分遣)	摘		要	

1302

對岸情報要圖



1305

步兵第七十四聯隊國境守備隊月報
自九月三十一日
至九月三十一日

步兵第七十四聯隊國境守備隊月報



目次

第一 警備討伐ノ概況

鮮内警備

第二 對岸ニ於ケル政情及治安ノ概況

一 治安概況

二 政情一般

三 宣傳政治工作ニ關スル事項

四 馬匪賊及鮮匪團ノ狀況

五 日軍ノ狀況

六 滿軍警察隊自衛團ノ配置移動及教育訓練

ニ關スル事項

第三 交通及信補給衛生其他ニ關スル事項

附 表

第一警備討伐ノ概況

惠山鎮守備隊ハ九月十日鈴木少尉以下一
八名ヲ以テ石記ノ如ク行軍ヲ實施セリ
下馬生谷ノ新巨里―東興里―朴氏堡里―江
口里―惠山鎮

第二對岸ニ於ケル政情治安概況

對岸長白縣下ニ於ケル治安情勢ハ客月ニ引
續キ更生ヲ込ル事ナク現狀維持ノ状態ニア
リテ鬼ルヘキモノナク種々治安策ニ腐心シ
アル模様ナルモ之亦其實蹟擧ラサル状態ニ
アリ

阿片採乳期シカモ繁茂期ニシテ隱匿自在ヲ
 幸トシ暴戾飽クナキ悪虐ノ限リヲ盡シ良民
 ヲ苦シメタル馬匪賊ハ阿片採乳終了ト共ニ
 其方向ヲ轉シ越冬準備ヲ開始セシモノノ如
 ク被服食糧品等ノ掠奪ヲ敢行シテ依然
 良民ハ其魔手ヨリ脱スルヲ得ス匪禍ノ渦中
 ニ呻吟シツツアリ
 尚小群ニ分散シ各所ニ方没シアリタル匪賊
 ハ漸次頭目毎ニ集團シ各地ニ潛在シ其ノ一
 部ハ既ニ掠奪品ヲ運搬シ根據地ニ引揚タル
 模様ナルモ又隣縣ヨリ新頭目ノ指揮スル匪
 賊ノ長白縣ニ侵入シ來リ關東軍ノ秋季討伐
 ヲ控エ他縣ヨリ侵入スヘキ匪賊ノ増加ヲ想
 到スル時依然縣下ノ治安情勢ハ偷安ヲ許サ

サルモノア張テ思ハシム

二政情一般

長白縣警務局長ノ任命

從來欠員中ナリシ長白縣警務局長ノ後任ト
シテ尤記ス者新任シ去ル九月十九日着任セ
リ

尤記

前安東縣警務局長

劉經傳

不警備打合せノ為長白縣江口參事官及春日指
導官ノ兩名ハ九月二十八日急遽臨江ニ召集
セラレ出張セリ之等兩名帰還後十月二、三日
頃長白縣公署ニ於テ警備會議ヲ開催セラル
ル筈ナリ
其他特記スヘキ事項ナシ

三、宣傳政治工作ニ關スル事項

月間該當事項ナシ

四、馬匪賊及鮮匪團ノ狀況

繁茂期ニ於テ大ナル部隊ヲ以テ行動スルノ

愚ナルヲ悟リ從來隱匿自在ナル小區分ニ編

成シ各所ニ安設良民ヲ苦シメツアリタル對

岸匪賊モ阿片採乳終了ト共ニ漸次頭目毎ニ

集團シテ各地ニ潛居シ目下越冬準備トシテ

被服食糧品ノ掠奪ヲ目論見ツツアル如ク中

ニハ既ニ越冬準備ニカカリタルモノアリト

言フ

又九月ニ入りテヨリ人員ハ余リ多カラサルモ

隣縣ヨリ新頭目ノ指揮スル匪賊ノ長白縣ニ

侵入シ來ルモノ著シク増加セリ

○九月下旬ニ於ケル匪賊ノ状況別紙要圖ノ如ク其々翌々状況ハ附表第二ノ如ク
 朝鮮匪團ノ状況ニ關シ特記スヘキ事項ナシ
 五日軍ノ状況

月間該當事項

六、滿軍警察隊自衛團ノ配置移動及教育訓練ニ關スル事項

ハ山林警察隊編成式舉行セラル

主トシテ長白臨江撫松縣界附近ニ配置セラ
 ルル為今回安東省ニ於テ森林警察隊(七百名)
 ヲ編成セラレ其編成式ハ去ル九月二十日長
 白縣公署ニ於テ行ハレタルヲ隊員ノ為ノ武
 器被服未整備ノ為未タ奧地ニ入レス之カ配
 置ニ就クハ十月中旬頃ナルトノコトナリ

2. 對岸滿洲國正規軍ヲ配置セラル
 業ニ隋兎ハヨリ六道溝方面ニ空動待機中ナ
 リ。滿洲國正規軍第三營長滿少校ノ引卒セ
 ル一々營(三々連)ハ九月十五日第一旅司令部
 令ニ基キ當分ノ間長白臨江縣境地區ノ警備
 ニ就キタリ
 尤記

配置地点	隊 號	指揮官	人 員	警 備 區 域
六道溝 城 内	第三營本部	長 滿少校	五	六道溝城内
同	第一連	長 趙上尉	八四	六道溝及樺皮甸子流域ヲ中心 トスル一園
七道溝 錯草頂子	第二連	長 蔣上尉	八四	五七道溝中間地帯大青頂子 附近ヨリ上流七道溝流域ハ道溝 老爺山也ノ地也

合計	二六一名	八道溝 第三連	孫 ^長 上尉	八四	長白縣八道溝十三道溝 一帯
----	------	---------	-------------------	----	---------------

裝備

該部隊の裝備ハ兵各自長銃一、同彈藥一、
 發射機銃一、同彈藥一、同發射機銃一、
 彈藥五、發射機銃一、同發射機銃一、
 シアリ

軍紀風紀

該部隊ニハ日系軍官ノ配屬ナシ、軍紀風紀ニ
 至リテハ甚タ紊乱シアリテ殆ト無錢飲食遊
 興等ノ常習者ニシテ六七道溝飲食店四戸ハ
 兵士ノ不法ヲ避ケ十三道溝ニ移轉シ來レリ
 ト

第三 交通々信補給衛生其他ニ關スル事項
月間該當事項ナシ

第四 附 表

步兵第七十四聯隊國境守備隊裝備一覽表別
紙附表第一ノ如シ

歩兵第七十四聯隊國境守備隊編成裝備一覽表

昭和十年九月三十日調

備考	合計	新設坂嶺小隊	歩四國境守備隊	惠心鎮中隊	本	老四國境守備隊	守備隊別		編成	人員	馬匹	裝備
							少	大				
一 本表中()ヲ附せん無線電信所員ヲ示ス 二 摘要欄中ニ示ス人員ハ本表人員中ニ含ミアリ	1					1	佐	少	編成 人員 馬匹 裝備			
	2			1		1	尉	大				
	2	1		1			尉	中				
	2			1		1	尉	少				
	3			3			曹	特				
	4	1		2		1	長	曹				
	(1) 11	2		7		(1) 2	伍	軍				
	(1) 23	7		(1) 16			兵	等上				
	(2) 179	38		(2) 141			兵	等(一)				
	(4) 227	49		(3) 172		(1) 6		計				
	1					1	長	工銃				
	1					1	計	主				
	2	1				1	手	計軍				
	1					1	曹	者				
	2	1				1	長	護者				
	1					1	長	工縫				
	1					1	長	工靴				
	4	1		3			兵	護者				
	13	3		3		7		計				
	(4) 240	52		(3) 175		(1) 13		計	合			
1					1	馬	乘					
1					1	馬	計					
4	1		3			機	車					
4	1		3			機	輕					
3	1		2			筒	擲					
1					1	砲	迫					
1			1			砲	射速					
		吉田他一尉 歩兵中尉	西兵大尉 竹川伊六	歩兵少佐 田中雅範		職員表						
	入院 派遣	派遣	入院	主計八九郎 經理部員兼務		摘要						

馬匪賊令及情況調

九月中

月日	場所	頭目及賊數	行動ノ概要
九、二	十六道溝 馬家子附近	占山好 文明軍 約七〇	占山好文明軍ヲ頭目トスル約七十名ノ合流隊ハ十六道溝馬家子附近一帶ニ亘リ金品並阿片強奪ニ奔走シアリシカ住民ノ大半避難シ獲得者ニ如クナラサルヲ以テ一部ハ強奪阿片等ヲ纏メ引揚クハク策シアリ
九、三	十六道溝 門岩洞	占山好 約七〇	愛國軍占山好ノ部下七十余名ハ一部強奪阿片等ヲ運搬根據地方面ニ引キ揚ケ残余部隊ハ目下十六道溝門岩洞下里ニ移動シ来リ何事カ密議シアリト
九、五	十六道溝 興地	双勝 占北省 約二〇	十六道溝興地ニ於テ專ラ阿片ノ強奪ヲ事トシ在リシ双勝占北省ノ合流隊ハ帽見ハ方向ヨリ討伐隊上向シマツル風評ヲ聞キ上流方面ニ移動ヲ開始セリ
九、六	十三道溝 上桃泉里	李紅光 馬興 約二〇	臨江縣六道溝興地ニ蟠居シアリシ東北人民革命軍李紅光馬北公等ノ引率スル一隊約二〇〇名ハ長白縣内侵入ヲ開システ其一部ハ十三道溝上

<p>九、九</p>	<p>九、七</p>	<p>九、六</p>	<p>日</p>
<p>十二道溝 明化洞</p>	<p>十八道溝 萬寶崗</p>	<p>十六道溝 門岩洞下里</p>	<p>日</p>
<p>長山 海山 十五</p>	<p>登山好 四</p>	<p>愛國軍 双勝 約二</p>	<p>日</p>
<p>長山、海山の合流隊約十五名ハ本月六日隊ヲ二分シ一隊ハ十八道溝明化洞ニ於テ阿片糧食ヲ強奪スヘク一隊ハ同時ヨリ上流ニ向ケ夫々行動ヲ開始セリト</p>	<p>十九道溝與地一帯ニ潛居中ノ馬賊登山好ノ一味約四〇名ハ本月五日頃十八道溝萬寶崗部落ニ出現シ部落民ヨリ阿片ヲ強徵シテリト</p>	<p>十六道溝七兄弟附近ヲ中心ニ活動シツツアリタル愛國軍、双勝等ノ一味約二〇名ハ同溝門岩洞下里滿人郭永奎方ニ會合約一時間ニ亙リ密議ヲ為シ其後隊ヲ二分シ一隊ハ遠羅子方面ニ一隊ハ双勝自ラ之ヲ指揮シ十五道溝東前城方面ニ向ヒタリ</p>	<p>桃東里ニ到着密偵ヲ派シ官憲ノ動靜ヲの査中ナリト</p>

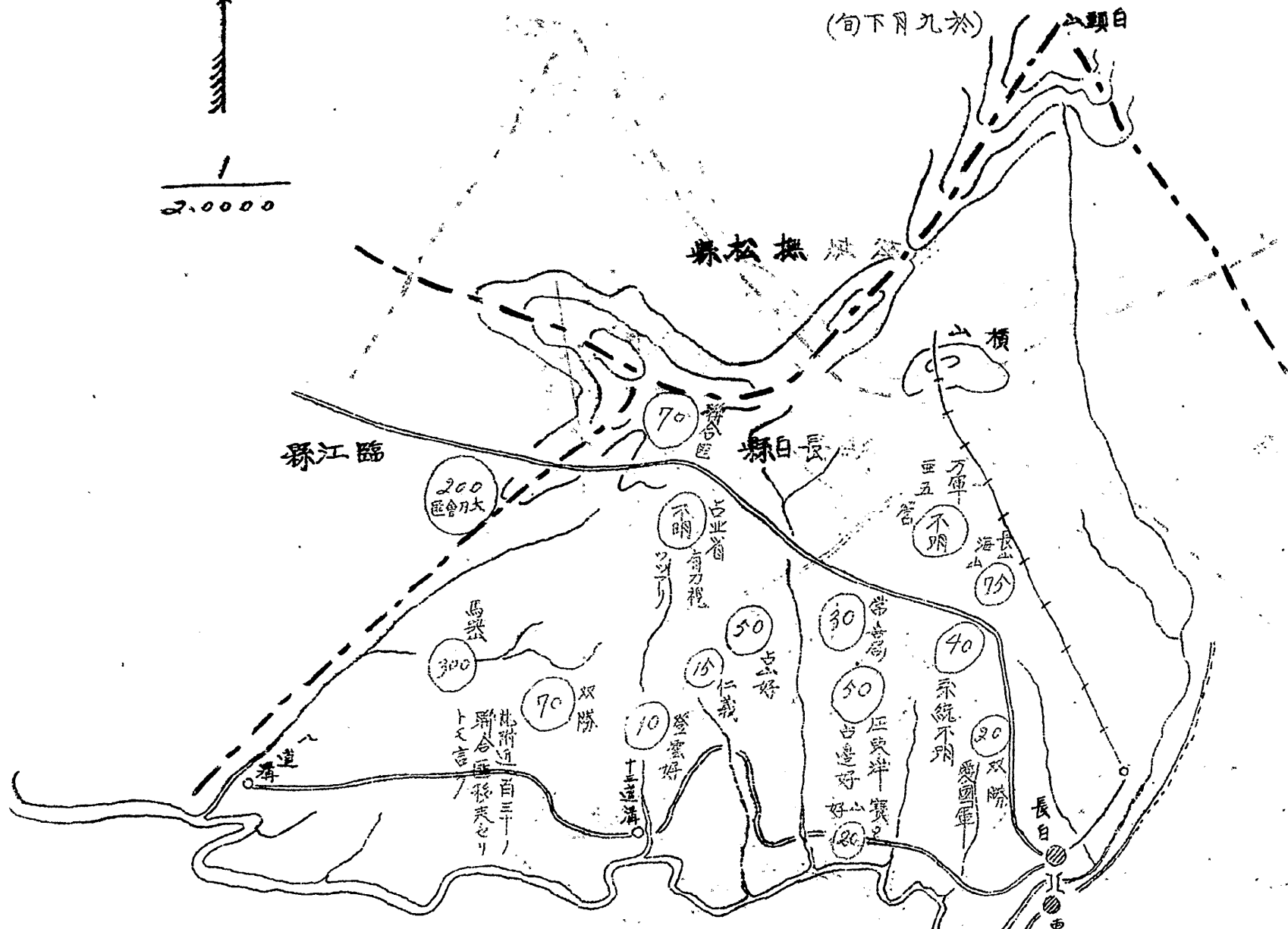
九、一八	九、一六	九、一七	九、一五	九、八
十四道溝 要房子	十七道溝 上直所德里	十七道溝 半莊幕里	十四道溝 古致洞	十六道溝 天橋溝
常表局 約一〇	系統不明 約四〇	白北省 一五	古〇好 約三〇	古山好 二〇
<p>常表局ノ一隊十余名ハ十四道溝要房子ニ移來シ同地鮮人十數戸ヨリ衣類二十數 ニ移來シ同地鮮人十數戸ヨリ衣類二十數 ニ移來シ同地鮮人十數戸ヨリ衣類二十數 ニ移來シ同地鮮人十數戸ヨリ衣類二十數</p>	<p>十六日早朝十七道溝上直所德里森林中ニ系統不明ノ賊四〇名移來脅伏シ密偵ラ 江岸附近ニ派シ警備ノ状ヲ探リツツ カ矢ヲテ襲撃スヘク揚言シアリト</p>	<p>十七道溝半莊幕里ニ來襲シ掠奪放 火暴虐ヲ極メ與地ニ引揚タリ</p>	<p>古山好ノ一隊三十余名ハ古致洞ニ移來シ同 溝湯場里住民ニ對シ現洋一ニ千元服五十着 仁丹五十袋ヲ本日二十日迄ニ提供方脅迫 ノ上引揚タリト</p>	<p>古山好ノ一隊二十余名ハ本月八日未明天橋 溝ニ現ハレ附近部落民ヨリ麥粉粟等食 糧品ヲ掠奪シ馬家子方面ニ移動セリ</p>

1319

日	
日	
日	
奥地ニ引揚タリ	林永化外一名ヲ拉致シ十三道溝林泉皇

長白縣賦情要圖

(於九月下旬)



1321

秘

歩兵第七十五聯隊月報(九月)

目録

第一 警備、概要

第二 対岸治安、概況

第三 各縣匪賊、概況

第四 交通通信補給衛生

第五 常時國境警備、勤務直接充當部隊

、編成

步兵第七十五聯隊月報

第一警備ノ概要

一 警備一般

警備区域内一般ニ平穩ニシテ特記スヘキ事項ナシ

國境警備勤務遂行ノ暫行規定ニヨリ常時聯隊ニ國境警備勤務充當部隊ナルモノヲ編成シ得々如ク備準シアシモ直對岸附近ハ比較的平穩ニシテ鮮内住民ハ安シテ其業ニ服シアリ

第二對岸匪賊ノ情況

對岸匪賊ノ跳梁ハ依然トシテ絶トス都市襲撃

列車防害等ヲ画策シ尙掠奪人質拉致等ヲ敢
行シ尙偷安ヲ許ササルモノアリ

第三各縣匪賊ノ情況

三安圖縣

安圖縣城附近匪情

八月三十日午後五時興隆河附近ニアリシ
五〇〇ノ共匪西ハ續々後方部隊ヲ集結
中ノ處午後五時主力ト見ラルヘキ三〇〇
ノ部隊合流シ計八百余トナリ興隆河ヲ
圍ヒ其砲台ニ向ヒ一部二百一十ノ地峯
ニ接近シ來ル
午後五時三十分敵ノ後續部隊ト見ラレ共
匪約一五〇ハ縣城西方ニ移リ半磨石嶺
ニ

ヲ終ラ南オニ向ヒ移動シ来ル無隆河ノ合
流ニト完全ナル連終リモノノ如シ
年後ニ時五共ニ。無隆河南オ一節半
ノ砲台ヲ占據ス

2. 寒意清降ニ武装甚西約四ツリ了久保
田指善官、新澤中尉ヲ遊撃スト稱シ待
援中ナリト

3. 三十日夜討伐隊、無隆街附近ヲ完全ニ確
保ス

因北ヲ包圍隊勢ニ了ん賊圍ハ八軒ノ戦線
ヲ石鎮ノ山上ニ無数ノ焚火ヲナシ遊撃ノ
態勢ヲナシツ、アリ極力賊情ヲ授堂中ナ
リト

各判決

三、海龍軍據井石頭道清莊聚軍山面
 八月中旬安圖縣大荒溝ノ根據地ノ公祭龍井
 市內富豪杜致ノ目的ヲ以テ下山シ來タルハ海龍
 軍副頭目葛殿文以下七名ハ八月二十四日滿營察
 ノ為葛殿文外四名ハ逐ニ逮捕セラレシ
 毛末逮捕ハ二名ハ八月二十八
 日彼等ノ根據地大荒溝ニ逃歸リ頭目海龍ニ
 前後ノ経過ヲ傳ルヤ彼大驚シテ部下一同ヲ
 集メ辭頭目以下逮捕者ノ奪還及復讐戰ヲナ
 スハク決意シ前後策ヲ協議ノ結果樺甸安圖
 二木據ヲ有スル五連長部隊五〇名馬團長一
 五〇名平義軍一二〇名金山茅部隊八〇名ノ

三、海龍軍據井石頭道清莊聚軍山面
 八月中旬安圖縣大荒溝ノ根據地ノ公祭龍井
 市內富豪杜致ノ目的ヲ以テ下山シ來タルハ海龍
 軍副頭目葛殿文以下七名ハ八月二十四日滿營察
 ノ為葛殿文外四名ハ逐ニ逮捕セラレシ
 毛末逮捕ハ二名ハ八月二十八
 日彼等ノ根據地大荒溝ニ逃歸リ頭目海龍ニ
 前後ノ経過ヲ傳ルヤ彼大驚シテ部下一同ヲ
 集メ辭頭目以下逮捕者ノ奪還及復讐戰ヲナ
 スハク決意シ前後策ヲ協議ノ結果樺甸安圖
 二木據ヲ有スル五連長部隊五〇名馬團長一
 五〇名平義軍一二〇名金山茅部隊八〇名ノ

分散匪賊ニ対シ食糧徴収政策ヲ以テ巧ニ懷
 柔シ總計六〇〇名ヲ以テ海龍自ラ總指揮者
 トナリ同八月中秋節（陽歷九月十二日）前後
 ヲ期シ頭道溝及竜井ヲ襲スヘシ日下準備工
 作中ナリト
 右ノ部隊ニテ不足ノ憾アリトシ敦化縣方
 面昭本良錢永林ノ兩部隊計約五〇〇名ニモ
 救援ヲ求メツ、アリト
 而シテ竜井方面ノ襲撃ハ大部隊ノ去没不便ナ
 ル關係上前衛部隊數十名ヲ侵入セシメ暗殺放
 火、掠奪ヲ致シ隊行スヘシ頭道溝ハ大部隊ヲ
 以テ進撃シ燒土化スヘキ意氣込ミナリ
 之ヲ先八月初旬安圖縣ニ蟠踞中ノ東北人
 民抗日義勇軍第五分隊長柴吉榮ハ海龍ヲ尋

来リ現在ニ於ケル匪賊ハ思想ヲ背景トセ
 ス屢々一般國民ノ好意ト援助トヲ得ル能ハ
 ス自滅スヘシトテ時代思潮ノ変化ヲ語り反
 滿抗日ノ種下義勇軍ト合流スヘキ旨ヲ告ケ
 シニ海軍ノ暫ク之ニ耳ヲ傾ケ居タル矢先海
 軍唯一ノ知能ナル副頭目葛野文ヲ計ラズ
 元官憲ニ逮捕セラレ彼ハ心機一轉シ抗日ノ
 目的ニテ右義勇軍ト合體セんとスノ如ク九
 月一日ニ既ニ海軍内ニ義勇軍部隊約
 二〇〇名來合セ前記襲撃ヲ十備シ衆急キ
 居シリ

二 此共匪賊混合賊團ノ中秋節前後ヲ期シ都市
 襲撃ヲ計画ス

三 道滿總警ノ報ニ依レハ山安圖縣車廠子地方

二根據ヲ有らん革命軍第一独立師ニ於テハ
 東滿特委ノ指令ヲ受ケ陰八月十五日中秋節
 前後ヲ期シ安圖縣城又ハ間島小都帯ヲ襲取
 撃シ冬營準備工作ノ第一歩トシテ大々的計
 画ノ許ニ散在せん共匪同ヲ糾合らんト共ニ
 隣接地方ノ匪賊團ノ了解ヲ得援助方ヲ依頼
 ン近日中ニ車敵ニシ集結スルモ若ニテ其勢約
 千名ナリト云フ
 目下革命軍ニ於テハ襲撃計画協議中ナリ
 食糧難ニ了ん匪群ノ物資在在續々爲難攻ナリ
 企圖シ了んハ首直セラル、新ヤルヲ以テ中秋
 節（九月十五日）前後ヲ期シ襲撃ナラシムル
 下ヲラントシ偵察シ密ニシ各營準備機關ヲ督
 勵シテ嚴戒中ナリ

又此匪令一レ中秋節ヲ期シ倒木清又ハ鉄道
 ノ破壊ヲ列車襲撃ノ計画ス
 信ス、業者ノ報告ニ依リハ黄花甸子附近
 = 蟠踞也、吳邦隊ニ吳義成ノ一味ニ百名及
 車椅子ノ共匪等ハ去ル九月九日大荒清ニ頭
 月會議ヲ開キ九月十二日前後ヲ期シ倒木清
 ノ襲撃又ハ鉄道破壊ヲ列車襲撃ノ計画セ
 ン、ノ如シ
 前記混令部隊ハ大荒清密林中ニ續々集結シ
 活潑ナル行動ニ出テツ、アム、ノ如シ
 各情報ヲ綜合スルニ中秋節又ハ九月十八日
 ノ滿州事表記念日ヲ期シ何等カ企圖シ、
 又ノ如シ鉄道沿線及各地ノ警備隊ヲシテ
 偵諜ヲ周密ナラシメ各警備機關ヲ督勵シ、

嚴重警戒之ト共ニ之レヲ捕捉殲滅シ企圖
シアリ

沙河掌附近ニ藩路スル匪軍ハ極度ノ食料難
ニ陥リ物資調達スル甚難準備ノ為列車運送
ノ最行ヲ企圖シ了んモノノ如シ

董泥河子(沙河掌南方地区)附近ノ密林中

蟻窟ニテアリテ人畜拉致物資掠奪ヲナシテ

リシ平五洋ニ小盤山一〇大盤山五〇武

連長ニ劉營長五〇計一五〇ハ極度ノ食

量難ニ陥リ之ヲ補給意ノ如クナラス各頭

目等協議ノ上沙河掌附近ノ木材伐採運搬

ヲナシ下ル木炭ニ食糧ヲ求ムモノトニ決シ

沙河掌ニ移動せんモノノ如ク退散共匪ノ

貨物列車襲撃ニ依リ豊富ナル物資並ニ

食糧ノ標準ヲ冬ニ準備完了セルノ宣傳ヲ
 羨望視シ冬ニ準備ノ物資糧食調達ノ為
 近カラ列車ヲ集積シテ旅行セントス
 如シ
 食糧ノ缺乏ハ列車運送ノ途ニ至ラ
 シムルコトナシトセス
 警戒ヲ周密ナラシメテ了リ

政情

三 満洲省委ノ満洲臨時人民革命政府樹立

中共東満特委満洲省委ニ於テハ東北人民革
 命軍臨時政府ヲ組織セントシ六月下旬冷雨霜
 二 米ノ吟東特区政府ノ前衛組織ヲ終ハ九月
 一日安圖縣革命子遊撃隊ニ因テ米ノ金湯工農

兵士代表大會ヲ召集滿洲臨時軍政府ヲ
樹立シ今後ニ於ケル工作ヲ次ノ如ク決定セ
リ

一 群眾ノ武装團ヲ人民革命軍ニ配合セシメ抗
日軍ト同盟ヲ締結スルコト

二 ソングエツト主義ニ基キ群眾ヲ指導スル促進ニ並
撃一區域内ノ走狗ヲ肅正スルコト

三 日滿兩國ノ政治經濟軍事等ノ根據地ヲ徹
底的ニ潰滅スルコト

四 糧食調達ノ為列車襲撃ヲ頻繁ニ行ヒ掠奪ヲ
敢テ敢行スルコト

五 日滿兩國ノ走狗鮮人主要分子ヲ拉致シ日滿
兩軍ノ情民情ヲ探知スルコト

六 秋收期ヲ利用シ半島軍糧發シテシテ
ニ 營盤

備シテスコト

- 七、對岸匪賊ノ出沒狀況附表第一、如シ
- 八、對岸匪賊ノ情況附表第二、如シ
- 九、東北抗日救國軍第二軍系統圖附表第三、如シ
- 十、開島賊情要圖第一、如シ
- 十一、延吉地区隊主力要圖第二、如シ

第四 補給 經理 衛生

三 補給

順調ニ安直施シテ了

二 整理

適宜ニ安直施シテ了リテ良好ナリ

四 衛生

將校以下保健ノ状態良好ニシテ防衛勤務

實施ニ支障ナシ

第五編成

五、常時國境に備へ勤務直接充當部隊ノ編成
附表第四ニ如シ

附表第一

匪賊出没情况

安圖縣		吉		延		地区			
元九	二九	一〇	九	四	九	日月			
〃	安圖縣城	清	南	清	木	地			
詳	不詳	詳	不詳	詳	不詳	匪			
共 一〇 名	武裝 三 名	共 一 名	武裝 一 名	共 一 名	武裝 一 名	匪			
<p>午前七時頃武裝共四十一名福壽洞(倒木清東南方一區)に現ハレ牛三頭ヲ掠奪セリ</p> <p>倒木清生備隊依木軍曹部下十名ヲ指揮シ現場ニ急行セモ既ニ五里地方ニ逃去ス後ナリ</p>		<p>午前十一時二十分匪賊十八名灣と清と於テ南崗住民牛車夫ヲ拉致セリ</p> <p>南崗分遣隊依木軍曹部下十名自衛団警備隊十名ヲ指揮シ之ヲ急追セシメ匪賊拉致者ヲ逃退シ逃去セリ</p>		<p>午前七時頃武裝共四十一名福壽洞(倒木清東南方一區)に現ハレ牛三頭ヲ掠奪セリ</p> <p>倒木清生備隊依木軍曹部下十名ヲ指揮シ現場ニ急行セモ既ニ五里地方ニ逃去ス後ナリ</p>		行	動	概	要

注	清	標
九	八	
流	清	
不	評	
區	一	
數	〇	

千有五百餘年不流河子北端二新約一〇〇人
 現下羅之清駐地湯軍一營長一卒中一討伐隊ハ
 マト文一隊一隊名ニシテ南才森林地帯ニ致シ退セ

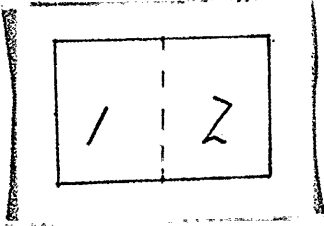

附表第二

二冊ノ讀取

九	大	王	閩	能	靠	楊	九	馮	双	勇	廣	匪	最近對岸ニ於ケル匪賊ノ情況
盛	局	運	山	連	山	某	江	恭	小	盛	興	首	部
海龍軍 山林隊	好	長	山	附	山	某	江	臣	山	盛	海龍軍 山林隊	名	下
三五	一五	二五	一五	一五	二五	二五	四五	七五	五〇	五〇	八三	名	教
安和隊 大茶清	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	安國 大茶清	根	據
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	安國 大茶清	地	域
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	安國 大茶清	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	安國 大茶清	〃	〃
											純	系	統
											匪		
												捕	
													要

計	柄 仲 明	孫 長 祥	永 慶 新 書 山	張 成 龍	姚 司 令	王 德 泰	西 來 好	田 禧 山	占 山
	レ	草 葉 新 集	レ	レ	革 命 軍	革 命 軍			
一 三 九 五	三 〇	三 〇	一 五 〇	三 〇 〇	五 〇	三 〇 〇	三 〇	三 〇 〇	五 〇
	三 安 國 縣 清 縣	揚 州 松 子 端	北 清 合	白 頭 山 麓	四 方 角 子	車 教 子	西 石 嶼 子	安 國 縣 河 縣	レ
	レ	安 國 縣	安 國	レ	安 國 縣	安 國 縣	レ	安 國	レ
	レ	三 正 西	合 流 西	レ	レ	共 西	レ	レ	レ

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上の尺
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>3年 12月 18日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 加部東 保夫 </p>	

附表第三

東北抗日救國軍第二軍系統圖 昭和十年九月現在

中共黨 滿洲省 委員會

東北抗日救國軍第一軍 (管轄地正吉林省盤石及南滿一帶)
 東北抗日救國軍第三軍 (管轄地正吉林省磐石方面)
 東北抗日救國軍第四軍 (管轄地正吉林省磐石方面)
 東北抗日救國軍第五軍 (管轄地正吉林省磐石方面)
 東北抗日救國軍第二軍 (管轄地正吉林省磐石及南滿一帶)

砲兵隊

工兵隊

第一師 第二軍 第二師

師長 王德林 參謀長 李長春
 政治部主任 李長春
 總務主任 李長春
 衛生主任 李長春
 教育主任 李長春
 宣傳主任 李長春
 監察主任 李長春
 軍醫主任 李長春
 軍需主任 李長春
 軍法主任 李長春
 軍紀主任 李長春
 軍容主任 李長春
 軍服主任 李長春
 軍械主任 李長春
 軍糧主任 李長春
 軍醫主任 李長春
 軍需主任 李長春
 軍法主任 李長春
 軍紀主任 李長春
 軍容主任 李長春
 軍服主任 李長春
 軍械主任 李長春
 軍糧主任 李長春

第一師 第一團

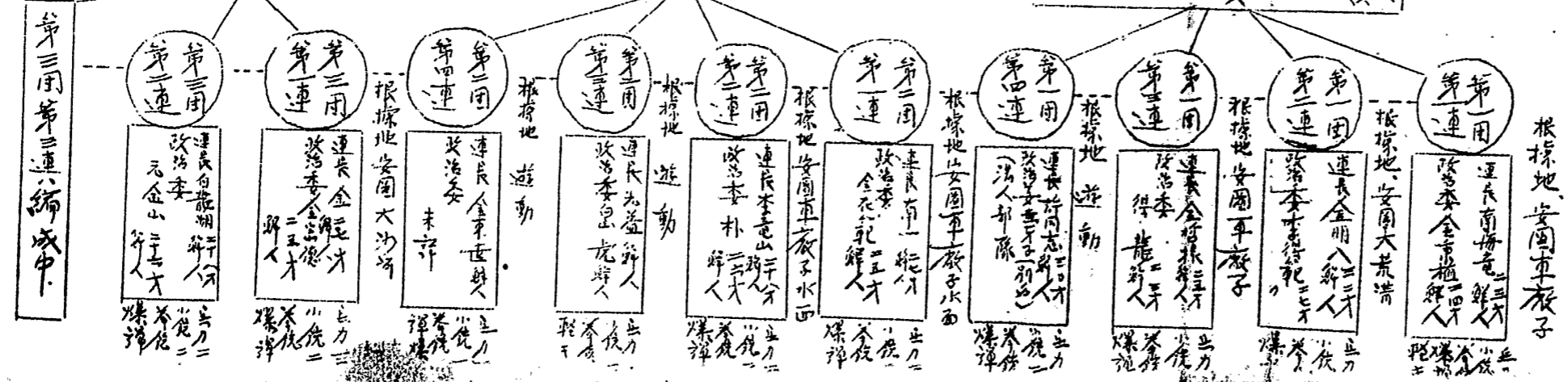
團長 張泰然 參謀長 李長春
 政治部主任 李長春
 總務主任 李長春
 衛生主任 李長春
 教育主任 李長春
 宣傳主任 李長春
 監察主任 李長春
 軍醫主任 李長春
 軍需主任 李長春
 軍法主任 李長春
 軍紀主任 李長春
 軍容主任 李長春
 軍服主任 李長春
 軍械主任 李長春
 軍糧主任 李長春

第一師 第二團

團長 張泰然 參謀長 李長春
 政治部主任 李長春
 總務主任 李長春
 衛生主任 李長春
 教育主任 李長春
 宣傳主任 李長春
 監察主任 李長春
 軍醫主任 李長春
 軍需主任 李長春
 軍法主任 李長春
 軍紀主任 李長春
 軍容主任 李長春
 軍服主任 李長春
 軍械主任 李長春
 軍糧主任 李長春

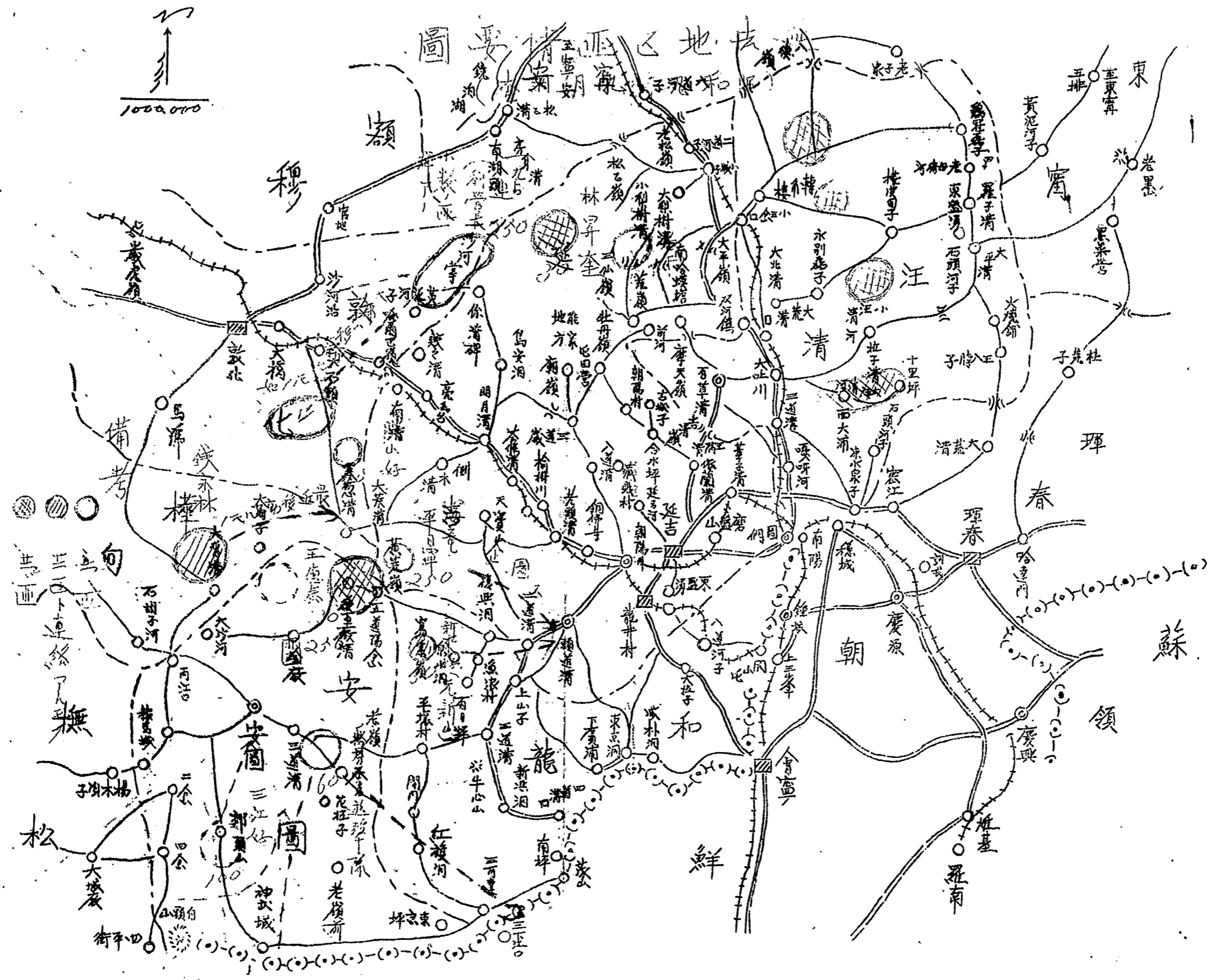
第一師 第三團

團長 張泰然 參謀長 李長春
 政治部主任 李長春
 總務主任 李長春
 衛生主任 李長春
 教育主任 李長春
 宣傳主任 李長春
 監察主任 李長春
 軍醫主任 李長春
 軍需主任 李長春
 軍法主任 李長春
 軍紀主任 李長春
 軍容主任 李長春
 軍服主任 李長春
 軍械主任 李長春
 軍糧主任 李長春



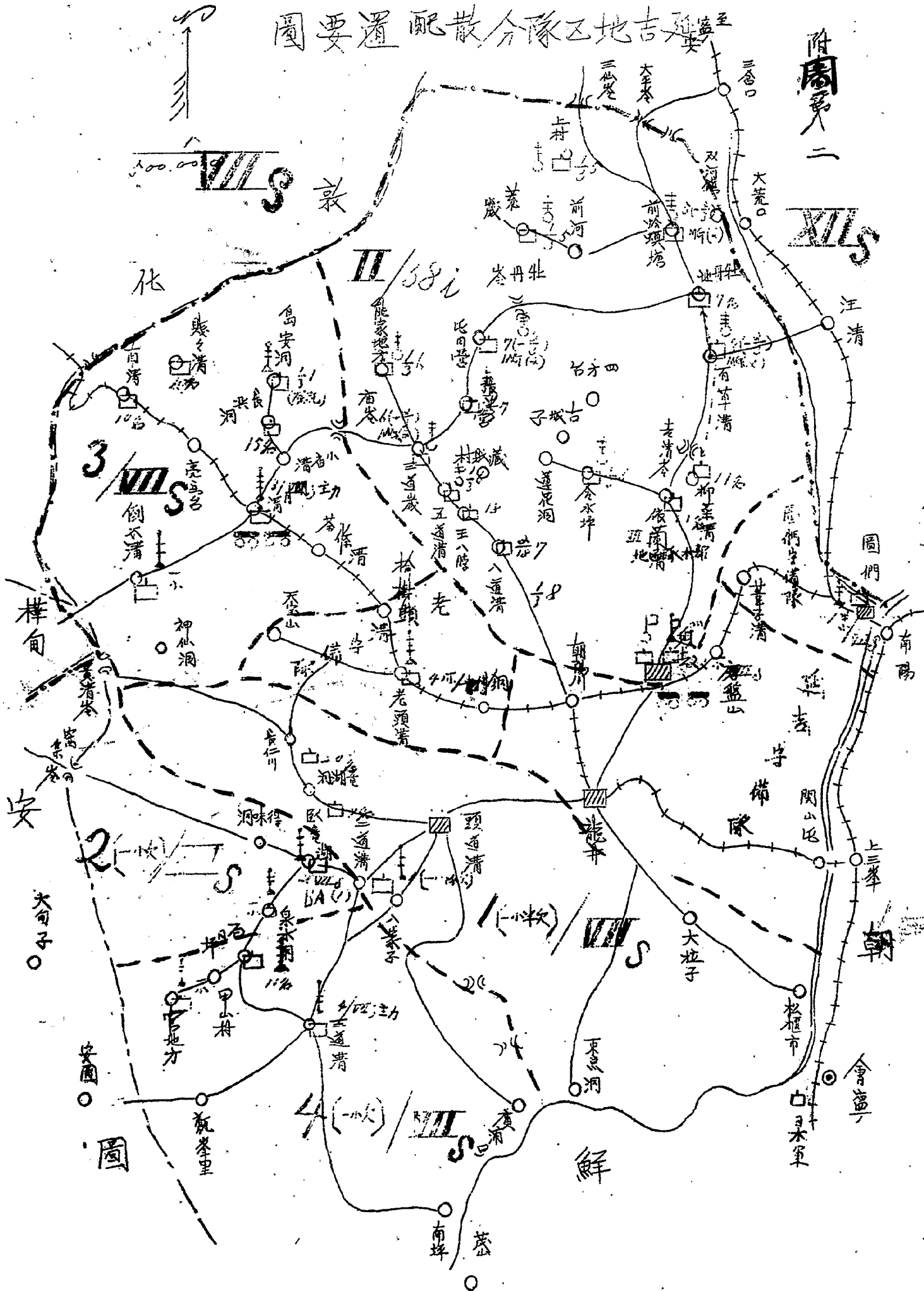
東北抗日救國軍第二軍
 管轄地 正吉林省磐石及南滿一帶

1340



圖要置配散分隊区地吉延

附圖第二



1343

附表第 四

計	第一分隊				指揮機關	小隊長	師						
	機	輕	銃	小			分	分					
一						一	週	官士					
二	一	一	一	一	一		軍	(長伍)背					
八	四	四	六	六	三		上	兵等					
一					一		一	刺					
一					一		着	護					
三	五	五	七	七	六	一	計						
	第一分隊 輸送 送 送 トヤ 別命 下 第二分隊 輸送 送 送 トヤ 別命 下 第三分隊 輸送 送 送 トヤ 別命 下 第四分隊 輸送 送 送 トヤ 別命 下 第五分隊 輸送 送 送 トヤ 別命 下 第六分隊 輸送 送 送 トヤ 別命 下 第七分隊 輸送 送 送 トヤ 別命 下 第八分隊 輸送 送 送 トヤ 別命 下 第九分隊 輸送 送 送 トヤ 別命 下 第十分隊 輸送 送 送 トヤ 別命 下				指揮機關 小隊長	一 一 三 一 一 一	週 軍 上 一 刺 着 護	官士 (長伍)背 兵等 一 刺 着 護	師 分 分	小隊長	第一分隊 第二分隊 第三分隊 第四分隊 第五分隊 第六分隊 第七分隊 第八分隊 第九分隊 第十分隊	計	摘要

師 分 分 小隊長



歩兵第七十六聯隊國境守備隊月報

自昭和十年九月一日
至昭和十年九月三十日

第一章 步兵第七十六聯隊國境守備隊月報目次

第一節 警備區域内全般ノ狀況

第二節 警備施行軍實施ノ概況

第三節 警備施設

第二章 對岸ニ於ケル治安概況

第四節 揮春縣

第五節 汪清縣

第三章 對岸ニ於ケル馬匪賊並共匪ノ狀況

第六節 兵馬匪ノ狀況

第七節 共匪並混合匪ノ狀況

第四章 蘇聯邦ノ狀況

第八節 軍隊並ゲペノ狀況

第八章	第七節	衛生	步兵第七十六聯隊國境守備隊編成裝備
	第六節	經理	
	第五節	補給	
第七章	第四節	通信	補給經理衛生ニ關スル事項
	第三節	交通	
第六章	第二節	滿洲國自衛團	交通々信ニ關スル事項
	第一節	滿洲國軍隊	
第五章	第九節	其他ノ狀況	滿洲國軍隊警察自衛團ノ狀況

第一章

警備ノ概況

第一節

警備區域内全般ノ狀況

一 守備區域内全般ノ狀況ハ靜穩ニシテ特種事項
 ヲ認メス特ニ滿洲事變第四週年記念日前後ニ
 於テハ不良分子ノ暴動等懸念セラレアリタル
 モ何等事故ナキノミナラス却ツテ關係各機關
 ノ努力ニ依リ好結果ヲ來セリ
 九月十五日ノ狀況
 當隊軍旗祭ニシテ軍隊地方官民多数參列盛
 大ナル式典後下士官集會所ニ於テ開催セル
 官民合同ノ祝宴ハ互ニ談話ノ裡軍民一致團
 結ノ好印象ヲ來セリ
 猶時局ニ相應スル模擬戰並餘興活動寫真ニ

入リテハ守備隊近郊住民殆ント參集防衛思
 想普及ニ貢獻セルコト大ナルモアリタリ
 2. 九月十八日ノ狀況
 慶源ニ於テハ守備隊長ノ滿洲事變當時ニ於
 ル實戰談ニ關聯シ國防思想ノ普及ヲ圖リ新
 阿山ニ於テハ榎本特務曹長統制ノ下ニ軍隊
 憲兵警察官在郷軍人普通學校生徒等協力シ
 新阿山附近防衛演習ヲ實施セリ
 3. 九月二十七日ニハ國境守備隊長以下四名西
 水羅ニ至リ全地ニ於テ國防ニ就テ講演並活
 動寫眞ヲ實施シ民心ヲシテ國防ノ重大ナル
 ヲ一層深刻ナラシムルモノアリタリ
 六 當 守備隊管内穩城附近ニ於テハ良質ナル石炭

多量ニ埋藏セラレアリテ今般親和鑛業株式會社ニ於テ採掘ノ運ヒニ至リ着々準備中ニシテ來年度ニ於テハ穩城一長徳洞間輕便鐵道ヲ敷設シテ本格的ニ採掘シ又之ヲ工業化スル計畫アリ
 亦慶源一揮春間柳多島ニハ神谷組ニ於テ慶興附近豆滿江ニハ吉川組ニ於テ鉄橋ノ架設スルアリ他地方ヨリノ入夫多數入り來ルモノアルヲ豫想セラレ警備上顧慮ヲ要スルモノアリ
 三當守備隊管區内住民ニシテ對岸滿領内ニ耕作地ヲ有シ農耕ヲ爲スモノ多ク目下收穫期ノ迫レルニ鑑ミ關係警察署ニ於テハ十月一日ヨリ全三十日迄隨時越境耕作者ノ保護警戒ニ任ス

ルコト、ナレリ

第二節 警備行軍實施ノ概況

警備行軍實施一覽表

月日	自至 九月九日 至九月五日	隊名	行動概要	摘要
		第一中隊	第一中隊長永田大尉以下九三名 八月四日午前八時慶源出發 防銀洞一瓢山一三日耕地一林 成洞一石岷洞一警備行軍ヲ實 施シ五日午後五時飯隊ス	
		國境守備隊長以下二二六名ハ		

<p>自至 九至 九</p>	<p>九月二七日</p>	<p>自至 九月一月 九日二日</p>
<p>慶古 興城</p>	<p>第一中隊</p>	<p>慶源 新阿山 守備隊</p>
<p>慶興弁備隊長竹之内大尉以下 一〇五名（古城弁備隊長瀨曹</p>	<p>第一中隊長永田大尉以下七五 名ハ慶源一阿銀洞一是阿山一 石峴洞附近ノ警備行軍ヲ實施 シ午後四時収隊ス</p>	<p>十七日慶源出發金洞附近ニ於 テ野營演習ヲ實施ニ十一日守 備地ニ収隊ス 穩城及新阿山守備隊ヨリ各々 十五名宛參加セリ</p>

日六二月九	日六月九	日七一月 日一二月
備守山阿新	隊備守城穩	隊備守
峴山洞一古乾原方面ノ警備行軍 山洞一松洞一古阿山洞一 口名八午前七時新阿山出發阿 守備隊長榎本特務曹長以下二	午後三時三十分飯隊ス 石水附近ノ警備行軍ヲ實施シ 八午前八時穩城出發龍南洞一 弁備隊長岩井少尉以下二四名	長以下一六名ヲ含ムハ十七 日ヨリ阿吾地附近ニ於テ野營 演習ヲ實施シ二十一日飯隊ス

三

第二章 對岸ニ於ケル治安概況
 對岸地方ニ於ケル兵馬共匪ハ逐年衰退ノ運命ニ

一、特記事項ナシ
 第三節 警備施設

日七二月九	
隊備守城古	隊
五附九古 時近名城 飯ノハ守 隊警備隊 ス行軍ヲ 實施シ午 後	ヲ實施シ午後七時飯隊ス

アリテ今ヤ断未魔ノ足搔キヲナシツ、互ニ相反
 目シ鬪争セルモノアリタルモ自滅スルノ止ムナ
 キニ至ルヲ知リテカ最近是等匪賊ハ系統ヲ同ク
 シ或ハ相通シ中ニハ日本軍類似ノ服装ヲ爲シ討
 伐ヲ困難ナラシムル等ノ處置ヲ講シ其行動タル
 ヤ活潑ナルモノアリ
 以上ノ現況ニ鑑ミ關東軍並獨立守備隊琿春支隊
 ハ相策應シ目下討伐開始初期ニ在リテ以下記述
 ノ匪賊根據地並數等ニ於テハ刻々變化スルモノ
 ト判断ス

一 琿春縣 第四節 琿春縣
 二 於ケル治安ノ狀況ハ前月報ニ大差ナ

キモ曰滿軍警ノ積極的治安工作ニ依リ逐次良
 好ニ向ヒツ、アリテ住民亦良ク保甲法精神ヲ
 理解官民一体トナリ其歩ヲ進メツ、アリ
 然レ共蘇聯邦ヨリノ共產思想兵馬共匪ヨリノ
 反滿抗日宣傳等尚繼續セラレツ、アル現況ニ
 鑑ミ一度手ヲ緩メソク或ハ是等思想宣傳ニ誘
 引セララル、虞ナシトセス
 細心ノ注意ヲ要スルモノアリ

第五節 汪清縣

一、汪清縣ニ於ケル治安ノ狀況ハ比較的警備機關
 ノ完備セサルノト地形上山地带多ク匪賊ノ巢
 窟トシテ有利ナル地带ニシテ琿春地方討伐ニ

遭へル匪賊ハ主トシテ汪清縣東方縣境地帯ニ
 逃避スルヲ常トシアル現況ニ鑑ミ此種匪賊ノ
 殲滅ヲ期セサル限り當地方ノ治安確立ハ出来
 サルモノト豫想セラル

第三章 對岸ニ於ケル馬匪賊並共匪ノ狀況

第六節 兵馬匪ノ狀況

對岸地方兵馬匪ハ漸次共匪ト合体純然タル兵
 馬匪ハ其數僅少トナリタリト雖琿春一東寧縣
 境密林地帯ニハ依然新起軍等約六〇名根據ス
 ルアリ亦琿春一汪清縣境十里坪附近ニハ約四
 〇名アリテ附近一帶ニ出没徘徊シアリ

一、琿春縣第七節 共匪並混合匪ノ狀況

〃曩ニ琿春縣長嶺子滿蘇國境線附近ニ假根據
 シ該地附近ニ出沒シアリシ東北人民革命軍
 第二軍第二獨立師第二團第四連々長金化以
 下三〇名ハ日滿軍警ノ徹底的討伐ニ遭ヒ該
 地附近ニ根據スル能ハス河南地區ニ脱出セ
 ルモノ、如ク目下同地方ニハ賊影ヲ認メサ
 ルニ至レリ
 2、上板子王八脖子附近ニハ候國忠ノ配下ニア
 ル革命軍ト目サル、モノ約ニ〇名全地附近
 砂金採掘者ヲ目標トシテ出沒シアリ
 亦九月二十七日五道溝駐屯滿軍関特務曹長

八部下約三〇名ヲ引率シ糧秣運搬ノ爲東興
 鎮ニ赴キ途中大六道溝入口附近ニ差掛ルヤ
 突如約三〇〇名ノ武装共匪ノ襲撃ヲ受ケタ
 リ(約三〇〇名ハ過大ニシテ五六〇名ナラン)
 二金蒼火焼舗附近ノ狀況
 金蒼附近ニ根據セシ東北人民革命軍第二軍第
 二團ハ關東軍測量隊ノ該地附近測量ニ當リ出
 没意ノ如クナラス主力ハ老黒山方面ニ移動シ
 タルモ一部ハ依然同地附近密林地帯ニ潛居シ
 アルモノト判断セラル
 三汪清一琿春縣境十里坪附近ノ狀況
 十里坪附近ニハ林海山部隊約六〇名アリテ穩
 城對岸凉水泉子附近ニ頻繁ニ出没金品ノ掠奪

或ハ脅迫狀ヲ送致スル等積極的ニ行動シアリ
南大洞各部落ノ屯長死送付シ來レル脅迫狀左
ノ如シ

脅迫文譯（原文鮮語）

揮啓曰日本帝國主義ハ我故國テアリ且故郷タル
東北ヲ強利占領シ以來慘酷極リナキ非人道的
蠻行ニ依リ虐殺放火掠奪姦淫ヲ恣ニ敢行シ以
テ多数農村ヲ鮮血淋漓タル荒野ニ化セシメ苛
稅雜稅ヲ強徴シ三年前中國同胞ヲ流漓四散セ
シメタルノミナラス朝ニシテ夕ヲ知辺ナキ慘
狀中ニ於テ亡國奴タル牛馬同様ノ奴隸生活ヲ
強制シツ、アルナリ
斯ノ如ク蹂躪並塗炭ノ苦ヲ受ケツ、アル吾等

同胞ハ須ク群ヲ造リテ反抗スヘキテアル故ニ
 吾等人民革命軍ハ槍林彈雨ノ中ニ身ヲ曝シ戦
 ヲ交ヘ以テ日本軍ノ大討伐ヲ撃破スルコト既
 ニ幾度我等ノ勢力實ニ一瀉千里ノ概アリ國家
 興亡ノ責任夫レ一匹夫ニモ尚アルヘキモノナ
 レハ困難頭上ニ臨ミ禍端寸今ノ脚下ニ迫レル
 現在苦痛ヲ共ニスル吾等同胞ハ來ルヘキ平和
 生活ノ爲壯丁居ラハ武装隊ニ應募シ金アルモ
 ノハ義捐ニ應ジ銃アルモノハ銃ヲ提供スル等
 軍民聯合歩調ヲ一ニセンカ日帝ヲ驅逐スルコ
 ト何ヲカ難事トセンヤテアル
 貴下ハ抗日救國ノ思想ヲ抱キツ、モ之ヲ發表
 スルノ好機ニ接シ得ス恨嘆已マサルトノ風聲

ハ之ヲ聽クコト久シクニアリスノ如キ觀念ハ
 實ニ人ヲシテ欽佩ノ念ヲ抱カシメ先生ノ義氣
 ハ四方ニ傳ハリ郷土ヲ搖カシ居ルノミナラス
 他ノ危急ヲ自己ノ私事ノ如ク同視活躍スルオ
 如キ壯嚴ナル義舉ハ一層人ヲシテ敬慕セシム
 ル所ナリ
 今敵軍ハ經濟ノ困難其極ニ達シ居ル爲貴下ニ
 於テハ愛國ノ熱情ヲ以テ必スヤ慷慨ノ惠ヲ不
 惜援助スルモノト信シ貴下ニ對シ左記物品ヲ
 要求スルモノナレハ至急善處サレンコトヲ切
 望ス
 斯クスルコト自体即チ東北ノ多幸中國ノ多幸
 タルト同事ニ我等ノ多幸ナラント信ス

八月八日（陰曆）

東北人民革命軍第二軍第一師第三團啓

要求物品

精粟 二石 粗布 五疋 麥粉 五袋

東村屯長殿

精粟 五石 粗布 一〇疋 麥粉 一〇袋

西洞屯長殿

精粟 五石 粗布 一〇疋 地下足袋 五〇疋

水南洞屯長殿

精粟 五石 粗布 一〇疋 地下足袋 五〇疋

四 本月未_二於_一ヶル對岸匪賊ノ狀況附圖第一ノ如

第四章 蘇聯邦ノ狀況

一、煙秋駐屯赤軍（砲兵）九月十三日ヨリ五日間
 煙秋駐屯赤軍砲兵大隊ニ於テハ新農坪ヲワタ
 シ中所居住民ニ臨時立退ヲ命シ（晝間ノミ）
 九月十三日ヨリ警戒兵約一〇〇名ヲ煙秋西部
 及サンドカンザ新農坪ニ配置シ一般民ノ通行
 ヲ禁止シ煙秋川左岸ニ砲列ヲ敷キ距離約四軒
 ノ西北方煙秋飛行場西北高地ニ標識ヲ設ケ五
 日間ニ亘リ實彈射撃ヲ實施セルヲ砲門數ハ不
 明ナルモ射撃地點ニハ將兵約三〇〇名居リ夕
 ニ博石洞ゲペウ隊演習狀況

九月二十三日夜一時頃ヨリ拂曉ニ亘リ古城對
 岸附近ニ於テ數發ノ銃聲ヲ聞キタルヲ以テ守
 備隊ハ深夜ノ銃聲ナルト近時渡船場南方約一
 〇〇〇米附近ニハ數十名ノ漁夫アリテ晝夜魚
 漁ヲ實施シアルヲ以テ直チニ巡察ヲ派遣シ狀
 況ヲ偵察セシメタル結果該銃聲ハ鮮内ニ非ス
 シテ蘇領博石洞ゲペウ隊ノ空砲發砲ト認定セ
 リ
 近時博石洞ニ於テハゲペウ隊晝夜演習ヲ頻繁
 ニ實施シアリ當日モ前日午後ヨリ拂曉ニ亘リ
 演習ヲ實施シアリタリ
 ハンシゲペウ隊ニ於テハ兵舎ノ改築工事ヲ開
 始ス

五
 蘇聯當局ニ於テハハンシゲペウ隊及滿蘇國境
 架設狀況
 ハンシゲペウ隊及滿蘇國境ノルミ山間電話線
 開催セルヲ出席者ハ約三〇名アリタリト
 會議ヲ九月七日スラウヤンカゲペウ隊ニ於テ
 於ケル國境警戒並事務打合せノ爲隊下隊長
 スラウヤンカゲペウ隊ノ隊長會議開催狀況
 スラウヤンカゲペウ隊ノ隊長會議開催狀況
 四
 隊ニ運搬シツ、アリト
 九月下旬ヨリ入夫数名ヲ使役シハンシゲペウ
 ゲペウ隊兵舎改築工事ニ使用スル木材ニシテ
 潮方面ヨリ輸送セラレアル該木材ハハンシ
 ポセツト灣ハンシ海岸ニハ目下多数ノ木材浦

鮮内漁船蘇領沿岸ニ於テ拿捕セラレシ狀況
第九節 其他ノ狀況

ノルミ山(第六號界標)間ニ電話線ヲ架設ス
ヘク九月上旬ヨリ人夫約一〇名ヲ使役シ電柱
ノ樹立ヲ開始セルヲハンシヨリノルミ山ニ向
ヒ約三〇本ヲ樹立セリト
註ノルミ山ニハ目下特種ノ設備等ナキヲ以テ
該電話線架設ノ目的ニ就テハ不明ナルモ該
地ハ滿蘇國境高地ニシテ展望良好警備上重
要地點ナルヲ以テ國境巡回ゲペシノ連絡ニ
利用センカ爲架設スルモノニ氷スマト思料
セララル

七月中旬ヨリ八月月上旬ニ亘リ鮮内漁船前後五
 隻ハ内三隻ハフルゲルマ島及ガモリ岬附近
 ニ於テ出漁中シ其他ハ暴風雨ノ為バンシリヤ
 イリムスキールサコフ島附近ニ漂着シ何レ
 モ蘇國警備船ノ為拿捕セラレ長キハ一ヶ月位抑
 留サレ九月上旬釋放皈還セルモノニシテ彼等
 ノ齎シタル状況次ノ如シモ直チニ警備船ニ
 拿捕セラレタル漁船ハ何レモ直チニ警備船ニ
 曳航セラレガモリ岬南海岸地名テミサント
 稱スル處ニ建設セラレ居ル艦船ニ對スル給木
 場ニ抑留セラレ長キハ殆ント一ヶ月間モ抑留
 セラレ居リタルモノナルヲ乗組員ハ凡テ自船
 内ニ拘置サレ絶對ニ上陸ヲ許サレス武装セル

赤兵三名ヲ交代ニテ晝夜共ニ繫船現場ニ立番
 セリテミサンニハ三〇〇噸位ノ船舶モ艦着
 ヲナシテ給水シ得ル様設備セラレ居リ附近ニ
 人家五六軒アルノミニシテ事務所風ノ建物一
 棟アリ他ニハ何等ノ建物ナキ寒村ナルヲ近ク
 ニ鹿馬牛等ノ牧場アリ
 ホセツト湾附近ヲ游曳シ居ル警備船ハニ〇
 三〇噸ノ駆逐艇型ニシテ砲ハ七吋ヲ裝備シ
 速力ハ二〇ノリニ速力ヲ有スルモノ第一
 一七號第一九號第一ニ速力ハ約一七ノリ
 〇噸ニシテ速力ハ約一〇ノリ艦尾ニ七吋砲
 ツ子兩側ニ機關銃一挺宛ヲ裝備シブリツ
 ニ探照燈一個ヲ有スルメシンスキルヲ第一

乘組員ハ駆逐型警備船ニハ何レモ約一〇名
 ンシンスキ「殊ニハ約ニ〇名ナリ
 抑留中ニ三〇〇噸ノ大貨物船ノ入港給水
 ルヲニ三回見受けタリ一回ハ軍艦ヲ入港給水
 セリ
 然ルニ軍艦カ入港セル際ハ抑留乗組員ハ全部
 船艙内ニ深ク押込レ船窓ハ總テ麻袋等ヲ以テ
 覆ヲナシ全ク外界ヲ見ラレサル如クセリ
 斯クノ如ク蘇聯ニ於テハ國情ノ海外満洲ノ防
 止ニ努メ居レルヲ以テ抑留場所モホセツト港
 ヲ避ケ特ニテ「ミサン」ノ如キ何等軍事的施設ノ
 ナキ場所ヲ選ヒタルモノト思料セラル
 遠東邊疆特立赤旗軍團功勞赤旗授與ニ當リス

ターリンノ經過報告

去ル八月六日モスコウギレムル宮殿ニ於テ遠
東邊疆赤旗軍團功勞赤旗授與第六週年ヲ迎ヘ
中央黨委員會責任秘書ス夕リシハ左記ノ如
キ祝辞並經過報告ヲナシ尚當日午後五時ヨリ
餘興ヲ催シ盛大裡ニ散會シタリト

左記

從來遠東ニ於ケル特立軍團ハ國際上ノ平和親
善ニ努力シタル處一九二九年外國侵略主義的
資本國家タル中國ハ我カ國家ヨリ全國ニ亡命
シタル白系露人ヲ買收シ中東鐵道ニ派遣從業
中ノ我カソグエト電信局ヲ占領シ其勢ニ乘
シ全鐵道管理局員多数ニ暴行ヲ加ヘ又我カ國

境 = 侵入シ各所ニ於テ警備機關ヲ襲撃シ或ハ
 在住民ヲ拉致監禁スル等不法行為ヲ繼續的ニ
 敢行シタル爲蘇中兩國間ノ外交逐次悪化シ遂
 = 兩國ノ領事ハ各々自國ニ引揚ケタリ
 此方ニ於テ我ガソヴエー卜ハ不得已自衛的行
 動トシ一九二九年七月二十一日遠東ニ於ケル
 武力ヲ聯合シ特立軍團長ブルヌヘルノ之ヲ指
 揮シ蘇中國境ニ於テ交戦ノ結果中國陸軍團長
 以下三百餘名ノ將校ト一萬餘名ノ兵卒ヲ捕虜
 トシ尚一萬以上ノ兵器ヲ押收シタリ
 スクノ如ク我軍隊ハ勇敢ニ戦勝シツ、進撃シ
 タル爲張學良ハ對抗ノ不利ヲ悟リ全年八月六
 日遂ニ自政ノ誤解ニ依ル旨ヲ以テ我ニ降り更

三

二外交的親善ヲ哀願シタルニ依リ我ソグエ
 ト政府ハ此戰鬪ニ依リ要シタル損害ヲ倍償セ
 シメ事変ハ圓滿ニ解決シタリ依ツテ我中央政
 府ニテハ從來遠東邊疆ニ於ル特立軍團ノ功勞
 ヲ永久ニ紀念スルヲ爲國際共產黨赤旗ヲ授與
 スルト共ニ遠東特立赤旗軍團ト改稱シ該事變
 ニ參加出動シタル將卒中特ニ勇敢ナルモノ一
 六四名ニ對シ革命的勲章ヲ授與シ毎年八月六
 日ヲ以テ遠東特立赤旗軍團赤旗授與紀念日ト
 シ之ヲ祝スルモノナリ言々ト
 尚遠東ニ於ル勞力大衆等ハ紀念日ヲ祝スル意
 味ニ於テ盛大ナル祝賀會ヲ開催シタリト
 遠東邊疆在住支鮮人ハ飛行機AP及晷ヲ建造

航空俱樂部ニ献納ス
 遠東邊疆在任支鮮人勞働者ハ本年一月以來飛行機建造金ヲ募集シ該金ヲ「ハバロフス」飛行機製造所ニ製造方依頼中ノ「AP2」ヲ「ハバロフス」造セラレタルヲ以テ同七月二十日「ハバロフス」飛行場ニ於テ献納式ヲ舉行國際航空俱樂部ニ献納シタリト
 西シテ献納式ニ参列セル支鮮人有志ハ同俱樂部ニ對シ建造金據出者中支鮮人青年ヨリ一〇名ヲ選抜シ飛行士養成所ニ入所ヲ陳情シ該案ノ承認次第「AP3」ヲ製造献納スヘキ旨申出タリト
 四ホセツト區域共青會員ノ軍事野外演習實施ノ

五

狀況 去ル八月三十日ホセツト區域共青會全ホソ會
 ノ許ニ各地ヨリ参加セシ共青會員並ホソ會員
 ヲ以テ上別里煙秋間ニ於テ軍事野外演習ヲ實
 施セルカ演習参加者約四〇〇名アリ
 演習課目ニ就テハ詳細不明ナルモ相當好成績
 ヲ舉ケタルモノ、如ク演習終了後下別里射撃
 場ニ於テ實彈射撃ヲ實施セルカ救護班トシテ
 看護婦ニ〇名参加シタリト
 ホセツト區域党秘書金アパナシノ日蘇時局ニ
 關スル講演狀況
 一日國際青年デーニ當リ祝賀ノ爲參集セル共

青會員 = 對シ 日蘇時局 = 関シ 内容次ノ 如キ 講
 演ヲ 爲シ タリト
 諸君モ 熟知ノ 如ク 今日ノ 日蘇關係ハ 頗ル 急
 迫シ ツ、アル モ 戦争ノ 勝利ハ 軍備ノ 優秀及
 國民全体精神ノ 如何ニ 依リ 決スルモノナリ
 故ニ 吾々ハ 最後迄 社會主義蘇國擁護ノ 立場
 ニ 於テ 協力一致シ 外敵ニ 當ラネハ ナラヌ
 今日ノ 日本ハ 明治時代ノ 日本トハ 異リ 國內
 = ハ 吾等同志ノ 勇敢ナル 活動並 政府ヲ 中心
 ト スル 軍部政黨間ノ 暗闘ハ 國民ノ 信賴ヲ 失
 墜シ アルヲ 以テ 日蘇開戦セハ 國內ニ 内乱朝
 鮮民族ノ 革命惹起ハ 必定ナルヲ 以テ 我蘇國
 カ 必勝ヲ 期スルコトハ 實ニ 明カナリ

六

外國軍事密偵トシテ檢舉豫審中ノ旧帝政時代
 聯隊長外三名ハ死刑ノ宣告ヲ受ケタリ
 豫テヨリ外國軍事密偵トシテ豫審中ノ旧帝露
 時代ノ聯隊長ハゴエコピルキン外三名ニ對ス
 ル判決ハ去ル八月三十一日イルクルスノ最高
 法院ニ於テ何レモ死刑ノ宣告アリタリ
 彼等ハ滿洲國在某外國軍事部ノ密偵ニシテ大
 膽ニモ武器及防火用爆彈並反革命的書類多數
 ヲ携帶シアリタルモノナリ

第五章 滿洲國軍隊警察自衛團ノ狀況

第一節 滿洲國軍隊

一 琿春縣分水嶺ニ歩兵一排ヲ配置ス

分水嶺ニ位置シ國境警備中ノ分水嶺派遣排ハ
 八月二十日全地撤退延吉警備司令部ニ取還
 シタルモ其後東興鎮駐屯第四連ノ一排ヲ八月
 二十三日該地ニ派遣シ警備中ナリ
 二 琿春縣國境監視隊要員採用狀況
 本件計畫ニ關シテ八前月報記載ノ通りナルヲ
 之ヲ採用ノ狀況左ノ如シ
 應募者三五〇餘名ノ所試験ノ結果合格者一
 三九名ハ琿春縣出身者七六名ハ採用ニ決定
 シ九月三日午前十一時ヨリ午後四時迄ノ間
 二 在延吉騎兵第十團ニ入營セリ

第二節 滿洲國警察

特記事項ナシ

第三節 滿洲國自衛團
特記事項ナシ

第六章 交通々信ニ關スル事項

第三節 交通

一、慶源―琿春間柳多島橋架橋工事ノ狀況

柳多島鉄橋ハ大連神谷組ニ於テ着工準備中ノ

處準備完了シ九月二十五日豆滿江々岸ニ於テ

盛大ナル起工式ヲ舉行目下工事中ナリ

二、慶興―滿領間橋架設計畫

慶興―滿領間國際橋工事ハ奉天在吉川組ニ於

テ請員ヒ九月九日支配人來慶工事ニ着手スヘ
ク目下準備中ナルヲ同人ノ語レル工事ノ狀況
左ノ如シ

(六) 工費 五〇萬圓

(五) 人夫使用計畫

人夫延人員 一〇萬人

工事着工當時ハ一日四五〇人ヲ使役シ工

事ノ進歩ニ伴ヒ一日二〇〇人内外ヲ使用

スル豫定ナリ

一月ノ人夫賃ハ男七〇錢女四五〇錢内外

(三) 工事進行計畫

九月工事材料運搬準備

十月工事着工ス

明十一年三月基礎工事完了

四月橋脚工事

六月橋台工事

七月橋桁工事

九月橋梁上層部

十一月兩梁結取付道路工事

十二月竣工豫定

(四) 工事着手準備ノ状況

工事實施ノ為來慶セル吉川組(約ニ〇名)
ニ於テハ民衆ヲ借上ケ事務所ヲ慶興邑内
ニ置キ地方人夫約ニ〇名ヲ使役シ假事務
所並宿舎ノ建設工事ヲ為ス等工事着手ノ
準備工事ヲ急キツ、アリ

三 守備管區内道路ノ狀況

管内道路ノ狀況ハ本月ニ入りテ降雨少キ關係
 上漸次良好ニ向ヒツ、アリテ幹線道路ハ自動
 貨車ノ通過ニ支障ナシ
 然レ共新阿山附近五龍川橋梁ハ過般流失後目
 下當局ニ於テ架設中ナルモ未タ完成スルニ至
 ラス

第二節 通信

一 軍用電話線
 管内軍用電話線ハ全般的良好ニ通話シ得
 ルモ慶源一琿春間軍用線ハ事故多ク殆ント使
 用ニ供シ得ス不便多キノミナラス警備上支障

ヲ來スモノ多シ速カニ徹底的架設替ヲ要スル
モノアリ

ニ警備用電話線

管内全般ニ概ネ支障ナク通話シ得

三、鳩

當隊鳩訓練ハ良好ノ景況ニアリテ所期ノ目的
ヲ達成シツ、通信距離ノ擴大ニ努メツツアリ

第七章 補給經理衛生ニ關スル事項

第五節 補給

一、羅南支庫ヨリノ補給及現地調辨共ニ圓滑ニ實
施セラレアリ

第六節 經理

一 當隊經理業務ハ全般的ニ良好ニ實施セラレア

ニ 營繕關係ニシテ慶源ニ在リテハ目下特種彈藥

庫委員倉庫分院暗室等工事中

穩城ニ在リテハ特種彈藥庫ノ建造及兵舎宿舎

柵等ノ各所修理中ニシテ射撃場ノ改築モ本月

中ニ着工ノ豫定

新阿山舟備隊ニ在リテハ野菜貯藏庫ヲ目下兵

力ヲ以テ構築中ナルモ材料未着ノ爲進歩ノ域

ニ至ラス

築造スヘキ特種彈藥庫兵舎附屬新設並修理ハ

未夕着工ニ至ラス

慶興ニ在リテハ兵器庫特種彈藥庫脂油庫石炭
置場射擊場等ノ工事中ナリ

第七節 衛生

本月中衛生一般ノ狀況ハ良好ナリ
穩城守備隊ニ於テハ兵舎ノ不完全ナルモノア
リタルモ今回兵室事務室當番室衛兵所休養室
等ノ壁並温突ノ張替換氣孔ノ設置等實施セラ
レ採光換氣保清等衛生上至極良好トナレリ

第八章 歩兵第七十六聯隊國境守備隊編成

裝備

一 編成裝備附表第一ノ如シ



步兵第七聯隊國境守備隊第四號

步兵第七聯隊國境守備隊月報
(自八月五日
至九月五日間)

昭和十年九月二十六日
步兵第七聯隊國境守備隊
美

目次

- 第一 警備討伐ノ概況
- 第二 對岸ニ於ケル政情並治安ノ概況
- 第三 警備機關
- 第四 交通通信補給經理衛生ノ概況
- 第五 編成裝備一覽表

卷逆先

軍師旅聯隸下各隊

越境部隊

第一警備討伐ノ概況

一、帽兒山守備隊警備ノ爲出動(第一回)

八月二十七日午前十時頃青山好ノ一味五名八臨江縣第一區大栗子藪附近上航中ノ高瀬舟ヲ襲撃シ曰木人齊藤要吉ヲ拉去奥地ニ逃走セルヲ以テ該匪ヲ討滅速ニ齊要吉ヲ奪還スルニ決ス

2. 日時

八月二十七日正午帽兒山兵營出發
八月二十七日午後七時返營

3. 人員

和田特務曹長以下四〇名(含憲兵二通款一)

4 行動ノ概況
別紙要図第一ノ如シ
5 成果

目的ノ效果ハ得サリシモ峻峻且草木繁茂
 セル山岳地帯ヲ最モ迅速機敏ニ行動シ爲
 = 附近住民並ニ匪賊ニ對シ皇軍ノ威武ヲ
 發揚シ脅威ヲ與ヘシカ原因動機トナリ常
 = 該地附近ヲ横行屢々沿岸ニ進出執拗ナル
 不逞行爲ヲ敢行沿岸ノ治安ヲ攪乱シ延テ
 鮮側警備上ニモ障害ヲ未サシメアル匪首
 干有事干福有以下約五〇名ノ級順問題ハ
 目下着々トシテ進捗シ該地方治安ノ南正
 ヲ期セントシアリ
 警備ノ爲出動(第二回)

人動機

九月五日午前八時頃匪首平來ノ一味約四〇名ハ二道溝吊橋方面ヨリ移動頭道溝上流四道陽倉ニ現ハレ先ヨリ全地橋梁修理中ノ人夫一〇名ヲ拉去嵩人火工一名ヲ負傷セシメ再ヒ吊橋溝方面へ引揚タリトノ急報ニ依リ三道溝陽倉警察分駐所長以下十三名ハ直々ニ出動日下文戰中ナリ右急報ニ接シタル帽兒山守備隊長ハ取敢ス縣警務局ヲ督勵警察隊員二十二名ヲ應援ノ夕メ急派セシムルト共ニ守備隊ニ於テモ該地附近ヲ掃蕩スルニ決ス

乙日 時

九月五日午前九時帽兒山出発今日正午飯

營

又人員

野中守備隊長以下三〇名(含憲兵一、通訊一)

4 行動ノ概要

別紙要圖第二ノ如シ

5 成果

頑強ニ抵抗ヲ試ミツ、アリシ該匪賊モ因

木軍ノ出動ヲ察知スルヤ周章狼狽吊橋ヲ

奥地ニ向ヒ逃走セルヲ以テ被拉去者十名

ニハ何等ノ被害ヲ蒙ルコトナク無事ニ

ヲ救出スルコトヲ得其目的ヲ達成セリ

二 通藩守備隊警備ノ爲メ本動來警備行軍(第一回)

人動機

輯安縣第二區斜溝峯太平溝附近ニハ最近

- 小匪頻繁ニ出没シ警備道路改修ヲ妨害シ
 又ハ人質拉去放火ヲ敢行スル等一般民心
 ハ不安ニ駆ラレアリ
 右情況ニ基キ通溝守備隊ハ該地区ヲ肅正
 シ水害後ニ於ケル警備道路偵察ノ目的ヲ
 以テ警備行軍ヲ實施スルコトニ決ス
- 2日 時
 九月六日午前六時通溝出發同日午後六時
 飯宮ス
3. 人員
 北山隊長以下三十五名(含憲兵一)通訳二)
- 4 行動ノ概況
 別紙要因第三ノ如シ
- 5 成果

(3)

最近出沒頻繁ナリシ小匪ニ脅威ヲ與ヘ附
 近ノ民心ヲ安定シ水災後ニ於ケル警備道
 路ノ景況ヲ明ニシ改修ヲ促進セシメ又太
 平藩ニ於ケル警備指導ハ全地警備員ノ強
 化甫正上火ナル成果ヲ收メタリ
 警備行軍(第二回)
 入動機

道路偵察並情報集蒐ヲ兼ネ坂川溝附近ノ
 警備ノ夕又行軍ス

2. 日 時

九月二十日午前八時通溝出發同日午後三

3. 時 級 營 人 員

北山隊長以下三十一名(含憲兵一編隊)

一 鮮

内部隊
中江鎮守備隊警備行軍
機

中江鎮守備隊警備擔任管区内タル慈城郡
長土面土城洞對岸附近ハ近頃匪賊ノ出
没多キ爲之ニ對スル威嚇ヲ主トシ併セテ
本年七月末ノ大洪水ニ依リ道路破損ノ箇

鼠賊的土匪ノ出沒アリシ坎川溝附近ヲ
正シ水害後ニ於ケル道路ノ景況ヲ明カニ
シタルハ任務達成上大ナル效果ヲ收メタ

4 行動ノ概況
別紙要圖第三卷
5 成果
如シ

所ノ偵察ヲ兼テ實施ス

2. 實施日時

昭和十年八月二十七日午前八時兵營出發
同 年八月二十八日午後四時四十五分級營

3. 人員

中隊長以下六十九名

4. 行動ノ概要

別紙要圖第四ノ如シ

5. 成果

勇壯ナル守備隊ノ軍容ニ接シ行軍路一敏

ノ鮮人ニ安堵ノ念ヲ與ヘタルト共ニ匪賊

ノ出没減少スルナラシ

密偵直接使用ニ依リ藩州國葦沙河附近ノ

賊情殊ニ同地附近ノ匪賊ノ行動要領ノ一

部ヲ偵知シ將來討伐上ノ參考タラシムル

ヲ得タリ

(ハ) 水害ニ依ル道路(江岸國境道路)破損ノ狀況ヲ明

ニシ將來ノ參考タラシメ得タリ

(ニ) 兵ノ行軍能力殊ニ嚴肅ナル戰備下ノ露營

及山地行軍ノ教育上與ヘタル效果大ナリ

ニ 滿浦鎮守備隊警備行軍

ノ 勤機

對岸滿洲國ニ於テ鴨綠江岸近ク匪賊ノ出

没多キヲ以テシニ對スル威嚇ヲ主トシ併

セテ耐熱行軍ヲ爲ス

乙 日 時

八月十九日午前七時出發 同月二十一日午

後二時返隊

3. 人員
 中隊長以下五十二名
 4. 行勤ノ概況
 別紙要図第五ノ如シ
 5. 成果
 匪賊並住民ニ皇軍ノ威武ヲ発揚シ相雷ノ
 成果ヲ收メタルモノト認ム

一 政情
臨江縣

第二政情並治安ノ概況

劉縣長趙警察大隊長平野青木兩指導官ハ
 警察隊五共名ヲ率ヒ八月十九日午前十一時
 縣城出發嶺西各地ノ復興上作實施狀況ヲ
 査閲シ同月二十七日午後三時歸還セリ
 因ニ東邊道復興要領ニ基キ臨江縣復興工
 作ハ初期ニ於テハ其ノ成績芳シカラサリシ
 モ縣當局ノ倦マサル努力ニ依リ一般住民
 モ漸次其ノ趣意ノ理解認識スルニ到リ最
 近相當ノ成果ヲ收メツツアリ
 八月二十日安東省長ヨリ臨江縣長宛採木
 公司ノ伐採指定地域及山林警察隊七〇〇

名ノ新編成ニ關シ意見ヲ聽取シ來リタル
 ヲ以テ縣長ハ八月二十一日緊急縣治安維
 持會ヲ開催帽山守備隊長同憲兵長混成
 第三旅軍事教官警務局長代理參事官指導
 官探木公司分局長等會合尤記ノ如ク協議
 ノ上安東省公署ニ出頭中ノ山代參事官ニ
 打電シ同參事官ヨリ報告スルコトトセリ
 (一) 指定地域ニ對シテハ異存ナシ但シ東漫江
 附近一帯トアルヲ漫江支流鎮江(一名錦江)
 ノ右岸ニ限定スルヲ可トス
 (二) 右地域ノ地形ノ特徵ハ河ニ沿フ縱ノ連
 絡ノ容易ニシテ谷ト谷トノ横ノ連絡ハ
 困難ナルニアリ

警備道路トシテハ臨江縣—長白縣間ヲ
横断スル舊官道（江岸道路ニラス）ヲ改修ス
ルヲ可ニス

(三) 通信連絡ハ完備セル警備電話網ヲ張リ
遺憾ナキヲ期スヘキモ出來得レハ簡單

(四) ナル無電機ノ利用ヲ希望ス
警察隊ノ配置箇所ハ尤記場所ヲ可トス

尤記

一、臨江縣

(1) 城内

(2)

五道溝軌道終點

(3)

趙家店

(4) 吳家營

(5)

坡口

(6)

三道溝柳樹河子

二、長白縣

(1) 二十道溝奥

(2) 十九道溝奥

(3) 十五道溝奥

(4) 十三道溝奥

(5) 八道溝奥

(五) 指定地域内
 三、撫松縣
 (1) 漫江

匪首	文明軍、長台、東合、	老長青、	占中、順原、	馬興山、	保國、	雙江、	平來、雙勝、
員數	四〇〇	三〇〇	一五〇	一五〇	一五〇	一〇〇	一二〇
蟠居地	臨江縣 六、七道溝附近、	臨江縣 三道溝大洋盆附近、	臨江縣 五道溝流域一帶、	臨江縣 三道溝螞蟻河附近、	臨江縣 二道溝上流一帶、	臨江縣 吊捷溝、	蒙江縣 灣口一帶、

(六)

(1) 將來警察隊ハ完全ニ縣長ノ指揮下ニ置クヘク該隊指導官ハ縣ノ警務局指導

官之ニ當ルヘキナリ

(2) 其ノ任務力積極的ナルモノナリヤ消

極的ナルモノナルヤヲ明定スヘキコト

(3) 兵器彈藥ヲ充實サスヘシ輕機二挺ノ

必要ヲ認ム

(4) 少クトモ一作業地ニ一名以上ノ日系

ヲ配屬スヘシ

3 木業者ノ通匪防止ノ爲今回滿洲國實業部

民政部關東軍各機關協議ノ上木業者ノ統

制ヲ圖リ集團伐採ヲ爲シ且ツ之カ保護機

關トシテ森林警察隊ノ新設ヲ決定シタル

モノノ如ク因テ東邊道ニ於ケル木業者ノ

統制ハ現採木公司ニ於テ統制シ且ジ之カ
 保護機關トシテ現山林警備團ヲ七〇〇名
 (現在番名)トナスノ計畫アルヲ以テ山林警備
 團淺木森指導官ハ安東省公署並採木公司
 本局ニ打合ノ爲八月二十一日臨江出發安
 東ニ向ヒタリ
 以テ匪賊ノ滅亡ヲ計リ治安維持ノ確保ヲ期セ
 ントセハ先ツ木業者ト匪賊トノ關係ヲ絶
 タサルヘカラス
 滿洲國首腦部及關東軍ニ於テモ愈々之ニ
 對スル根本對策規定タル康徳二年度國有
 林伐採並警備ニ關スル計畫ヲ樹立セリ因
 テ安東省ニ於テモ前記ノ如ク八月二十三
 日關係者ヲ招集シ協議ヲ爲スト共ニ現地

27

五縣警備隊

ノ意見ヲ求メタル上長白、臨江、撫松、磐璣前
 近ニ於ケル森林警備要領案ヲ規定シ隊長
 (日系)警正以下七三五名(日系三五名)ノ森林警
 察隊ヲ編成スヘク目下臨江、長白、各縣ニ於
 テ着々編成中ニアリ
 5. 今般滿洲國政府ニ於テハ一律ニ稅制整理
 ヲ斷行之力趣旨徹底ノ爲尤記ノ如キ宜傳
 ポスタルヲ各縣稅捐局ニ送付シタルカ臨
 江縣稅捐局ニ於テハ八月二十五日到着市
 内各所ニ揭示傳中ナリ

尤記

起日一月七
<ul style="list-style-type: none"> ○ 王道的稅制 ○ 營業稅改正 ○ 貨物稅全廢 ○ 商民的福音
全國一律施行

6. 第一區葦沙河 = 於ケル匪首千有ノ歸順問
 題及齊藤要吉ノ救出 = 關シ將來 = 對スル
 對策講究ノ為九月十日午後五時縣山代參
 事官及松田指導官領事警察山中分署長ヲ
 守備隊 = 招致シ協議ノ上尤記事項ヲ決議
 セリ

尤記

イ、葦沙河 = 於ケル歸順工作ハ齊藤要吉ノ
 拉致匪ト異リ且ツ附近ヨ異ニナシ居ル
 關係上齊藤救出ハ第二トシ歸順ノミヲ
 迅速ナラシメ然ル後齊藤ノ救出 = 利用
 スルコト
 口、齊藤ノ救出 = 關シ曰滿軍警協同包圍討
 伐ヲ計畫シタルモ諸種ノ事情ヨリ鑑ミ

先ツ討伐ヲ見合セ開枝子溝及螞蟻河警
 察分駐所長ニ命シ密偵ヲ使用其ノ附近
 ヲ確メタル上討伐ヲ實施スルコト
 葦沙河ニ於ケル順工作ハ九月十二日
 更ニ到レハ判然スルヲ以テ之カ決定次第
 九月十五日午前十一時ヨリ縣公署ニ於テ
 大日本帝國ノ滿洲國承認三週年記念式典
 ヲ舉行シ滿各機關團體及學校生徒一
 般住民等約三千名參列シ盛大裡ニ午後零
 時半終了續テ參列者ハ日滿兩國旗ヲ翳シ
 テ市内進行ヲ實施同ニ終了同三時ヨリ
 師中學校及市内各小學校ニ於テ記題目
 ノ講演會ヲ開催セシカレモ滿員ノ盛況

ニシテ深ク其ノ意義ヲ認識徹底セシメ當
日ノ式典ヲ最モ有意義ナラシメ午後五時
無事終了セリ

右記

- 一、日滿帝國承認ノ意義
- 二、滿洲國ノ國際的地位
- 三、日滿議定書之眞精神
- 四、回鑾詔書ノ徹底

11)

1. 輯安縣
 八月二十二日奉天第一軍管區顧問部附倉
 田由松八保甲制度實施狀況視察ノ為來輯
 翌二十三日午前九時ヨリ第一區保甲自衛
 團四十二名ノ訓練狀況視察ノ上午後三時
 堀江指導官以下警察隊五十名護衛ノ下二
 縣城出發桓仁向へリ
 2. 八月十四日汪縣長ハ輯安縣ノ特産物
 ル人蔘毎年輸出總額數十萬円ニ達シ生活
 並金融上重要ナル産物ナルカ事變以來治
 安ノ恢復ト共ニ盜堀密輸スル者激増シ農
 民ノ生計ハ勿論人蔘業獎勵又ハ課税上大
 ナル影響アリ
 辨法ヲ制定一般ニ鑑ミ人蔘盜堀並密輸防止

8. 九月三日午前十時三十分通化守備隊長藤
 田大尉並東邊道地區治安維持會委員岡田
 靖治ハ治安狀況視察並歸農工作ニ關スル
 打合ノ為飛行機ヲ以テ來輯夏季討伐以來
 實施中ノ歸農工作ハ軍警ノ誤解ニ依
 リ妨害セル事實アリ嚴ニ注意セラレ度ヲ
 述へ本工作ハ更ニ期間ヲ延長シ其ノ効果
 ヲ増大セシムル豫定ニシテ萬難ヲ排シ援
 助ヲ要望シ藤田大尉ハ同日午後一時飛行
 機ニ依リ歸還シ岡田委員ハ九月五日皆川
 指導官以下警察隊護衛ノ下ニ自動車ヲ以
 テ岑後ニ於ケル集團部落ノ狀況ヲ視察ノ
 上通化ニ歸還セリ
 4. 九月四日滿洲國皇帝陛下御訪日還幸ニ當

2)

5

講演並祝辞アリ
 ヨリ滿洲國ノ發展ヲ祝シ日滿親善強調ノ
 テ縣長參事官中學校長山田東崗守備隊長
 祝大會ヲ舉行シ御寫眞奉拜詔書奉讀ニ並
 各學校幼稚園生徒等約四百名參列ノ上慶
 堂前廣場ニ於テ日滿官民八十余名及城内
 當リ午前十時ヨリ縣公署主催ノ下ニ公會
 九月十五日滿洲國承認第三週年記念日ニ
 列午後零時三十分靜肅裡ニ終了セリ
 學校教員並城内各學校生徒等約五百名參
 戴式ヲ舉行セシカ曰滿官民及縣城附近ノ
 十一時ヨリ縣公會堂前廣場ニ於テ之カ奉
 スル詔書ハ今回各學校ニ下附セラレ午前
 リ五月二日煥發セラレタル日滿親善ニ關

ヲ一巡シ再ヒ公會堂前廣場ニ集合シ日滿
 帝國萬歳ヲ三唱正午散會セリ
 6. 九月十六日汪縣長佐藤副參事官ハ宣撫工
 作ヲ兼ネ集團部落ノ建設並水災狀況視察
 ノ爲董大隊附以下三十名護衛ノ下ニ約二
 週間ノ豫定ヲ以テ苓後方面ニ出張諸調査
 並宣撫工作中ナリ
 7. 九月十九日民政部土水司薦任囑託字田大
 吉大澤調査主任以下五名ヲ帶同都市計畫
 ノ爲プロペラ船ニテ上航來輯セルカ輯安ハ
 將來滿浦線ニ連絡スヘキ梅輯線鐵道ノ開
 通ヲ見レハ安東ニ亞ク重要地ニシテ人口
 ニ十萬ヲ目途トスル大都市ヲ建設ノ豫定
 ヲ以テ大澤調査主任以下滿人五名ハ縣農

3)

8

會ニ事務所ヲ置キ通溝一羊魚頭間ノ都市
 計畫ノ爲測定ノ筈ナリ
 尚右測定ハ二十五日間ノ豫定ニシテ守田
 囑託ハ右地區ヲ下検査ノ上二十三日頃新
 京ニ歸還ノ豫定ナリ
 九月二十日六月以來第一區東崗ニ位置シ
 梅輯線鐵道敷設豫定線ノ測量ヲ實施中ノ
 滿鐵輯安調査隊ハ豫定ノ測量ヲ了シ諸器
 材ヲ取纏メ通化ヲ引揚ケ一部ハ又滿鐵本
 社ニ引揚ケタリ
 東廻(大青溝)双岔頭一六道溝ヲ經テ通化ニ至ル線
 又ハ西廻(麻線溝)双岔河台ヲ經テ通化ニ至ル線
 二爲スヘキヤハ更ニ通化調査隊ニ於テ老
 嶺以北地區ヲ調査ノ上決定ノ筈ナリ

二、
臨江縣

阿片裁取ノ終了ニ伴ヒ各根據地ニ歸還シ
 タル各匪團ハ相當豐富ニ取得セシ軍資金
 ト兵カノ集結ト相當俟テ其ノ活動傾ニ活氣
 ヲ呈シ嶺東地區六七道溝上流ニハ匪首文
 明軍双勝東山等ヲ首領トスル約四〇〇名
 蟠居シ又三四五道溝上流ニハ依然老長青
 蟠居シ匪首双江馬興山青山好等ヲ采配シ
 テ其ノ兵力五〇〇ヲ下ラス一方久シク當
 縣ヨリ姿ヲ没シアリタル紅軍匪揚請字ハ
 日滿軍警ノ間断ナキ討伐追撃ニモ屈セス
 巧ニ繁茂期ヲ利用シテ之等警備機關ノ嚴
 重ナル警戒網ヲ脱出シテ九月上旬ヨリ嶺

西地區ニ現ハレ常ニ敏活ナル行動ヲ以テ
 各地ヲ横行シアリ
 斯ノ如クシテ一旦集團化シタル各匪團ハ
 既ニ穀物ノ收穫期ニ入リタルトハ言ヘ未
 タ收穫シ非サル為糧食ヲ得ルニ困難ニシ
 テ且ツ嶺西嶺東共ニ曰滿軍警ノ配備完了
 シ之等警備機關ノ討伐ヲ避クル為ト其ノ
 行動ノ敏活ヲ計ル為漸次分散的行動ニ移
 レリカ為紅軍匪ヲ除ク外百名以上ノ集
 團匪ヲ見サルモ其ノ行動ハ神速ニシテ
 人質拉致放火殺傷等ノ悪辣不逞ノ行動ハ
 前月ニ比シ増加ノ兆アリ就中匪首平不ノ
 一隊約八〇名ハ八月二十一日正午頃二道藩
 中江縣城ヨリ撫松縣

城ニ歸還途中ニアリシ馱馬群ヲ邀撃シタ
 ル事件ノ如キハ兩縣取司商人ニ對シ相當
 ノ脅威ト打撃ヲ與ヘ又八月二十七日午前
 十時頃青山好ノ一味ハ第一區大栗子溝附
 近ニ於テ上航中ノ高瀬舟ヲ襲ヒ日本人齊
 藤要吉ヲ拉致翌ニ十八日ハ晝間帽見山
 市街ニ二名ノ匪賊侵入金品ヲ強奪逃走セ
 シタル如ク内一名射殺相當嚴戒ヲ要
 スルモノアリ
 尚注意ヲ要スヘキハ冬期準備ノ為物品要
 求ノ脅迫ハ益ニ増加シ又匪團ハ比較的物資
 ノ豊富ナル江岸地帯ニ進出ノ状態ニアル
 ヲ以テ縣内ノ治安ハ樂觀ヲ許ササルモアリ
 縣内ノ治安以上ノ如キ状態ニアルモ彼等

輯安縣

匪賊ノ唯一ノ賊源タル木業者トノ關係ハ
 曩ニ我カ帽鬼山守備隊ノ討伐竝ニ配屬憲
 兵ノ檢擧ニ依リ一齊ヲ白日下ニ曝サレ其
 ノ確證ヲ握ルニ至リタルヲ以テ滿洲國及
 關東軍中央部ニ於テモ急遽其ノ根本對策
 ヲ樹立セリ、因テ安東省ニ於テモ森林警備
 要領案ヲ策定シ森林警察隊七三五名ヲ編成
 九月二十一日臨江ニ於テ開隊式ヲ舉行シ
 縣下嶺東地區ニ配置ノ豫定ナリ
 之カ完了ノ曉ハ滿軍混成第三旅及第二旅
 ノ配置ト相俟テ縣内ノ治安ハ漸時回復ス
 ルモノト恩料セララル

東部臨江縣境ニ九州匪ノ一味九洋綠林好

通

校生徒徒其ノ他五名ヲ拉致シ嶺後桓仁縣境
 =ハ紅軍匪ノ侵入ヲ見タル等嚴ニ警戒ヲ
 要スル狀況ニアリ
 紅軍第五團ハ夏季討伐以來依然東北部附
 近ヲ流動シアリシカ八月末揚匪之ヲ率ヒ
 金川方面ニ移動シ紅軍匪ノ大ナル若動ヲ
 見サリシモ第五六區ニハ土匪各所ニ若動ヲ
 ヲ五鳳閣匪ハ依然トシテ東南方地區ニ蟠
 居シ西南方地區ニハ紅軍匪韓頭目西山好
 登局好愛國軍大赫軍等約二五〇橫行シア
 リ然レ共八月一十ハ日關東軍本部隊ノ
 域廠溝附近ニ於ケル戰鬪ニ依リ韓頭目以
 下十餘名ヲ殪シ又通化ヲ中心トシテ實施

中ノ歸農工作ハ治安上大ナル効果ヲ齎シ
タリ
匪賊分布概況要圖第五圖ノ如シ

第三警備機関

一 関東軍

臨江縣方面

八月二十日午後十一時八道江守備隊員四名ハ全地警察隊員十名内自衛團員四名ヲ卒ヒ入道江北方一邦里秋皮溝磁子門附近ノ警戒ニ出勤シ二十一日午前一時頃突如紅軍第一連(約十数名)ト衝突交戦賊ヲ北方ニ撃退賊三名ヲ殲シ拳銃三挺ヲ鹵獲我ニ自衛團員一名戦死セリ

乙 夏季討伐ニ引続キ縣下第六区八道江ニ駐屯中ノ関東軍独立守備隊第五大隊通化守備隊堀田特務曹長以下三名ハ八月二十日増田中尉以下三名ト交代セリ

二輯安縣方面

八月三十日午前六時三十分滿鉄測量掩護
 仁任ヲ帶ヒ東崗ニ駐屯中ノ山木部隊ハ桓
 仁縣四平街附近ニ於テ小白竜九江好等ノ
 合流匪團約四〇名ト交戦賊二十九名ヲ殲
 シ一名ヲ逮捕セルカ下士官一上等兵一戰
 死山本中尉以下六名負傷セリ
 第三大隊第一中隊(鞍山)附山田中尉ハ交代
 ノ夕八飛行機ニテ桓仁ニ來リ山本中尉ノ
 任務ヲ引続セリ
 乙九月三日午前十時三十分通化守備隊長藤
 田大尉ハ新任挨拶ヲ兼テ飯順工作指導並
 治安狀況視察ノ為飛行機ニ便乘來輯午後
 一時飯還セリ

ロ)

満軍

臨江縣方面

臨江縣城駐屯中ノ混成第三旅騎兵一ヶ連

及附一ヶ排ハ濠江縣濠溝ニ駐屯警備ニ任

スルコト、十リ八月二十二日午前七時臨

江出發濠江ニ向ヘリ

乙縣下六道江駐屯中ノ混成第二旅歩兵第七

團第三連曹排長ハ一ヶ排ヲ卒ヒ八月二十一

日午前四時出發通化縣第三区火小梨樹沟

一帯ヲ搜索シタルニ今日午前八時火梨樹

溝附近ニ於テ匪首双興海山、北海、東江、好大

平等ノ合流匪二百余名ト遭遇交戦中午前

十一時該團第二連一挺ノ應援隊到着午

後四時迄激戦遂ニ賊ヲ北方ニ撃退賊五名

又遺シ負傷者十余名ヲ出サシメ我ニ兵一
 名戦死ス
 又混成第三旅指揮下ニアル第一旅歩兵第一
 營長滿瑪第八六道舊ニ駐屯セルヲ機會ニ全
 地附近ニ幡居中ノ匪賊ヲ収順セシムハク
 工作中ニアリタルカ匪首文明軍トハ既ニ
 書信ヲ往復シアリタルモ遂ニ収順成立セ
 サルモノノ如シ
 又九月七日午後十時六道舊駐屯滿軍第一旅
 第一營第一連(附二)ハ老黑沟附近ノ匪賊掃
 蕩ノ爲出勤八日午前八時頃匪首文明軍ノ
 一味約八名ト遭遇交戦ノ結果賊三名ヲ
 殲シ人質七名ヲ奪還ス我ニ李警士一名戦
 死ス

二 輯安縣方面

一 在通化滿軍混成第二旅 = 於テハ依然一部
 ヲ以テ輝江上下航船並流筏掩護 = 當リ
 主力ヲ以テ思想政治匪ヲ目標トスル討伐
 = 在シアル力高放長下元中佐(軍事教官)ハ
 隸下部隊ノ軍紀肅正討匪督戰指導ノ為騎
 兵一ヶ連、哨一ヶ連、護衛ノ下 = 八月二十一日
 午前九時通化出發熱水河子八道江紅土崖
 六道溝(通化縣)輯安縣(富爾江)口快當帽
 子駐屯ノ各部隊ヲ巡視シ九月七日午後四
 時通化 = 飯還セリ

警察

一 臨江縣方面

一 八月十八日撫松縣城商人等ハ全縣警察隊

十五名護衛ノ下ニ臨江城ニ商品購入ノ
 爲末臨今月二十二日午前九時各商人ハ商
 品ノ購買ヲ終リ馱馬總數約二〇〇頭ニ滿
 載縣城出發飯還ノ途ニ就ケル力途中ニ道
 滿吊桿滿ニ差懸ルヤ突如平來ノ一味約八
 〇名ノ爲襲撃セラレ警士温秀明以下三名
 拉致長銃七挺及全彈藥二百八十発並ニ商
 品總價格約六百圓ヲ強奪シ逃走セル事件ニ
 関シ帽兎山守備隊長ノ命ニ依リ縣城ヨリ
 縣警察隊四五名及間枝溝警察分駐所員二
 〇名ハ翌二十三日午前四時各駐屯地ヲ出
 発賊ヲ挟撃スヘク吊桿溝奥地ニ向ヒ出動
 全二十五日午前二時溝滿ニ於テ追撃交戦
 ノ結果被拉致者巡警士以下三名及銃器七

艇ヲ奪還セリ

2、珍珠門警察分駐所長ハ九月八日午後六時
所員九名ヲ率ヒ四、五棚溝(珍珠門)東北方十
五支里地方ニ匪賊搜索ノ為メ出勤シ七時
半頃空地ニ於テ匪首好友合好ノ合流匪十
三、六名ト遭遇交戦ノ結果賊ヲ密林中ニ撃
退驟馬三頭及人質二名ヲ奪還ス我ニ損害
ナシ

3、八月二十六日上航プロパシ船ニテ左記日
系警士著任目下縣公署警務局ニテ勤務中

左記

警士 奥村鶴吉

山田義雄

清水治七

八月二十七日第一區大栗子溝ニ於テ齊藤
 要吉ヲ拉去セララルヤ直ニ曰滿軍警ノ合
 同討伐ヲ實施シ之カ救出ニ努メタルニ目
 的ヲ達シ得ス依テ縣山代參事官ハ討伐ニ
 依ル救出策ヲ一時中止シテ大栗子溝附近
 ヲ横行スル匪賊ヲ斂順セシメ以テ齊藤要
 吉ヲ同行セシムル計臣ヲ立テ九月二日平
 野指導官及捕警察大隊長並曩ニ斂順セル
 匪賊二名ト便衣隊十七名ヲ以テ第四區葺
 沙河ニ派シ同地附近ヲ横行スル匪首千福
 有以下五名ノ斂順工作ニ銳意努力セシ
 メタル結果斂順工作ハ相當順調ニ進捗シ
 アルヲ以テ今月八日山代參事官ハ葺沙河
 ニ出張爾後ノ工作ヲ指示シ今月十日一先

二 緝安縣 縣城 = 飯環セリ

人曰系警察官並警務局長異勤

曰系警士 伊藤 朝兵

△ 安田 正次

右新 京南 中央警察學校卒業 緝安縣警務局勤務被命 八月二十四日 若任ス

警務局勤務 警佐 堀江 正一

巡官 皆川 雅雄

外念 若警察署勤務 同 寺崎 常次

良民 向子警察署勤務 警長 磯貝 長美

通 荷警察署勤務 警士 安田 正次

△ 上 巡官 甲斐 清人

△ 下 警士 小澤 新作

青溝子警察署勤務巡官 有川 章一

警士 伊藤 朝兵

右九月五日附警察ノ鞏化甫正ノ為メ各頭

書ノ通配届セシム

警務局長 警正 劉 興 邦

任 桓 仁 縣 警 務 局 長

主席指導官(警正) 堀 江 正 一

任 通 化 縣 警 務 局 指 導 官

指導官 逃官 甲 斐 清 人

任 森 林 警 察 隊 配 屬

九月十一日迄ニ右ノ通駁出命令ニ接シ九

月十六日韓安出悉赴任ノ途ニ就ケリ

九月九日滿洲國皇帝陛下御親臨ノ下ニ舉

行セラルタル大典觀艦式、滿洲國承認記念

日ニ當リ安東省公署警務庁ノ指令ニ基キ
特別警備ニ服シタルカ孰レモ無事経過セ

又

警察隊ノ飯類ニ作援助日系警察官ノ異
勤森林警察隊要員派遣往上司ノ護衛等

ニテ警備力ハ著シク減退シ且統制ヲ欠キ

八月十八日外会請警察署勤務警士二名自

衛團員二名ノ投遜逃亡ヲ始メ九月七日第

二区榆樹林子江口警察派出所ヲ襲撃セル

匪團得局好以下二十余名ハ銃器ヲ掠奪警

士二名自衛團員二名ヲ拉致シ更ニ九月八

日外会請警察署警士二名ハ匪賊ニ豹変セ

ル等不祥事連発シ縣當局ヲ始メ関係各機

関ハ之カ矯正ニ努力シアリ

山林警備團(臨江縣方面)

八月二十四日三道溝流域螞蟻河駐屯ノ山林警備團第四分團長八部下四名ヲ卒ヒ採木公司員ヲ護衛シ李家磁子ニ達シタルニ全午前九時頃文明軍ノ一味約七名ヲ発見直ニ攻撃賊一名ヲ捕虜長銃一挺ヲ鹵獲セリ

目下締成余上ニアル森林警察隊編成セハ從來ノ山林警備團ハ之ニ合隊解消ス(九月三十一日同隊式舉行ノ予定)

自衛團(臨江縣方面)

小運首廣山軍着團軍ノ一味八名ハ八月十日第四区腰峯子ニ現ハレ全地居住鮮人及満人ノ二名ヲ拉致逃走セルヲ以テ葬沙

河警察署員七名ト協力(自衛團員三名)追索
 交戦ノ結果被拉致者一人一名ヲ奪還セリ
 二八月二十七日午前一時頃七道着自衛團員
 十四名八火通沟地方ヲ逃邏中匪首保命軍約
 四〇名ト遭遇セシカ寡少ノ人員ヲ以テ克
 ク勇敢ニ奮戦セル結果賊ヲ北方ニ擊退人
 質四名ヲ奪還セリ
 三九月五日午後十時頃臨江縣河西自衛團員
 五名ハ夜間巡邏ノ爲第一区干溝子沟門方
 面ニ赴キタルニ突如小匪首双山好ノ一味
 四名ト遭遇交戦ノ結果賊一名ヲ斃シ拳銃
 一挺ヲ鹵獲我ニ損害ナシ
 四九月十二日午前一時六道着警察署十四名
 出動ニ際シテ全地自衛團員六名協力出動

第七区大恒道河子沟裡老房^身子沟ニ於テ匪
 首全勝軍九勝軍ノ合流匪約三〇名ト交戦
 入賈五名ヲ奪還賊ニ名ヲ殘セリ

交通通信

第四交通通信補給經理衛生ノ概況

一 臨江縣方面

城内道路改修狀況ニ就テハ既ニ報告ノ通
 リナリシモ縣當局ニ於ケル検査八月十五
 日ヲ諸種ノ事情ニ依リ遅延九月一日検査
 ヲ終了シ茲ニ該道路改修モ愈々完成トナ
 リ而シテ一新スルニ至レリ
 而シテ之レカ改修實施ニ方リ最モ功績顯
 著ナリシ臨江警察署長審福泰外十三名ノ
 表彰狀授與式ヲ九月十五日滿洲國承認三
 週年記念式典ノ機會ニ舉行セリ
 二 縣下ノ自動車道路タル臨江——通化臨江
 撫松間ハ七月下旬ノ豪雨ニ依リ多大

ノ損害ヲ蒙リ金ク自動車ノ通行不可能ノ
状態ニアルモ其後ニ於ケル改修工事ハ當
局ノ熱誠ト一般民ノ理解アル努力ニ依リ
著々進捗シ十月初旬迄ニハ完成ノ予定ナ
リ

二輯安縣方面

ノ復興工作計畫ニ依ル警備道路改修ハ土木
費三万七千四百圓ヲ以テ康德元年度計畫
ニ依ル左記道路ハ日下安東省公署ヨリ特
次セル中島道路指導員並縣主腦部指導ノ
下ニ賦役ヲ以テ改修中ニアルカ九月末迄
ハ概不完成ノ予定ニアリ

左記

桓仁——輯安線中羊魚頭通溝大平溝外岔

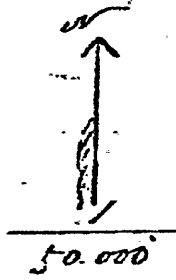
補給

溝大陽念掛牌岑間
 通化——富有街線中富有街双念河間
 二滿鉄輯安調査隊 = 於テ使用中トラック
 十台乗用車二台ハ測量終了シ調査隊ノ引
 揚 = 依リ通化 = 輸送セラレ警備上自動車
 ノ利用價值ヲ減少セリ
 子滿鉄調査隊 = 於テ新京建設事務所(目下四
 半街)トノ通信連絡ノ爲メ設置セル無電台
 並定期飛行機航空ハ輯安調査隊ノ調査完
 了引揚 = 依リ廢止セリ
 本期間特記事項ナシ

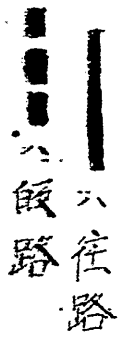
第五編 成裝備一覽表別紙ノ如シ

四道陽金附近掃討行動要圖
(九月五日)

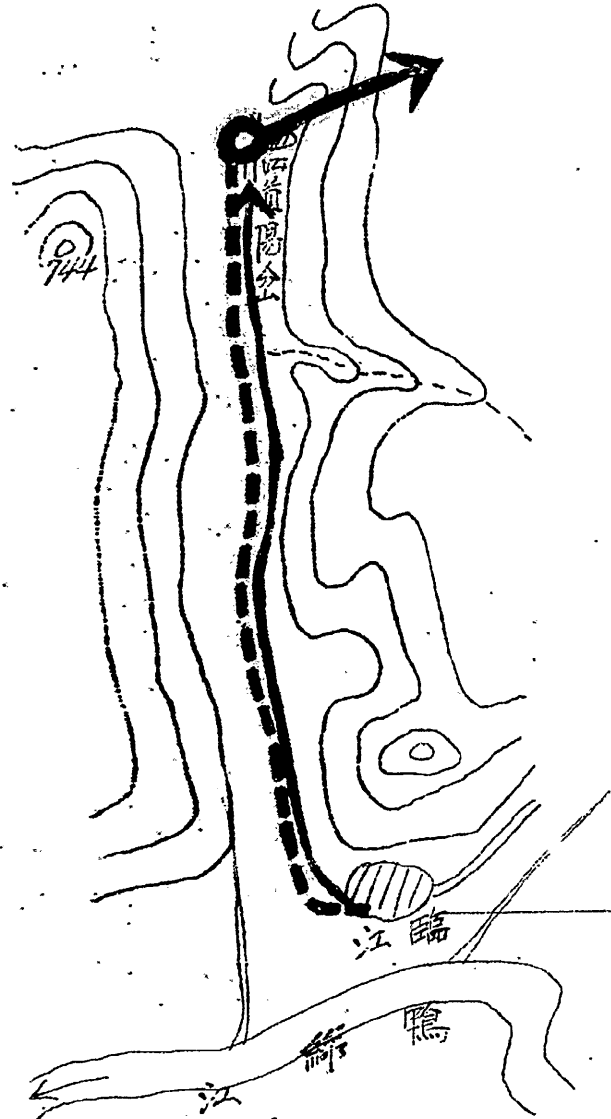
別紙要圖第二



備考



↑ 匪賊逃走方向ヲ示ス

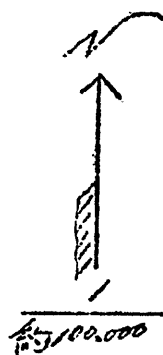


九月五日午前
同日正午飯

通溝小隊警備行動要圖

(九月九日、九月十二日)

別紙要圖第三

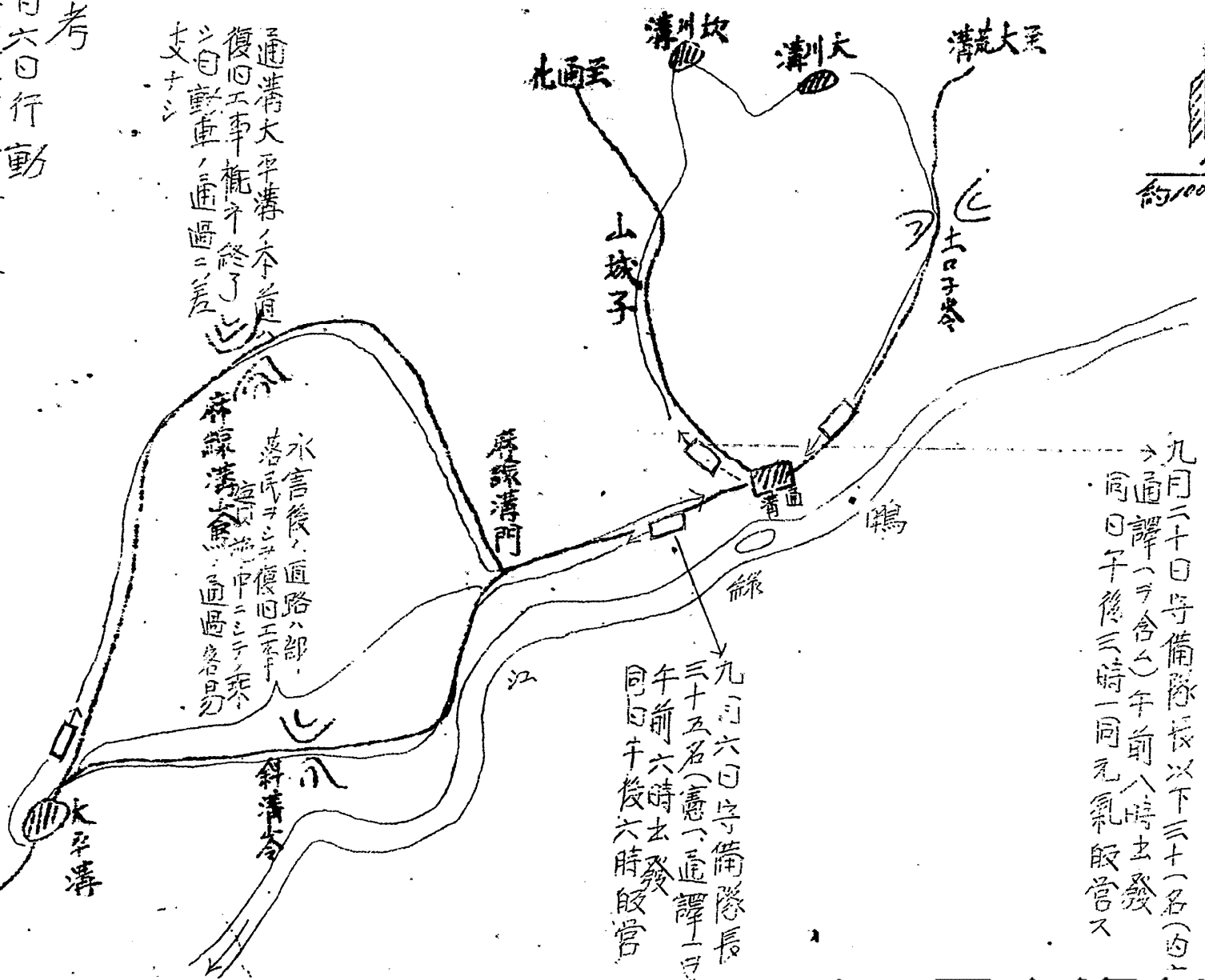


備考

九月六日行動
 最近斜溝、大平溝附近ニ小區ノ去沢、頗繁ニシテ一般民心不安、全溝
 驅ラレ且警備道路ヲ妨害シアルヲ以テ、中警備道路復旧工事
 ヲ指導シ大平溝ニ於テハ住民ヲ集メ、警備指導ヲ實施シ道路復
 旧及民心、是是上多大ノ効果アリタルモノト認ム

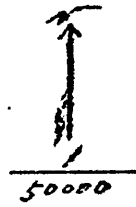
通溝大平溝ノ各道
 復旧工事概テ終了
 シ自對車ノ通過ニ差
 支ナシ

水害後ノ道路ハ部
 落民ヲシテ復旧工事
 中ニシテ、亦
 林線溝ニテ通過容易



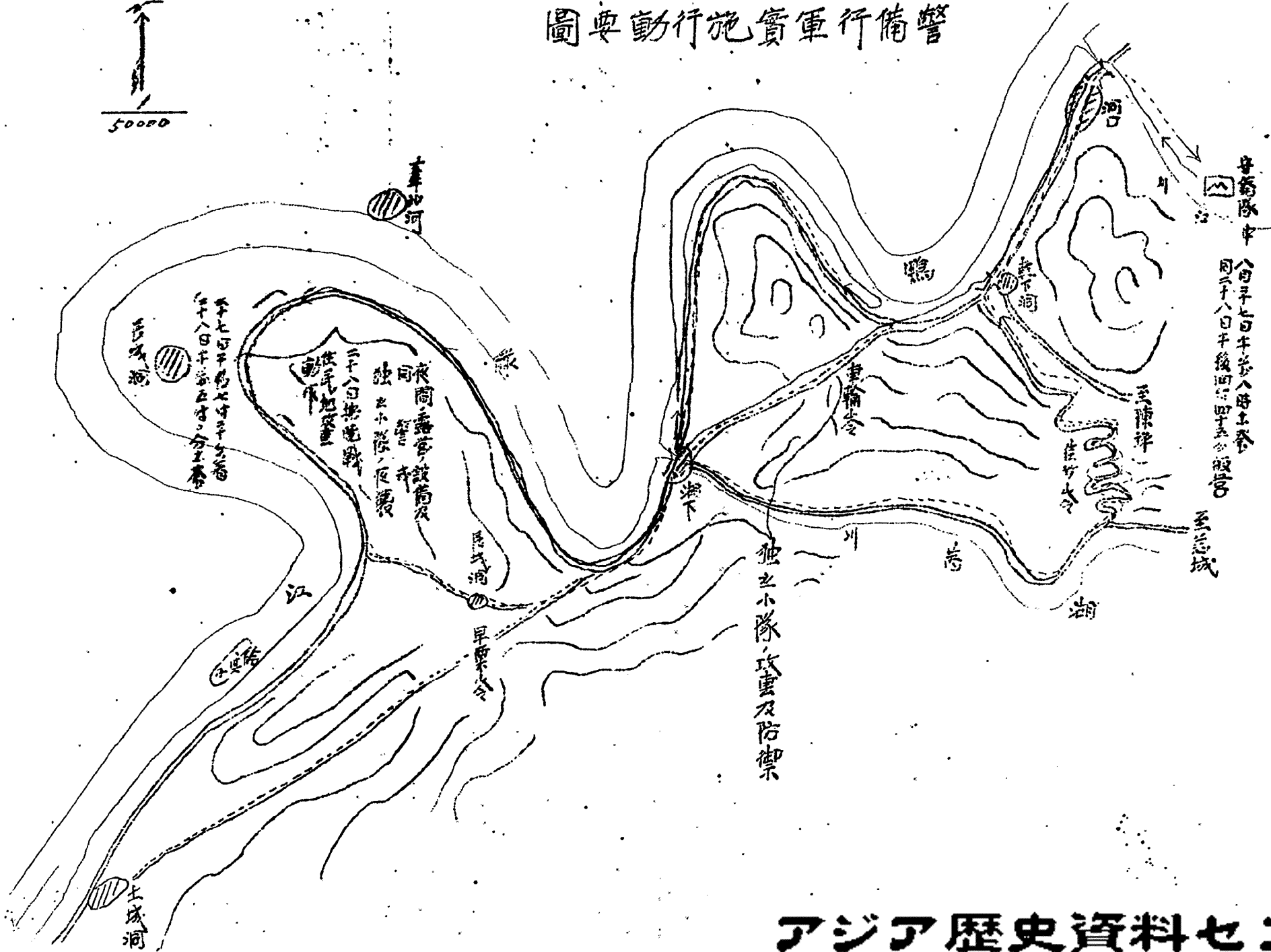
九月二十日守備隊長以下三十一名(内
 通譯一ヲ含ム)午前八時出發
 同日午後三時一同元氣飯營ス

九月六日守備隊長
 三十五名(憲一、通譯一ヲ含ム)
 午前六時出發
 同日午後六時飯營



警備軍行實施要圖

別紙要圖第四

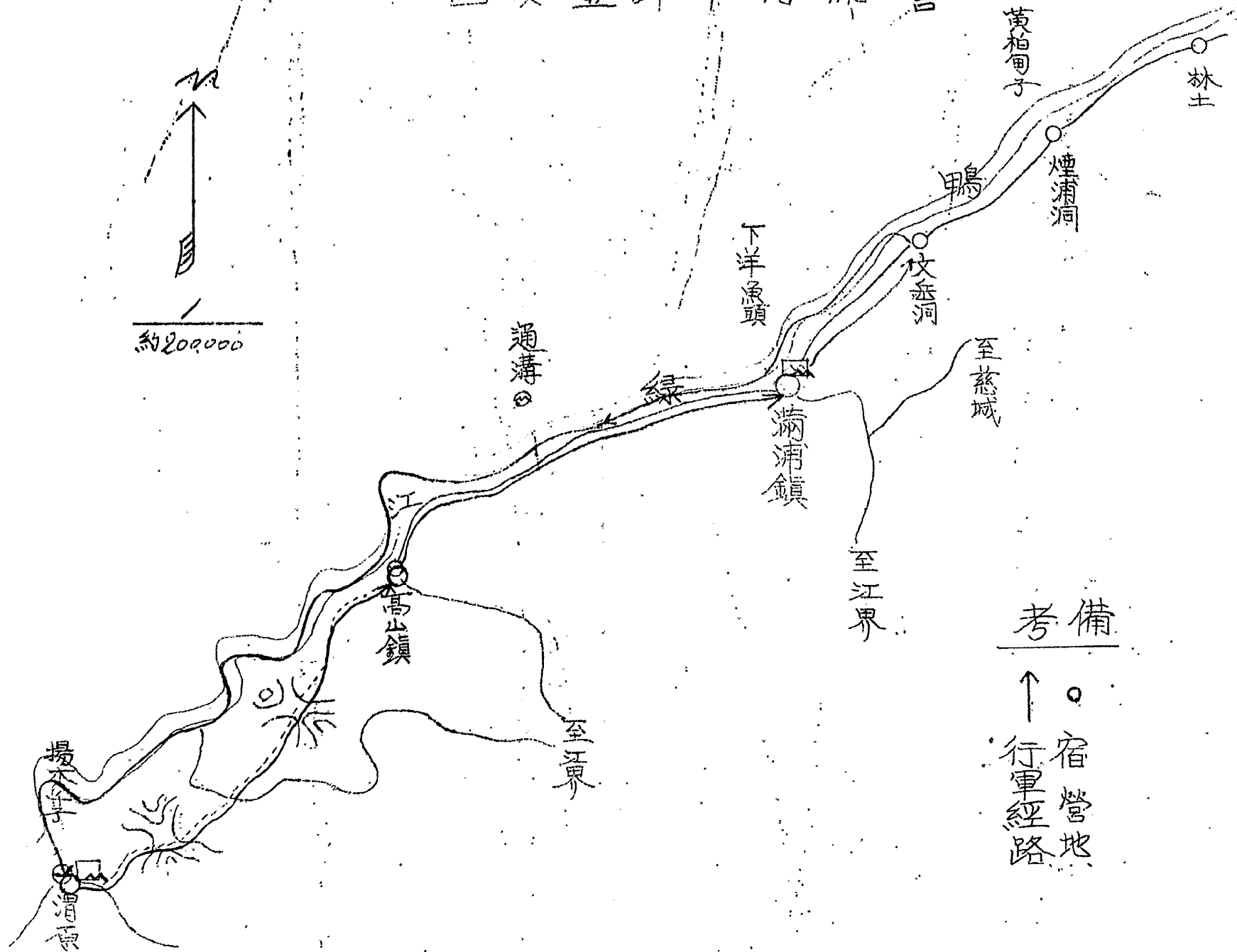


警備隊中
 八月十七日午後八時上陸
 八月十八日午後四時四十分上陸

八月十七日午後八時上陸
 八月十八日午後五時十分上陸

警備行軍計畫畫要圖

別紙要圖第五



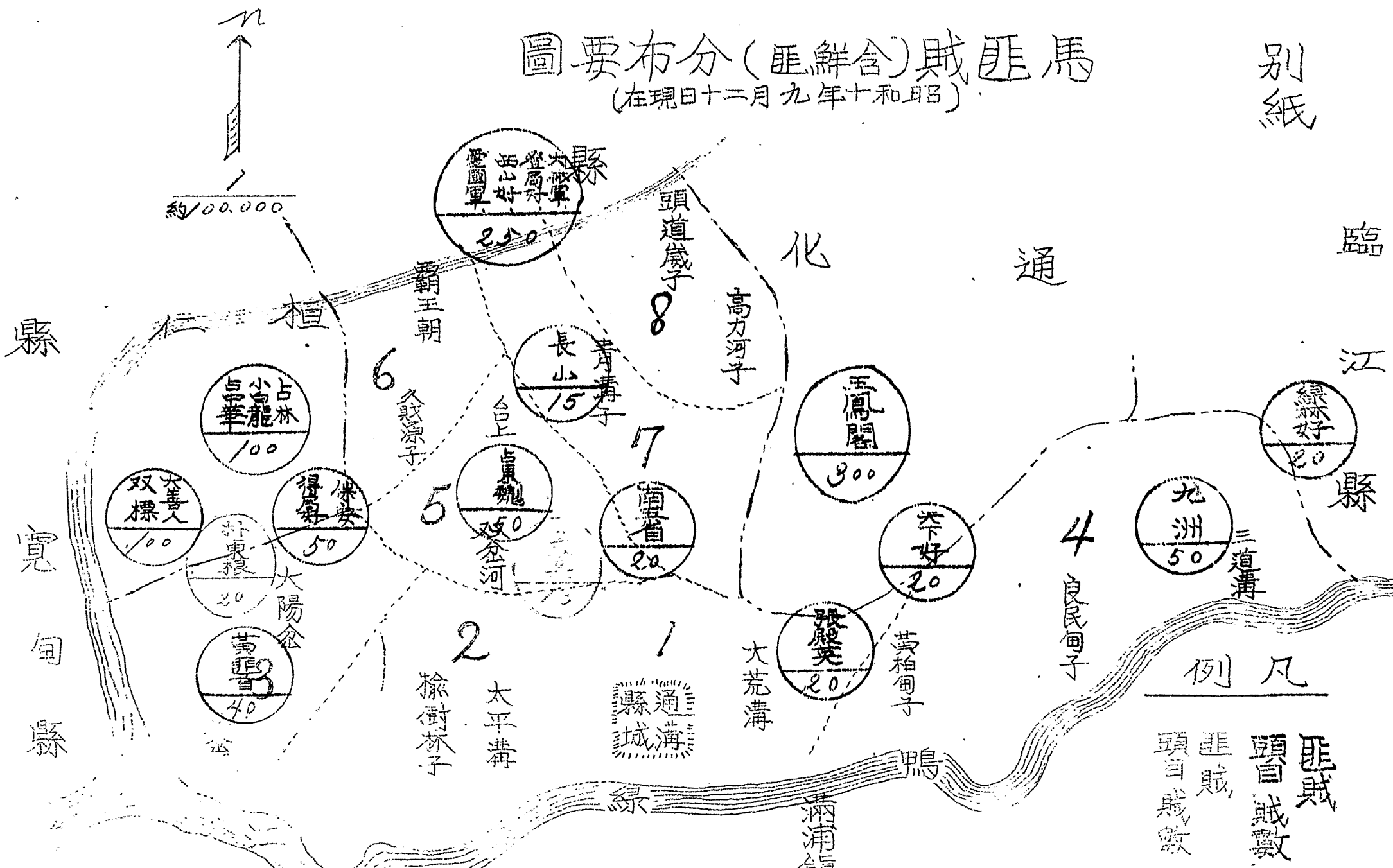
考備

↑ ○ 宿營地
 行軍經路

馬匪賊(含鮮匪)分布要圖

(昭和十年九月二十日現在)

別紙

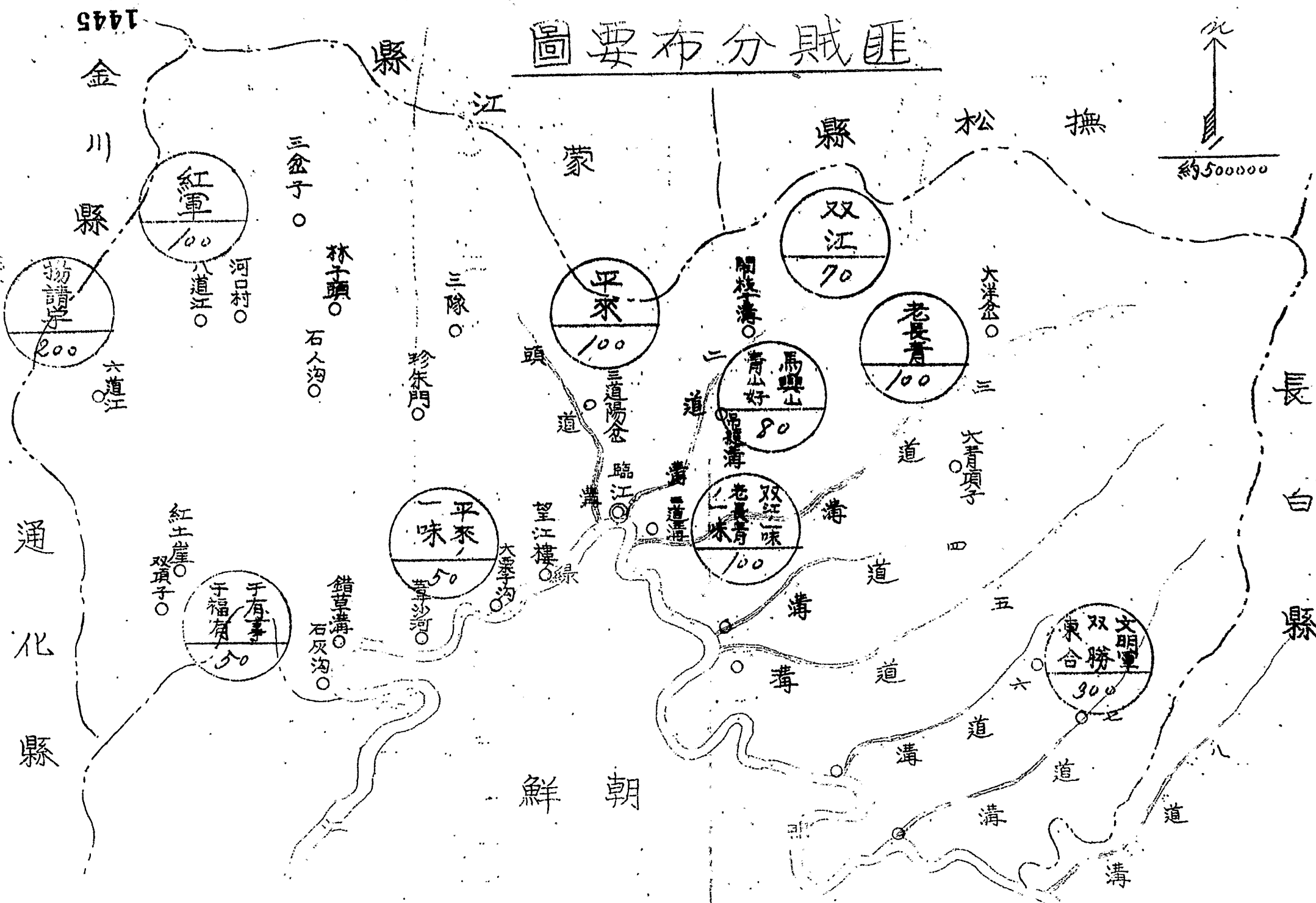


例凡

匪賊 頭目賊數

匪賊 頭目賊數

匪賊分布要圖



別紙

編成裝備一覽表

昭和十年九月二十日現在
歩兵第七十七聯隊國境守備隊

備合	隊部内鮮							隊部境越		分區	
	鎮浦瑞	鎮江中	城慈	留厚	界江		通瑞	豐	地屯駐	除	
	藤崎秀一	田中義一	坊城義人	高橋賢明	松田光作	松田光作	北山茂	野中勇			
計	第3隊	第3隊	小隊	小隊	第3隊	第3隊	本部	小隊	小隊	號	分
20	3	3	2	2	3	2		3	2	筒	彈
14	2	2	1	1	2	2		2	2	G	L
7	2	1			1			1	2	G	M
1								1		A	L
3	1	1							1	砲	山
1							1			佐	中
5	1	1			1	1	1			尉	大
3				1			1		1	尉	中
5		1	1		1	1		1		尉	少
8	2	2			1	1		1	1	官	士
293	1	1	1	1	2	1	1	3	1	長	曹
127	4	5	1	1	4	4	2	2	4	曹	軍
7	2	1			1	1		2		長	伍
55	9	8	3	3	11	6		36	9	兵	等
361	64	66	12	12	66	44		44	53	兵	等
481	83	85	18	18	87	59	6	56	69	計	
1							1			計	主
4	1	1					2			手	計
3	1	1					1			區	軍
5			1	1			1	1	1	長	ヲ
10	1	1	1	1	2	2		1	1	兵	ヲ
3							3			長	工
26	3	3	2	2	2	2	8	2	2	計	部
五〇七	八六	八八	三〇	三〇	八九	六三	一一	五八	七一	計	合
2							2			馬	乘
										馬	飼
										馬	駟
(4)	(1)	(1)						(1)	(1)	計	
(1)2	(1)	(1)					2	(1)	(1)	校	將
18	2	3	1	1	2	2	5	1	1	官	士
8	2	2			1	1		1	1	官	士
54	8	9	3	3	7	6	29	5	6	官	士
425	74	75	16	16	79	52		51	62	兵	
504	86	87	20	20	87	61	14	57	70	計	
162	(1)	(1)					2	(1)	(1)	匹	馬

人員桐中將校トアル相當官知セルヲトス

摘

1947

秘

歩七八守常第四一號

昭和十一年九月二十五日
歩兵第七十八聯隊國境守備隊

印

歩兵第七十八聯隊國境守備隊月報
自八月二十一日

目次

- 一、警備討伐ノ概況
- 二、政情並治安ノ概況
- 三、關東軍並滿軍警察隊ノ情況
- 四、交通通信狀況
- 五、編成裝備表

報告通報先

二、師、步三九旅、步七八、步七七守、新憲、隸下各守

外倉溝守備隊警備(討伐)ノ概況

(一) 九月三日午後九時頃系統不明ノ賊數名ハ
 第三區灣溝子入口附近ニ於テ滿人家屋五
 戸ヲ燒却ノ上逃走セリトノ情報ニ依リ之
 カ真相内查ヲ為シ附近民心ノ安定ヲ構ス
 ヘク九月四日午前五時三十分守備隊長以
 下三十三名(憲兵通訳各倉)外倉溝―通天溝
 ―凉水泉子―鷹嘴砦子等ヲ經テ第二區富
 有街附近ニ警備示威行軍ヲ實施シ歸途楡
 樹林子江口ヲ經テ午後六時無事歸隊シ夕
 ルカ沿道各有力者ニ對シ匪情ノ速報方ヲ
 指導シ爾後討伐ノ企圖ニ備ヘタル等相當
 效果ヲ收メタルモノト信セラル

(二) 九月九日桓仁縣警察隊ハ同縣伊藤指導官

指揮ニ依リ沙尖子南方渾江沿岸ニ分散
 蠢動スル合流匪團ノ討伐開始ニ依リ外岔
 溝守備隊ハ之等討伐隊ト連絡ヲ兼ネ渾江
 口附近及比較的集團匪ノ横行スル寬甸縣
 碾子溝附近ニ警備示威行軍ヲ為スヘク九
 月十日午前六時守備隊長以下四十名外岔
 溝出發渾江口白菜地榆樹溝子碾子
 溝附近ニ行軍ヲ實施主要家屋ノ搜索ヲ為
 シタルモ特殊情況ヲ認めメス
 九月十五日渾江ヲ上航桓仁縣沙尖子ニ向
 フ高瀬船五十余隻ハ桓仁縣伊藤指導官ノ
 率ユル警察隊七十名ノ援護ニ依リ上航途
 中匪首大善人以下合流匪約三百名ノ為同
 縣下金坑(沙尖子南方)附近ニ於テ渾江兩

岸山上ヨリ狭撃ヲ受ケ積載物資ノ悉クヲ
 掠奪セラレタル上護衛警察員ニ数名ノ負
 傷者ヲ出シタリトノ情報ニ基キ外倉溝守
 備隊ニ於テハ之等匪情搜索ノ上討伐ヲ實
 施スヘク九月十六日午前五時三十分守備
 隊長以下三十九名外倉溝出發渾江口一門
 坎哨一太川溝一高力墓子一下漏河口一夾
 皮溝門附近ニ警備行軍ヲ實施シタルカ行
 軍途中下漏河附近ニ於テ匪首大善人以下
 五六十名ハ下漏河江岸ニ潜伏シ船舶積載
 ノ雜貨ヲ揚陸運搬中ナリトノ情報ヲ得急
 據之カ殲滅ヲ決意セル守備隊長ハ部下分
 隊ヲ分散セシメ包圍態勢ヲ整へ一齊ニ猛
 射ヲ浴セタルカ渾江ヲ隔テタルト附近一

帶高粱畑ナルニ加ヘテ四圍密林中ナリシ
 シ以テ攻撃意ノ如クナラス僅カニ數名ヲ
 射殺スルノミニシテ賊ヲ奥地馬架子(下漏
 河奥地六料)附近ニ四散セシメタリ
 而シテ守備隊ノ急據奥地進出ニ依リ諸雜
 貨ヲ掠奪運搬中ノ賊ハ周章狼敗掠奪品ヲ
 陸揚ケ或ハ附近畑中ニ放置潰走セシラ以
 テ被掠奪物資ノ約半量ヲ奪還シ桓仁縣警
 察隊ニ移管シタル等ハ其效果大ナルモノ
 アルハ勿論附近匪團ニ與ヘタル脅威亦尠
 カラサルモノアリト信ス

二、小鋪石河守備隊警備の概況

一般住民ハ衣食ニ窮シアリタル折柄不断ノ
 匪禍ニ遭ヒ自棄的行動ニ出ル者多ク匪團ニ
 投スル者或ハ連絡ヲ密ニシ自己ノ本業ヲ有
 利ナラシムル者等續出ノ傾向ヲ來シ日一日
 ト尖銳化シアル匪賊ノ蠢動ニ鑑ミ各警備機
 關ヲ指導督励迅速的確ナル情報ノ蒐集ニ努
 ノ跳梁匪賊ヲ隨時討伐シ治安維持ニ全力ヲ
 傾注シアリ

一、寛甸縣第六區庫倉沟方面ニ匪賊海青一派ニ
 十数名現レ暴威ヲ振ヒアリトノ報ニ依リ八
 月二十一日午後二時四十分鮮側警察官ト協
 調ノ上包圍攻撃シタルモ賊ハ逸早ク同村西
 北方ニ遁走行先全ク判明セズ附近賊情搜索

茲數名ノ密偵ヲ駐留セシメ同夜十二時歸隊セリ

(一) 九月一日第六區久財溝村ニ匪首不詳ノ匪賊

二十數名現レ暴威ヲ振ヒアリトノ報ニ依リ

隊長以下二十四名之カ討伐ノ夕メ出動シ夕

ルモ討伐隊ノ出動ヲ逸早ク察知シタルヲ

ノ如ク全ク行先判明セス依テ賊ノ動靜ヲ探

索スヘク數名ノ密偵ヲ駐留セシメ同日午後

(三) 五時二十分無事歸隊セリ

九月十六日小鋪石河村李家堡子方面ヨリ匪

賊襲來ノ報ニ依リ機ヲ失セス之ヲ追撃約ニ

十分ニ互ル交戦ノ結果人質二名ヲ奪還該匪

ヲ庫倉溝方面ニ四散潰走セシメ爾後ノ失態

ナキ様各望樓ニ於テ嚴重ナル檢問ヲ為シ匪

三

賊ノ侵入防止ニ努メアリ
政情竝治安ノ概況

一 政情
 在奉天顧問部附倉田顧問ハ東辺道各縣保
 甲制度視察ノ為巡歷中ノ處八月中旬上流
 臨江縣内ヨリ來縣直ニ輯安縣内ノ保甲制
 度視察ヲ了シ八月二十三日堀江指導官以
 下護衛警察隊員百余名ヲ隨ヘ第三區外
 溝ヲ經テ桓仁縣内ニ向ケ出發セリ
 而シテ同人ハ爾後桓仁寬甸ノ兩縣内視察
 ヲ終ヘ安東ヨリ歸奉ノ豫定ナリト
 二 滿洲國各地治安確立ト共ニ曩ニ滿洲國皇
 帝陛下ヨリ日滿親善ニ重キヲ措キ滿洲國
 ノ發展ヲ期スヘキ詔書ノ發布ハ今回各縣

々

3. 内小學校ニ下授之カ聖訓ノ徹底ヲ期スル
 コトトナリタルカ當輯安縣ニ於テ又縣下
 六十枝分ノ下附ヲ受ケ漸次治安確立ノ地
 區ヲ追テ下附スヘク去ル九月九日外岔溝
 男女小學校及大陽岔小學校ノ三校ニ之カ
 下附ヲ受ケ九月十一日午前十時ヨリ日
 滿官民參列ノ上拝授竝奉讀式ヲ舉行シ夕
 ルカ式場ニ於テ外岔溝小野守備隊長ノ「日
 滿親善ト滿洲國ノ發展ニ付約二十分ノ祝
 辭ハ官民ニ相當ノ感動ヲ與ヘタルモノト
 信セララル
 3. 滿洲國承認記念日タル九月十五日ハ在外
 岔溝官民ニヨリ當日ノ祝典ヲ計画セラレ
 午前十時ヨリ外岔溝小學校ニ於テ小學生

ノ帝國々歌合唱裡ニ擧式警察署長ノ開會ノ
 辭ニ次テ守備隊長憲兵長各官民有志ノ祝
 辭アリテ午前十一時三十分萬歳聲裡ニ散
 會セリ

又輯安縣汪縣長並佐藤副參事官ハ縣内宣撫
 工作ヲ兼ネ管内情況視察ノ為約ニ週間ノ
 豫定ヲ以テ田警察大隊長通溝警察署長ヲ
 帶同警察第二中隊長以下三十名護衛ノ下
 ニ九月十六日午前七時三十分自動車ニテ
 通溝出發第六區久財源子ニ向ヒ夕リ
 五九月十八日滿洲專變記念日當日小鋪石河
 ニ於テハ商務會朝鮮人民會主催守備隊警
 察署之カ後援市街中央廣場ニ於テ午前八
 時三十分ヨリ慰聖祭並日滿聯合運動會ヲ

(一)

輯安縣

開催參加者在小鋪石河各官廳學校並近村
 各村公所學校等ニシテ約二千名ヲ募リ終
 始極メテ円滑ニ實施セラレ記念業事トシ
 ラ相當意義アラシメ尚且日滿親善上大
 ノ効果ヲ齎シ同日午後四時三十分無事終
 了セリ
 而シテ參加各團體學校生徒ハ直ニ市街旗
 行列ニ移リ守備隊警察署前ニ於テ日滿兩
 國ノ万歳ヲ三唱シ同五時三十分解散セリ
 治安ノ概況

以匪賊情勢トシテハ今尚各地共小匪ノ出沒
 頻々トシテ人質拉去ニ依リ身代金ノ強要
 ヲ事トシ稍モスルト江岸ノ都邑地域ニ潛

入セントスノ傾向ヲ窺ハレ嚴ニ注意ヲ拂
 ヒアルヲ以テ特種ノ被害ヲ見サレトモ集
 團匪ハ本期間主トシテ渾江沿岸附近ニ蟠
 居シ結氷期間ノ準備ヲ為スタメニハ渾江
 高瀨舟ノ襲撃ヲ唯一ノ得策トシ常ニ此機
 ヲ窺ヒアルモノ如ク去ル九月十五日本
 年度最終航ノ高瀨船三十余隻ヲ挾撃積載
 物資時價約一万円ヲ掠奪附近山中(夾皮溝
 老黒山下漏河奥地ニ逃避シタル等桓仁縣
 東部及輯桓縣境一帯ノ治安ニ及ホス影響
 甚カラサルト之カ為日滿軍警ノ附近掃蕩
 ノ敢行ニ依リ彼等集團匪ハ何レモ東方輯
 安縣境ニ向ケ分散逃避シタルモ冬營準備
 期ニ入ル昨今治安逆晴シ難キ狀勢ニアリ

寛甸縣

小鋪石河守備隊ニ於テハ引續キ販順工作
 ニ專念スル傍ラ日滿軍警ト相呼應シ跳梁
 匪賊ノ掃蕩ヲナシアル結果彼等賊團ハ例
 年ノ如ク秋季大討伐ヲ豫想シアルモノ
 如ク之等工作ニ對スル反感ハ近時著シク
 狂暴化シ各村ヨリ人質拉去金品強要スル
 傍ラ部落ノ燒却ヲ企圖シ農民ヲシテ賊團
 投入或ハ之カ連絡等ヲ慫慂スル等住民ヲ
 シテ去就ノ岐路ニ立タシメアルノ現況ハ
 治安維持上慎重ノ對策ヲ要スルト共ニ尚
 匪賊ノ經濟的窮乏ヲ滿サンカタメ鴨綠江
 航行船舶襲撃ヲ敢行ス漸次其回数ヲ増シ
 或ハ虛ニ乘シ鮮側襲撃ヲ敢行スルニ至ル

桓仁縣

へレトテ住民ハ秋季大々的剿匪ヲ渴望レ
 アルノ状態ニシテ縣當局ニ於テ之カ善
 後對策トシテ交通々々信網ノ開拓ヲ急キ今
 回省政府ノ補助ヲ受ケ縣内各線警備自働
 車道路ノ完成ニ全力ヲ傾注之カ調査ニ着
 手スル傍ラ隣縣タル桓仁輯安トノ直接通
 信網ノ開發ニ努力シアルヲ以テ之カ完成
 ノ曉ハ相當治安ノ確保ヲ見ルニ至ルヘシ

桓仁縣境附近ニ蟠踞シアル匪團ハ絶ニス
 寬甸輯安縣匪ト氣脈ヲ通シ機ニ乘シ治安
 攪乱ヲ企圖シアリテ現下ニ於ケル同縣治
 安ハ相當錯乱シアルモ目下桓仁守備隊滿
 軍警察隊ノ討伐隊ニ依リ遠カラス治安ノ

ク

平靜ヲ見ルモノト思料セララルルモ惡辣執
拗ナル共匪ハ徹底的殲滅ヲ期セサレハ平
靜ヲ見ルハ至難ナルヘシ

四、關東軍並滿軍警察隊ノ狀況要圖ノ如シ

六月五日滿鐵測量隊援護ノ為來輯東崗ニ駐
屯中ノ關東軍末田中隊ハ教育訓練ノ關係上
元駐屯地大石橋ニ歸還スルコトトナリタル
力之カ交代要員トシテ山本混成中隊八月二
十一日無事交代ヲ了シタリ

之在輯安縣關東軍山本混成中隊ハ去ル八月二
十八日匪賊討伐ノ目的ヲ以テ長以下五十五
名警察隊十名ヲ包含シハ富有街ヲ經テ双岔河
附近ヲ掃蕩シ桓仁縣内ニ進出八月三十日午

前八時桓仁縣下四平街附近ニ於テ小白龍外
 合流匪約一四。名ト遭遇交戦約四時間ニシ
 テ賊ニ多大ノ損害ヲ與ヘ西方ニ撃退セリ
 只輯安縣警務局ニ於テハ最近日系警察官ノ充
 實ニ伴ヒ縣下各警察署ノ肅正ヲ期スヘク日
 系ヲ配置セシムルコトトシ九月五日附左記
 ノ通り發令シタルカ九月中旬頃何レモ赴任
 ノ豫定ナリ

左記

外岔溝警察署勤務
 兼榆樹林子警察署

巡官寺崎常次
 警士伊藤朝平

良民甸子警察署勤務
 通溝警察署勤務

警長磯貝長美
 警士安田正次

台上警察署勤務兼
久財源子警察署勤務

巡官 甲斐清人
警士 小澤新作

青溝子警察署兼

巡官 有川章一

頭道歳子警察署勤務

警士 欠

4. 禮仁警察隊七十名ハ伊藤指導官ノ指揮ニ

依リ九月十日來渾江沿岸ニ進出集團匪ノ

掃蕩上下航船舶ノ援護ニ任シアリ

5. 輯安縣警察隊又各地ニ出動討匪並各區防

備施設建設護衛等ニ任シ縣内治安維持ニ

努メアリ

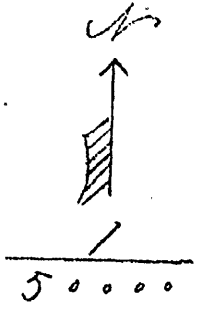
6. 在桓仁縣關東軍守備隊ハ同縣沙尖子ヲ經

テ寬甸縣下瀋河附近山各ニ迂避セル匪首

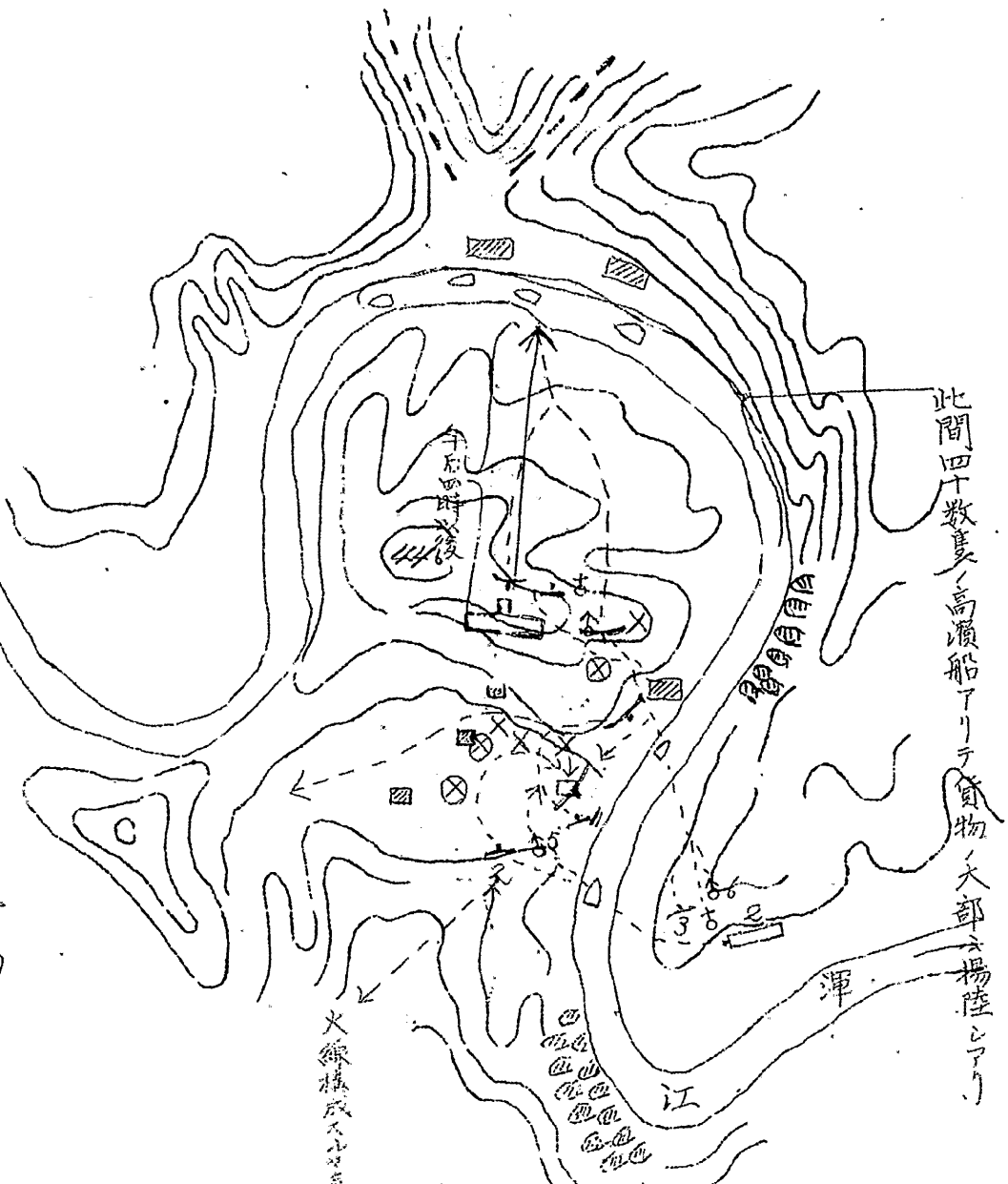
大善人以下合流匪二百名ノ搜索掠奪品ノ

五、奪還整理並之レカ輸送援護等ニ任シタリ
 交通通信其他参考事項
 輯安縣西部地区ニ於ケル交通通信網ハ本旬
 ニ入り殆ント復旧シ差當リノ不便ハ感シア
 ラサルニ警備道路ハ今尚橋梁完備スルニ至
 ラス自動車ノ通行不能ナリ

圖要動行伐討近附子河漏下隊備守溝盆外
日六十月九



- ⊗ ハ遺棄死体
- × ハ隠匿シアリシ貨物
- ▨ ハ賊揚陸集積セシ貨物



此間四十数隻ノ高瀬船アリテ貨物ノ大部ハ揚陸シアリ

火線横成スル

朝特報第三二號

昭和十年十月
朝鮮軍參謀部

國境守備隊月報(九月)

目次

- 一、間島臨時派遣隊琿春支隊月報
- 一、歩兵第七十三聯隊國境守備隊月報
- 一、歩兵第七十四聯隊國境守備隊月報
- 一、歩兵第七十五聯隊月報
- 一、歩兵第七十六聯隊國境守備隊月報
- 一、歩兵第七十七聯隊國境守備隊月報
- 一、歩兵第七十八聯隊國境守備隊月報

陸

秘
一〇九

朝鮮報第二五號

昭和十年十一月
朝鮮軍參謀部

國境守備隊月報(十月分)

恩賞第 五 號

陸軍省 11.1.21

昭和十年十一月二十五日
後千 官

11.1.10
衛生課

陸軍省 10.11.26
馬政課

富田

陸軍省 10.11.28
第 5 動員課

陸軍省 10.11.28
第 5 動員課

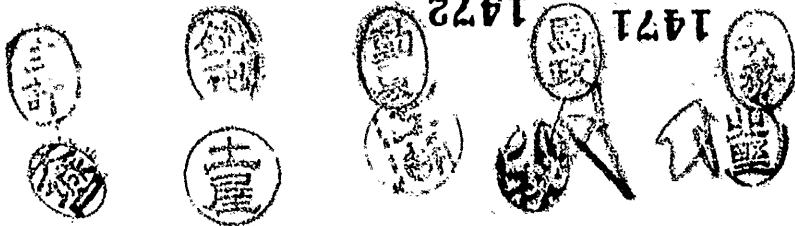
別冊一部
一月二十日

別冊一部
一月二十日

外丹多
及赤

閱

1471 1472



卷第一〇九

朝鮮特報第二五號

國境守備隊月報(十月分)

恩賜第五號

昭和十七年十一月
朝鮮軍參謀部



目次

- 一、琿春臨時派遣隊琿春支隊派遣月報
- 一、步兵第七十三聯隊國境守備隊月報
- 一、步兵第七十四聯隊國境守備隊月報
- 一、步兵第七十五聯隊 同
- 一、步兵第七十六聯隊 同
- 一、步兵第七十七聯隊 同
- 一、步兵第七十八聯隊 同

1974



派遣月報
(十月)

閩島臨時派遣隊彈春支隊



第一 一般治安ノ概況

本月中ニ於ケル地區内一般治安ノ狀況ハ初旬ニ於テハ前月未ニ引續キ依然トシテ匪賊ノ徘徊ヲ見タルモ、我支隊ノ秋期討伐漸次進捗ヲ見ルト各部隊ノ至嚴ナル警戒及常ニ積極的行動ニ依リ中旬以降逐次縣外或ハ奥地密林中ニ逃走シ殊ニ十月二十七日以降第二期肅正計畫ニ基ク支隊ノ要地ニ對スル兵力配置ノ決定ニ伴ヒ地區内全ク匪賊ノ蠢動斷テル好現象ヲ呈シ庶民齊シク安居樂業ノ實ヲ擧ケツ、マルヲ認ム

然レ共匪賊ハ今次大討伐ニ依リ各方面ニ於テ
 我軍警ノ至嚴ナル警戒及常ニ積極的討伐ヲ受
 ケツアルヲ以テ勢ヒ大匪團ノ行動ヲ許ササル
 ニ至リ爲之小團毎ニ分散潛行シ然モ衣糧物資
 ノ極度ノ窮乏ハ巧ニ我警戒網ノ間隙ニ衆セン
 トスルノ傾向ニアルヲ認ムルヲ以テ依然樂觀
 ヲ許サルモノアリ

第三 匪情

一、共匪ノ情況

候國忠ノ指揮スル約一〇内外ノ武装匪ハ九月下旬ヨリ十月上旬ニ亘リ盤嶺山脈東部山系ヲ根據地ト爲シ或ハ集團シ或ハ小團ニ分レ各地ニ轉々移動衣糧物資ノ掠奪ヲ敢行セントシタルモ各部隊ノ積極的討伐及至嚴ナル警戒トニ依リ遂ニ果サス殊ニ我支隊ノ第一期ニ於ケル各方面根據地々帯ノ掃蕩及第二期ニ於ケル根據地附近要地占領ノ結果遂ニ縣外ニ逃走シ目

下羅子溝、東北方地區ヲ徘徊中ナルモノ、如シ
 尚、輝春北方地區ニハ約ニ三十名ノ一團徘徊セ
 ルモノアリ、又、密江西方地區ニハ十里坪附近ニ
 根據スル武装共匪約ニ三十名時々出沒シ、國道
 建設工事ノ妨害並ニ物資ノ掠奪ヲ企圖セシト
 アリシモ、十月中旬以降遂ニ縣外ニ逃走シ、該方
 面一帯匪影ヲ認メサルニ至ル

二 兵匪ノ情況

土門子北方、輝、東、西縣境密林地帯ヲ根據地トセ
 ル、明山隊及新起軍等總計五六百名ノ匪賊ハ依

然トシテ土門子方面僻地ニ出沒シ人質ノ拉致
 夜糧ノ強要掠奪ニ任シアリシモ我部隊ノ積極
 的討伐殊ニ十月十六日白刀山子南方地區ニ於
 ケル米岡部隊主力ノ明山隊東北義勇軍第二營
 營長以下十四名ノ包圍殲滅及蘭家窪子奧地ニ
 於ケル木村部隊ノ新起軍前哨部隊四名ノ奇襲
 擊滅等ノ結果目下全ク悉ク老黑山方面ニ逃走
 セルモノ、如ク縣内該方面匪影ヲ沒スルニ至
 レリ

三、本月中匪賊ノ出沒及被害狀況尤ノ如シ

出沒回数 三三四

出沒延人員 四八八人

殺致人員 五人

被害金額 一八〇、五〇〇
見積金 一四〇、〇〇〇
見積 四〇、〇〇〇

備考

一、本表ハ匪賊ノ出沒ヲ悉ク計上ス

二、食事需要モ見積計上セリ

三、被害金額ハ現金沙金糧食等トス

四、當地區匪賊一般ノ狀況附圖第一ノ如シ

第三 警備討伐ノ状況

一、琿春支隊ハ前月引續キ一部ヲ以テ關東軍測量隊ノ行動ヲ掩護ニ任セシムル外九月二十八日以降既報計畫ニ基キ琿春地區内外ノ秋期討伐ヲ實施中ニシテ十月二十三日全計畫ニ基ク第一期討伐ヲ終了シ十月二十四日ヨリ逐次第二期配備ニ移リ十月二十七日兵力ノ配置ヲ完了シ夫々担任地區方面ノ警備討伐ヲ實施中ナリ

二、警備討伐ノ概況

其一 討伐隊

I 第一期

自九月二十八日
至十月二十五日

ム米岡部隊

以琿春支隊主力ヲ以テ編成ノ米岡部隊ハ九月ニ
十七日部隊ヲ琿春ニ集結ノ後隣接友軍ニ策應
シ概ネ既定計畫ニ基キ支隊担任區域ノ外圍特
ニ汪清縣東南地區及東寧縣東南部殊ニ蘭家窪
子以北三岔河白刀子方面滿蘇國境地帯ニ於
ケル匪賊根據地地帯ヲ掃蕩ノ後縣内巢匪ノ癩
タル盤嶺山系東半部ノ包圍討伐ヲ實施シ該方
面一帯ノ肅正ニ仕セリ

(四) 本期間ニ於ケル采岡部隊討伐行動及成果概要

附圖其一乃至其三ノ如シ

各守備隊殘留部隊

(一) 各守備隊殘留部隊ハ本期間小數兵力ヲ以テ各
 守備隊附近ノ警戒ニ任シ外特ニ鎮安嶺部隊ハ
 其主力約二十名ヲ以テ瑯春及土門子間ノ遊動
 警戒及常ニ積極的討伐ニ任シ以テ瑯春河谷一
 帯ニ於ケル匪賊ノ蠢動ヲ防止セリ

(二) 鎮安嶺部隊ノ本期間ニ於ケル討伐行動及成果ノ
 概要尤表ノ如シ

日 毎 日	日 三 十 三 日	日 一 月 十	日 二 月 十
討伐地	大土門 六道 溝	痺春 方 向	仁嶺 河 及 荒 溝
行 動 概 要	守備隊長鈴木中尉以下十九名二十九日午前八時鎮安嶺出發六道溝及土門子方向警備行軍ヲ實施シ翌三十日正午歸還ス	密江西方黒衣塘本道ニ於テ通行中ノ國道局自動車約三十名ノ共匪ニ襲撃セラレ露警二名負傷セルノ報ニ接シ午後一時守備隊長以下二十三名鎮安出發急接ス	太陽村北方約十軒仁河採金小屋ニ武装共匪約三十名現ハレ炊飯物資運送要トノ報ニ接シ鈴木中尉以下二十三名午前三時痺春出發同地ニ急行仁河及荒溝嶺附近一帯ヲ掃蕩シ午後六時痺春ニ歸還ス
摘 要	賊情ニ関シ得ル處ナシ	右全シ	右全
三道溝ニ武装共匪約二百名現出セリトノ報ニ			

<p>日 七月 十日 日 九 六 地 奥 道 大 向 子 房 香 乃</p>	<p>日 四月 十日 及 溝 道 三 面 方 子 門 土</p>	<p>日 四月 十日 日 五 九 溝 荒 大 面 方</p>	<p>日 三月 十日 及 溝 道 三 向 方 山 帶 雪</p>
<p>約三十三名ノ武装共匪ハ六道溝奥地香房子採 金小屋附近ヲ徘徊セルノ報ニ接シ守備隊長 鈴木中尉以下三四名七日午後一時鎮安嶺出 發六道溝奥地及香房子附近ノ討伐ヲ行 ヒ共匪密偵一名ヲ逮捕シ北青溝子一土門子</p>	<p>守備隊長鈴木中尉以下十五名 三道溝及土門子 方面ノ警備行軍ヲ午後六時鎮安嶺守備隊 ニ取還ス</p>	<p>野崎軍曹以下七名午前七時琿春北營出發大 荒溝方面ノ警備行軍ヲ行ヒ午後四時琿春 署翌五日鎮安嶺ニ歸還ス</p>	<p>接シ鈴木中尉以下二十二名午前三時 琿春出發同地ニ急行三道溝滿警ヲ併セ指揮 シ三道溝及雪帶山附近一帶ヲ掃蕩シタル後 午後六時琿春ニ取還ス</p>
<p>共匪密偵 二名逮捕 ス</p>	<p>同シ</p>	<p>同シ</p>	<p>同シ</p>

レ

<p>自至 日二十一日</p>	<p>日八十</p>	<p>自至 日五十六</p>	<p>日三十</p>	<p>日十月十日</p>	
<p>奥道五地</p>	<p>溝道六大 向子門土及</p>	<p>乃溝道二 向方春陣</p>	<p>溝道五 向方</p>	<p>碑溝道二 向方春</p>	
<p>鈴木中尉以下三十三名午後一時鎮安嶺出發支隊討伐隊ニ策應シ五道溝奥地ノ討伐ヲ行ヒ共匪ノ假小屋ヲ發見之ヲ奇襲シ二名ヲ倒シ翌二十</p>	<p>鈴木中尉以下八名午前十時守備隊出發六六道溝、土門子方面ノ警備行軍ヲ行ヒ午後八時三十分飯還ス</p>	<p>鈴木中尉以下七名午後。時鎮安嶺出發塔子溝一ニ道溝一碑春方面ノ警備行軍ヲ實施シ翌十六日午後六時守備隊ニ飯還ス</p>	<p>若杉上等兵以下五名午後一時鎮安嶺出發五道溝方面警備行軍ヲ實施ス</p>	<p>佐藤軍曹以下七名午前三時守備隊出發ニ道溝方面ノ警備行軍ヲ實施シ翌十七日午後三時鎮安ニ飯還ス</p>	<p>ヲ經テ翌九日正午鎮安嶺ニ飯還ス</p>
<p>匪家ヲ奇襲シ二名ヲ倒ス</p>	<p>全シ</p>	<p>全シ</p>	<p>右全シ</p>	<p>ナシ 賊情ニ關シ得ル處</p>	

日三十二	
子門 上向	
支隊第二期討伐ニ参加ノ爲午前十一時三十分守賊情ニ関 備隊出發午後五時三十分子門到着木村中隊 長ノ指揮下ニ入ル	二日午後七時三十分鎮安ニ歸還ス
ナシ	シ得ル處

第二期 自十月二十四日

八米岡部隊

八米岡部隊ハ十一月二十四日以降行動ヲ開始シ全

日二十七日既定計畫ニ基キ第二期兵力配置ヲ完

了シ爾後隣接部隊ト密接ナル連絡ノ下ニ蘭家

陸子及金蒼(杜荒子西北約十六料)方面匪賊根據地

々帯ニ於ケル掃蕩ヲ實施中ナリ

尚本期ニ於テハ鎮安嶺守備隊ハ一部ヲ守備地
 ニ残留シテ警戒セシメ主力ハ討伐隊ト爲シ第
 二中隊長ノ指揮ニ屬シテ蘭家陸子ニ配置シ又
 中村中尉ノ指揮スル一小隊(分系)ヲ新ニ輝春
 ニ配置シテ鎮安嶺及輝春兩守備隊担任区域内
 ノ遊動討伐ニ任セシムルコト、セリ

(中) 各守備隊残留部隊

第一期ニ全シテ各守備地附近ノ至嚴ナル警戒
 ニ任シアリ

(イ) 第二期ニ於ケル本月間各部隊討伐行動概況也

ノ如シ

第二期各部隊討伐行動概況

日次	討伐方面	討伐部隊	行 動 概 要	摘 要
自十月三十一日	火燒鋪附近一帶	太陽村及駱駝河村	討伐方面	討伐部隊
自十月三十日	火燒鋪附近一帶	太陽村及駱駝河村	討伐方面	討伐部隊
自十月三十日	火燒鋪附近一帶	太陽村及駱駝河村	行 動	要
十月三十日	火燒鋪附近一帶	太陽村及駱駝河村	摘 要	賊情

<p>東 輝 縣 境 附 近 一 帶</p>	<p>二 十 九 日</p>
<p>東 輝 縣 境 附 近 一 帶</p>	<p>大 荒 滿 方 面</p>
<p>木 村 部 隊、鈴 木 小 隊</p>	<p>隊</p>
<p>鈴 木 中 尉 以 下 三 名 八 匪 賊 約 二 十 名 輝 東、西 縣 境 サ ン マ ン シ 奥 地 附 近 蟻 蛄 シ ア ル ト 報 接 シ 二 十 六 日 午 前 七 時 駐 屯 地 タ ル 蘭 家 陸 子 ラ 出 發、二 十 八 日 之 ラ 奇 襲 シ タ ル モ 既 退 去 セ ル 後 ナ リ 武 裝 匪 三 根 據 三 燒 却 シ 二 十 九 日 午 後 五 時 無 事 飯 還 ス</p>	<p>匪 賊 情 況 偵 察 及 警 備 行 軍 並 大 荒 滿 方 面 道 路 偵 察 ノ 目 的 ラ 以 テ 午 前 八 時 輝 春 出 發、ト ッ ク ニ テ 該 方 面 至 リ 午 後 五 時 三 分 歸 還 ス</p>
	<p>右 全</p>

其二 測量掩護部隊

八河野小隊(土門子守備隊)

九月四日輝支作命第八號ニ依ル支隊測量掩護
計畫ニ基キ十月十日土門子出發先ツ杜荒子ニ
進出シ爾後(示)地區(杜荒子方面一帯)測量掩護ノ
爲該方面一帯ノ碎部測量實施ヲ掩護中ナリ。

之萱岡小隊(輝春守備隊)

前項支隊計畫ニ基キ自九月二十五日、至十月四
日ニ亘リ(一)地區(馬家北方地區)ノ掩護ヲ完了シ

爾後十月九日以降日下()地區(土門子西方地區)
ノ掩護ヲ實施中ナリ。

第四 滿洲國軍警及自衛團ノ狀況

一 滿洲國軍隊

各地駐屯滿軍ハ從前ノ配置ヲ以テ我支隊ノ秋期討伐ニ策應シ夫々駐屯地附近ノ警備ニ任シアリ

2 本月末ニ於ケル滿軍第二營ノ編成及配備ノ狀況前月報ニ全シ

二 滿洲國警察

人彈春縣森林警察隊訓練ノ狀況

彈春縣ニ於ケル森林警察隊ノ編成及訓練ニ關シ

シテハ前月報記載ノ所ニシテ十月初旬森林伐採ノ警備ニ從事ノ豫定ナリシカ諸種ノ都合上森林伐採ノ運ニ至ラス、引續キ暉春ニ於テ訓練ヲ實施中ニシテ十一月月上旬任地ニ配置シ其ノ任務ニ服スル豫定ナリ

警察隊ノ編成裝備ノ概要右表ノ如シ

左 表

理春森林警察隊編成裝備表

隊小馬衆		隊小兵歩		部 本		区分	
長 一 附 二		長 一		長 一 附 二		警 佐	
↓		↓		↓		巡 官	
長 一		長 一		長 一		警 長	
↓		↓		↓		警 士	
長 一		長 一		長 一		計	
長 一		長 一		長 一		拳銃	
長 一		長 一		長 一		小銃	
長 一		長 一		長 一		無線 電機	
長 一		長 一		長 一		摘 要	

日系警長一名及乃全警士中名八無線係トス

考	備	合計	機關銃小队
	(一) 人員中 (一) 内ハ日系トス	一	
	(二) 彈藥ハ總數 拳銃ハ〇〇、小銃 二三四〇lg 未定	三	長 一
	(三) 無線器一機ハ彈春、一機ハ林場ニ配置ス	三	附 三
		五	元 一
		七	〇 二
		一	八
		二	lg ⁴ / ₅ ク

2. 行政警察

各地縣行政警察ハ我支隊ノ討伐ニ協力シ駐屯地附近ノ至嚴ナル警戒ニ任シ相當ノ成果ヲ収メツツアリ

3. 本月末ニ於ケル縣行政警察ノ配置附圖第一ノ如ク人員武器ノ總數村表第一ノ如シ

附表第一

行政警察官人員武器一覽表

備考	輕機関銃	拳銃	小銃	士兵	幹部	今月現在数	前月比シ増減数
() 内ハ日系ヲ示ス <small>（此ノ内ハ日系ヲ示ス）</small>	一	一八	四〇	三〇七五 (五)	九二 (四)	増 四	ナシ 一

三 自衛團ノ狀況

ノ泰平満集團部落ノ自衛團ニ對シテハ末夕銃器
 ノ交付ヲ爲サ、リシモ十月七日銃器二十挺ヲ
 交付シ警備力ヲ附與セリ

2. 本月末ニ於ケル人員武器ノ總數花、如シ

	小銃	人員	團數	區分	無給自衛團
				區分	
	三四四	三九四	一八	今月現在數	
	二〇	二〇	一	前月比増減	

3 本縣自衛團有給ノモノヲ以テ多數
 マシタルモ一般部落内ノ極度ノ疲弊ハ之カ
 維持費據出ニ窮ナルト且部落自衛團ノ本
 來ノ精神ニ基キ總テ義務的ノモノニ改編スヘク
 當局者ニ於テ工作中ノ處本月初旬ニ於テ全
 郡義務的自衛團ヲラシムルヲ得タリ、

四、領事館警察

ノ馬滴達領事館警察ハ自十月二十日至二十三日ニ巨
 リ采阿部隊ノ盤嶺山系東平部ノ掃蕩ニ當リ北
 抑樹河子附近ニ位置シ遊撃部隊トナリ各方面
 ノ警備ニ任セリ

二、琿春領事館警察ヲ琿春支隊憲兵長ノ区署ニ基
 キ琿春附近ノ特別警戒ニ任シタル外密江西方
 黒底塘(十分地圖参照)ニ十月一日匪賊出没ニ際シ署
 員十名憲兵長ノ指揮ニ屬シ該方面討伐ニ從事
 セリ。

3. 其他特異ノ事項ヲ認メス

五. 本月末ニ於ケル滿洲國軍隊及警察ノ討伐狀況
附表第二ノ如シ

第六 政情民情

一. 日滿警務機關ヲ以テ警務連絡委員會ヲ組織ス
琿春支隊討伐ノタメ其主力ヲ出動間後方地
帯ニ於ケル琿春地方ノ警備及同期間ニ於ケル
思想對策ノ萬全ヲ期スヘク支隊配屬處兵長指
導ノ下ニ附表第三ニ基ク警務連絡委員會ヲ組

織シ且琿春ニ於テハ琿春近郊及琿春市街直接
 警備ヲ遺憾ナカラシムル目的ヲ以テ常時左記
 出勤警備部隊ヲ編成シ變ニ處スルヲ準備ヲ完
 了セリ

左記

1. 支隊配屬憲兵

三名

2. 領事館警察

一名(特下^{イサ}、乗用車ヲ準備置テ)

3. 縣警察

一名(内日系二名以上)

第七 治安工作ニ關スル事項

一、縣當局ニ於テハ支隊ノ杳期討伐ニ併行シ縣長以下縣公署員ヲ以テスル治安工作隊ヲ編成シ縣内一圓ノ治安工作特ニ法甲法ノ敝定並ニ警察官及各地自衛團等ノ鞏化訓練ヲ實施中ノ外彈春支隊第一期討伐間ニ下リテハ特ニ從軍宣傳班一個ヲ編成シテ討伐隊長ノ指揮ニ屬シ米岡討伐隊行動地方ニ於ケル僻地住民ノ宣傳工作ニ任セリ

第八 交通通信

一 交通

△慶源橋梁

鮮内慶源―満領沙土子間ノ国際橋ハ鐵筋コンクリート
 橋ニシテ延長四三〇米巾員六米多。裡有効巾員六
 米(請負金額二六萬八千圓材料咸北海道負担)ヲ以
 テ神谷組ニ於テ落札九月二十五日起工式ヲ舉
 ケ目下工事中ナルカ之カ竣工契約期間ハ昭和
 十二年三月末ナリト

△慶興豆満江ノ架橋工事起工ス

咸北慶興郡慶興面慶興洞ヨリ琿春縣敦信保浦
恩洞ニ架橋スヘキ國際橋ハ吉川組ニ於テ工事
落札中ノ處十月十八日起正式ヲ舉行目下工事
中ナリ

3 訓戒豆満江橋梁竣工ス

昨年ヨリ吉川組請負ノ下ニ架橋工事中ノ訓戒
尾灣子間豆満江訓戒橋ハ十月中旬端工シ十月
二十日國道局琿春建設事務所ニ於テハ現場ニ琿
春並訓戒官民多教ヲ招待ノ上渡橋式ヲ舉行セリ
因ニ從來一般通行者ハ渡船ニ依リ渡江シアリ

タルカ爾今該訓戒橋ニ依リ渡江スルコトナリ
夕リ

以豪雨ノ爲禪春一東興鎮間交通再度杜絶ス

十月十二、十三日兩日ノ豪雨ニ依リ土門子馬滴間
國道十二箇所破損シタル夕メ十八日迄交通杜
絶スルニ至レルカ十月二十六日再度ノ豪雨ノ結
果鎮安嶺附近河川ノ氾濫及柳樹河子附近國道
ノ欠壞ノ夕メ五日以降二十九日迄再ヒ交通杜絶
スルニ至レリ

ノ國道建設ノ狀況

不痺春―密江道

本線ハ密江―東寧線ノ一部ニシテ九月下旬ヨ
 リ痺春―甩灣子間ノ作業ニ着手シ目下途中ニ
 ケ所ノ橋梁架設ノ外畧路面ノ建設ヲ完了シ甩
 灣子密江間ハ未夕着工シ非ス

口圖們―土門子線圖們密江―大荒溝―杜荒子―土
 門子道

ハ土門子―杜荒子間

本月上旬ヨリ土門子方面ヨリ着手シ目下約七

〃

料ヲ完成ス

ノ
圖門密江間

目下平旦部約ニ料ヲ完成シアリ

公東興鎮―東寧道

東興鎮方面ヨリ北上ノ新國道作業ハ目下蘭家
 墮子西北一軒屋ヨリ約十五料附近ニ到達シ東
 寧ヨリ南下ノモノハ白刀山子西南約十料附近
 ニ到達シ下リ目下兩作業頭間約七料ヲ連接ス
 ヘク銳意工事中ニシテ遅クモ本年十一月未迄ニ
 ハ之ヲ完了ノ豫定ナリト

一通信

公管内外無線通信

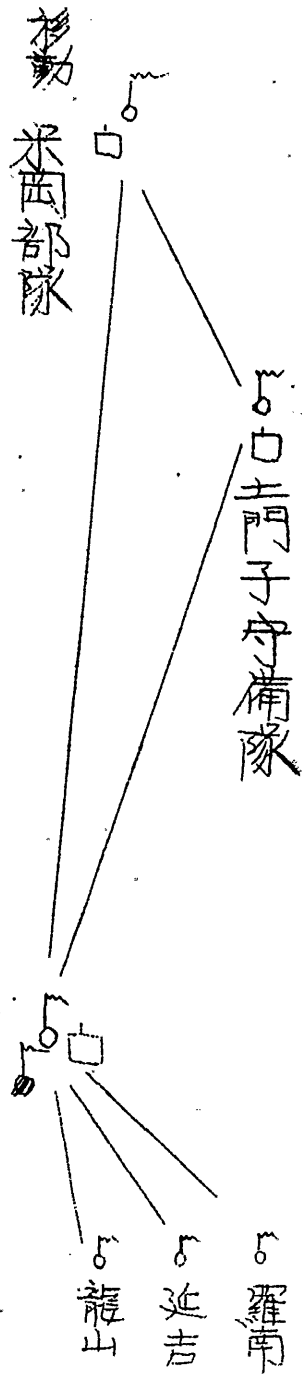
秋期討代間ニ於ケル管内無線通信網ノ構成要

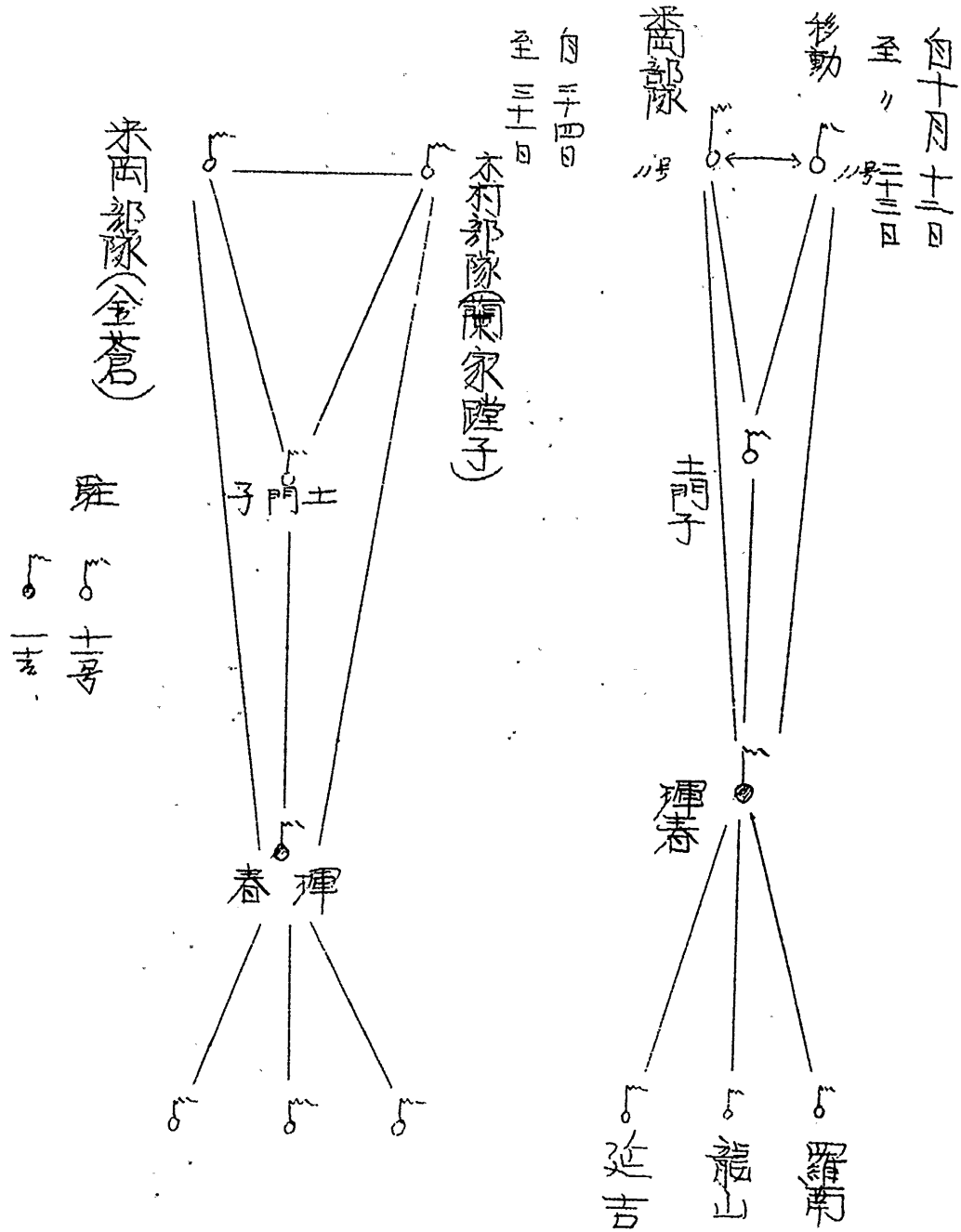
領也ノ如シ

而シテ各期ニ於ケル一般疎通ノ状況ハ概ネ良
好ニシテ円滑ニ交信ヲ實施シツ、アリ

自九月二十八日

自十月十日





7/1-

2. 軍用電話ノ狀況

馬滴達—鎮安嶺—土門子—東興鎮間軍用電話
ハ縣當局ノモノヲ便宜使用中ナルヲ以テ目下
縣當局ノ該線新設工事ヲ實施中期トシテ軍自
体ノ通信線ヲ架設スヘク之カ所要材料ノ支給
ニ關シ目下師團ニ申請中ナリ

3 琿春地方ニ於ケル軍隊以外ノ無線通信網及軍
用及一般警備用電話網要圖附圖第三及第四ノ
如シ

ノ破損並ニ「ギョウ」機能不具合トナリシモ十月三十日之カ修理ヲ完了シ且下使用ニ差支ヘナシ
 2. 糸ード貨車第 ⁷⁰⁷⁴²¹ 號ハ十月七日「ギョウ」
 及「オートポンプ」破損シ十月十五日之カ修理ヲ完了セリ

3. ちよだ號第 136 號ハ「ギョウ」ノ消耗「オート」全「チェン」等ノ衰破損ノタメ且下使用ニ堪エス加修ヲ要ス
 4. 第 368 小形乗用車ハ十月八日「フロントスプリング」親層折損シタルモ修理ノ結果且下使用ニ差支ナシ

第一。經理

一、金錢事項

前年度資金ハ十月一日ニ万三千五百圓十月二十
五日ニ万圓受領シ保管出納ハ確實ニ行ハレア
リ

土門子守備隊ハ其ノ主カヲ擧ケテ討伐ニ出動
シ分任官モ不在ナリシヲ以テ差向キ必要ノ
金額ノ外ハ一時返納セシメ必要ノ都度更ニ前
年度スルコト、セリ

3. 測量掩護及秋期大討伐所要ノ経費ハ第一次支

200-

出見込提出ノ際計上シ増額ヲ受クルコト、セリ
 二補給給養事項

ノ糧秣其他軍需品ハ師團經理及羅南支庫ヨリ訓
 戒經由順調ニ送附セラレ土門子鎮安嶺守備隊
 へノ追送ハ十月一日實施セリ

2. 測量掩護ニ在セシ宮澤小隊(自九月五日
至九月八日)大谷小隊

(自九月五日
至九月八日)萱岡小隊(自九月十三日
至九月十五日)河野小隊(自十月十日
至十月十二日)ハ

何レモ完全定量ヲ携行セシメ戰時給與規則ヲ
 適用シ其ノ給養ハ順調ニ行ハレアリ

3 秋期討伐間ノ給養

不給養兵額 八五〇 馬八
 口給養法 大行李糧林(東興鎮ニ於テハ)部舎主ノ供饌ニ依ル
 八補給完全定量(馬糧草及粟)トシテテモ通り道
 送ス

日時	補給地点	補給量	運般方	法
九、三〇	輝春	支隊主力一日分	輝春—大荒溝間貨物自動車 大荒溝—柱荒 子間駄馬	
九、三〇	〃	所ノ一日分 主力ノ一日分		
一〇、一〇	東興鎮	全隊ノ一日分	輝春—東興鎮間トシテ、東興鎮蘭家墾子 駄馬	
一〇、一六	〃	〃ノ二日分	輝春—東興鎮トシテ、東興鎮—大荒溝間山地、人夫	
一〇、二五	〃	〃ノ一日分	輝春—東興鎮間トシテ	
一〇、三二	土間子	〃ノ一日分	土間—金倉 駄馬	

三、被服物品事項

一、秋期討伐ニ際シテハ下士官以下防寒襦袢袴下
手袋冬靴下毛布一枚宛携行シ十月二十五日防
寒胴着防寒帽各人一個防寒靴(約半数)ヲ追送シ
尚近ク毛布一枚宛追送ノ豫定ナリ

二、測量掩護及討伐ノ爲衰損セル被服復旧ニ要ス
ル豫算ノ一部認可セラルノコトナリシヲ以テ
是等被服調達計畫ヲ立案シ近口中ニ師團ニ提
出スルノ豫定ナリ

三、兵室用机二十ヶ豫テ注文中ノ處本月末宛成ス

九、九月下旬温突煙突修善及煖爐ノ取付ヲ完了シ
 十月十日ヨリ焚方ヲ開始ス

四、營繕事項

一、彈春守備隊糧秣庫ニ棟ノ床改修工事ハ本月末
 竣工ス

二、土門子守備隊醫務室宿舍及既新築工事ハ順調
 ニ進捗シツ、アリ

第二 衛生

一、本月中ニ於ケル患者ノ状況右ノ如シ

二 本月左ノ通り衛生材料ノ補給ヲ受ク
 三日 羅南衛戍病院ヨリ 醫療囊外 四十三点
 五日 陸軍倉庫ヨリ ナイロ外 二点

計	刺創	靴傷	脱臼	挫傷及挫創	癰	急性咽喉炎	急性胃炎	病名	旧患	新患	計	治 轉	死 亡	還 送	如 遺 摘 要
	六	四	七	一	六	=	五	三							

第三 馬匹 軍犬

馬匹、軍犬、保育一般ノ情況ハ概ネ良好ニシテ
特記スヘキ事項ナシ

附表第二

満軍討伐概況

討伐地	日六十一月五至日二十二月九
討伐部隊	地奥満道六大
討伐	連統関機六四第及部本營
概況	<p>九月二十日午前四時三分第六連司務長以下 十三名満軍糧食及商民雜貨運搬車護衛 東興鎮ニ向ケ出發シ午前六時六道満ニ至ル ヤ兵匪合流ノ約言ト遭遇シ交戦ス午前九 時六連々長八部下ヲ率ヒ應援ニ至リ該匪團 ヲ追撃ス第四連及ヒ日軍討伐隊ト協力シ大 六道奥小西南谷附近ニ追撃交戦三四日亘リ 激戦セリ賊八廂房子溝奥地ニ遠走ス依テ 同日午後十時集結ノ上駐屯地ニ餓還ス翌 三日早朝營長以下再ヒ廂房子溝奥地ヲ掃 蕩スルモ該匪ハ踪跡ヲ失シ二十六日部隊ヲ 率ヒ餓還セリ</p>
摘要	<p>我軍損害 負傷 五 賊 射殺 二十名 負傷 十數 擄奪品 八全 部奪回ス</p>

日九十月十日 日二十二ヶ迄	日四十月十	日二月十	日七十二	日八日九 日九三	日九十月十日 日一月十三	
奥溝道三	子塚半 近附	子頂木草	子頂木世	附江密江	奥溝道頭	
部本營 連銃関機	連六第	連四第		連銃關機		
二日午後五時飯還ス	和營長以下三名午前十一時出發三道溝奥ニ到リ 數日ニ亘リ掃蕩シタルモ賊情ニ関シ得ル知ナク	張連長以下二名半敷子一帯ヲ掃蕩シタルモ匪情ヲ得ス同日午前十一時飯還ス	排長以下十六名午前二時出發草木頂子ニ至リ同地附近ヲ掃蕩ノ後同日午後十一時飯還ス	譚軍曹以下十六名午前七時駐屯地出發草木頂子附近一帯ヲ掃蕩ノ後午後二時飯還ス	連長以下二十六名密江及罅々溝一帯ヲ掃蕩シタルモ匪情ヲ得ス九日午後六時飯還ス	李排長以下二十六名午前十時出發頭道溝奥ニ到リ國境監視隊兵舎用木材伐採ノ護衛ヲナシ十日得ルトコトナシ
全シ	全シ	全シ	全シ	全シ	ナシ	

日 一 月 十	六 十 二 月 九	日 時
近 附 塘 底 黒	洞 興 仁	討 伐 地
警 江 密	子 河 駝 駱 駝 署 分	部 隊
十月一日國道高下マク約ニミ丁名ノ匪賊ニ襲撃 セシレ交戦中トノ報ニ接シタル同署ハ署長以下 現場ニ急行約三十分交戦之ヲ北方ニ遺走セ レム、右報ニ接シタル同署ハ署長以下ニ於テハ前系	駱駝河子警察分署長以下八名匪賊出沒 ノ報ニ接シ急行附近一帯ヲ掃蕩スルモ賊影 ヲ認メス同夕刻飯還ス	討 伐 概 況

清警討伐概況

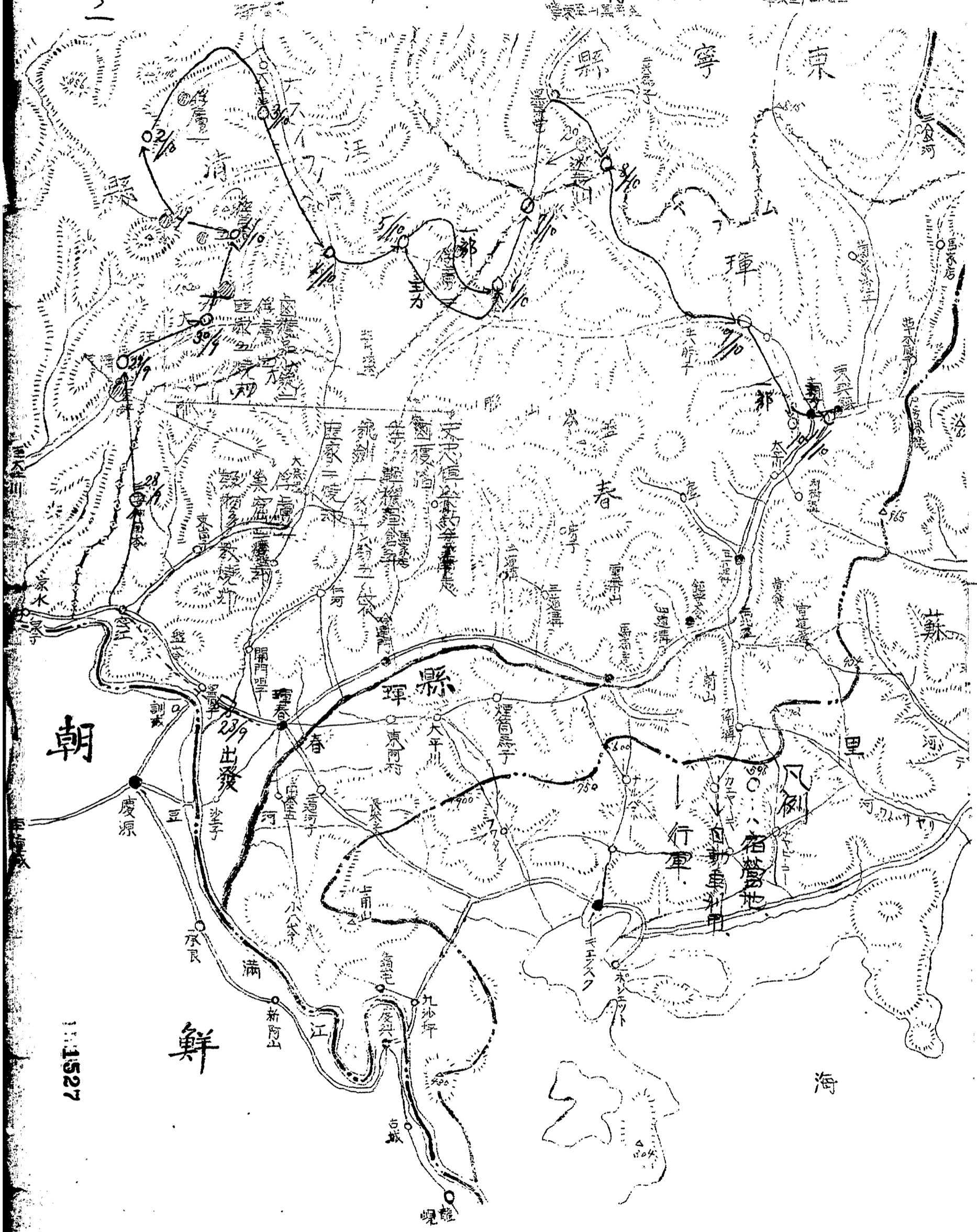
日 十 二 日	日 一 十 二 日
奥 清 道 六 大	第 六 大 道 清 奥
連 大 第	第 四 及 連
李排長以下十六名ハ谷少尉ト共ニ午後五時出發大六道 清奥地ヲ掃蕩シ二十日午後七時飯還、討伐待機 ノ迄勢ニマリ	分シ

<p>日二十 日十二</p>	<p>日九 日十三</p>	<p>日二 日十</p>	<p>日二 日十</p>
<p>大流地 奥地</p>	<p>奥道 林密地</p>	<p>子頃木草</p>	<p>近附塘底黒 帯一</p>
<p>澤隊 松部</p>	<p>警春輝 署密</p>	<p>子頃不草 團衛自</p>	<p>署察警春輝及察</p>
<p>シタルモ賊影ヲ認メス 指道官八森林警署官三十五名ヲ率ヒ上記地点ヲ掃蕩</p>	<p>賊ヲ發見セス 阿部野瀬警署長以下三名ト共ニ救國軍ノ 救國軍ノ根拠ト稱セラル、上記地点ヲ掃蕩スルモ</p>	<p>暗夜ノ為何レカニ逃走セリ 午前二時上記集團部落附近約三十名ノ共匪現出 自衛團ト交戦セルニ賊は北方ニ逃走追撃セルモ</p>	<p>指道官以下十名急行セルモ賊影ヲ失 シテ後五時飯還ス 午前五時上記地点ニ再び共匪現出トノ報ニ接 シタル該署ハ是以下十八名現場ニ急行該匪 ニ遭遇シ戦ス。右情報ニ接シタル輝署署長ニ アリテハ昨日編成ヲ以テ追撃セルモ賊影ヲ 失シ、同日夕刻飯還セリ</p>

米岡部第一期討伐行動概略圖

(自九月二十八日至十月十日)

其二

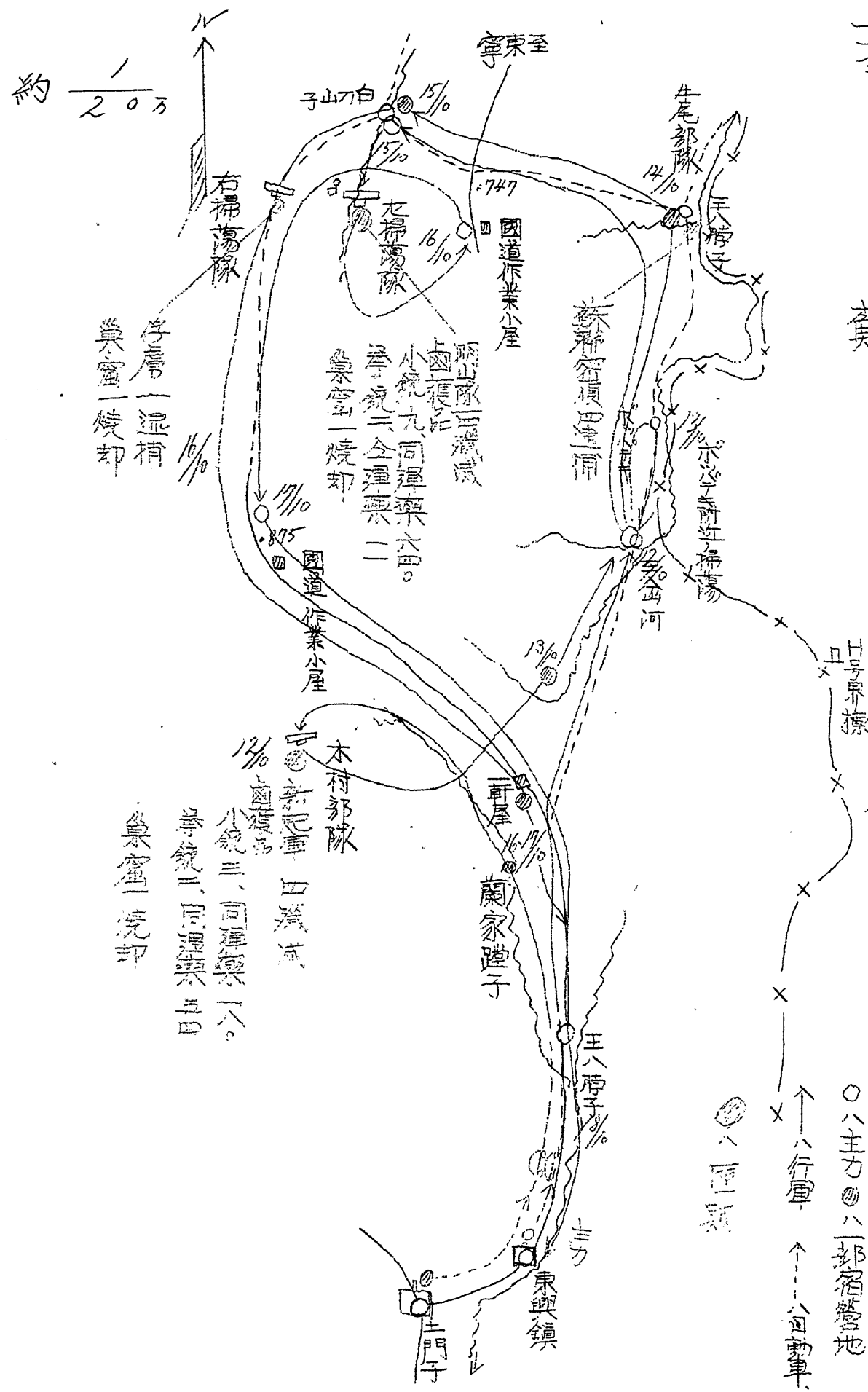


1527

其二 米岡部隊第一期討伐行動概見圖

(自十月十一日至十月十八日)

蘇領



凡例

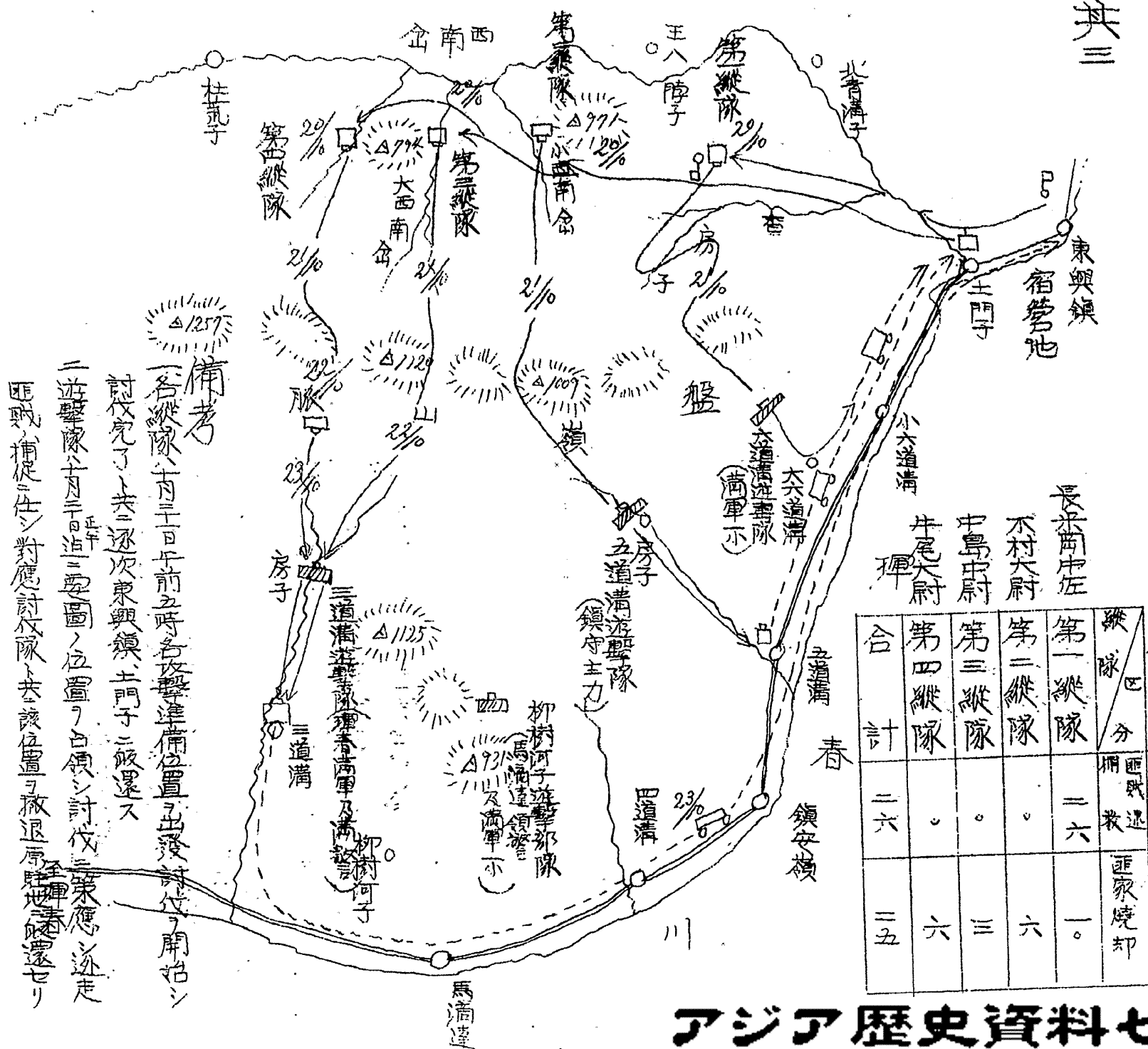
○ハ主力 ○ハ一部隊宿營地

↑ハ行軍 ↑ハ一部隊動向

●ハ一部隊

米岡部隊第一期討伐概見圖

(自十月二十日至十月二十三日)



各討伐隊成果

隊別	討伐結果	
	匪數捕獲	匪家燒却
第一縱隊	二六	一〇
第二縱隊	〇	六
第三縱隊	〇	三
第四縱隊	〇	六
合計	二六	二五

備考
 △1257
 △1128
 △1009
 △1125
 △931

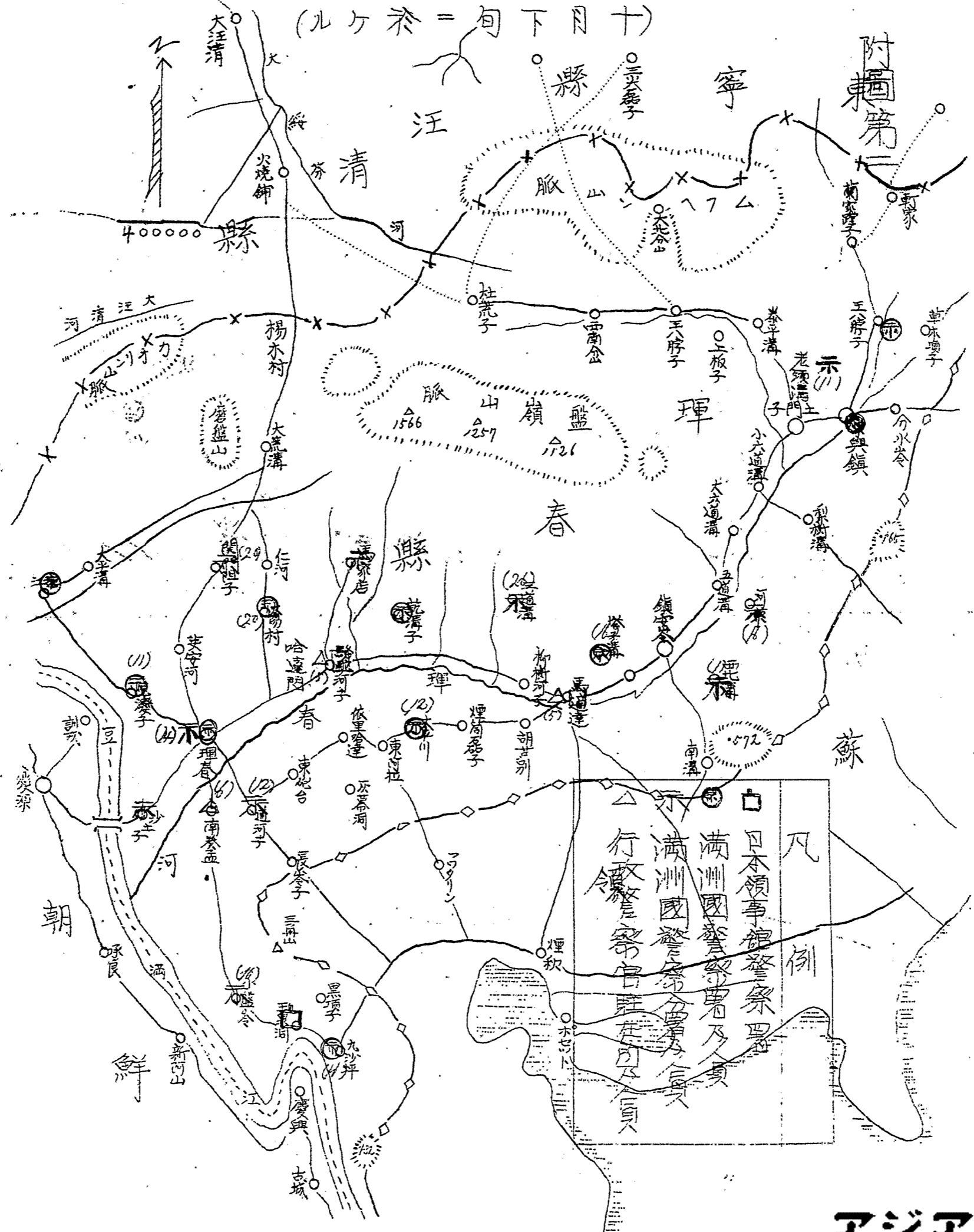
一各縱隊十月二十日午前之時各攻擊準備位置より出發討伐を開始シ
 討伐完了後二逐次東興鎮王門子ニ飯還ス
 二遊撃隊乃チ三日迄二遊撃ノ位置ヲ白領シ討伐ニ策應シ逃走
 匪賊捕獲ニ任シ對應討伐隊ニ去該位置ヲ撤退原野地ニ飯還セリ

例凡

- ↑ 討伐進路及行動日
- ↖ 遊撃部隊
- ↗ 自動車輸送

圖要備配察警國洲滿及察警館事領

(ルケ於 = 旬下月十)

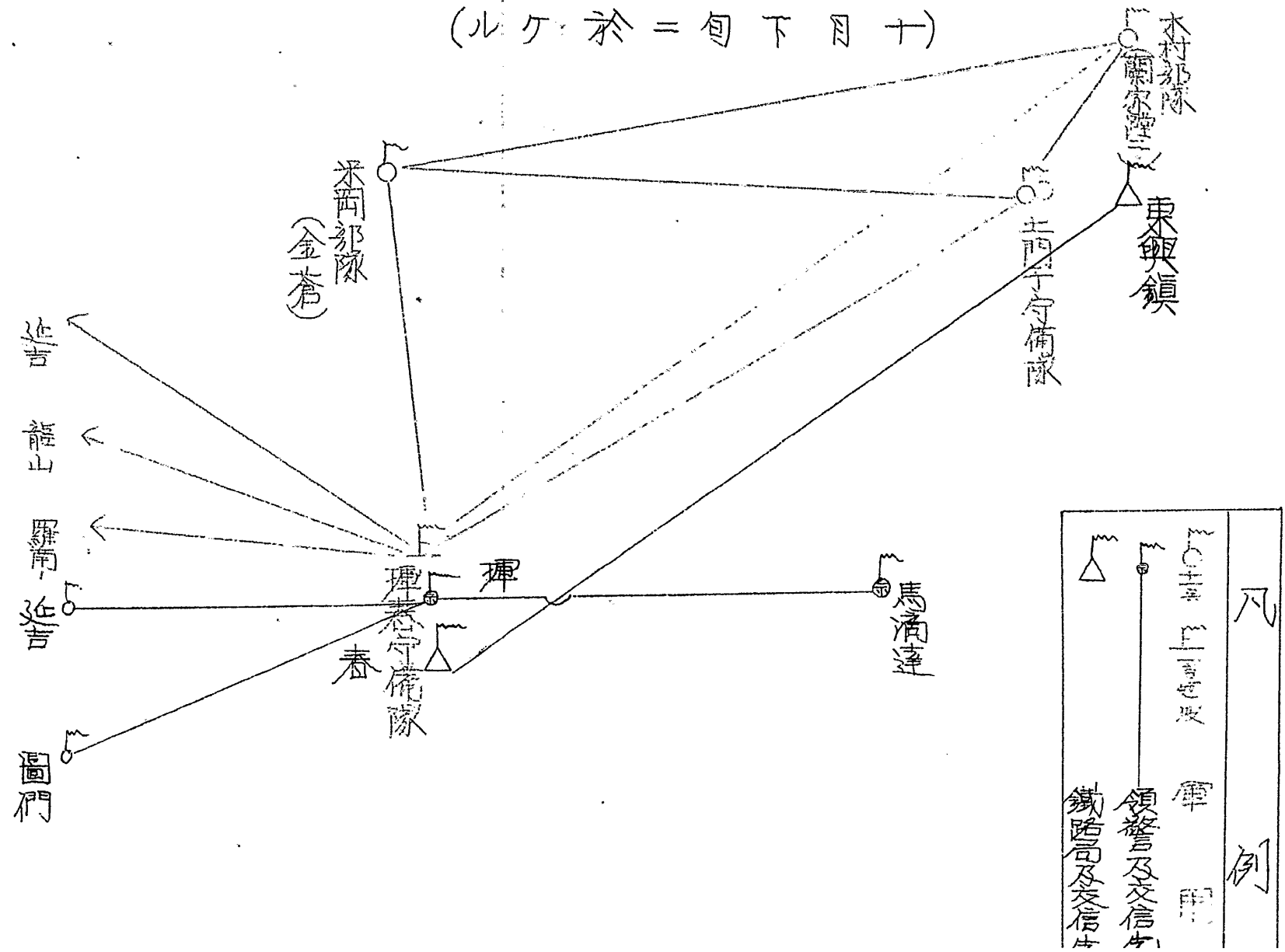


1531

管内無線電信網要圖

(十月下旬に於てル)

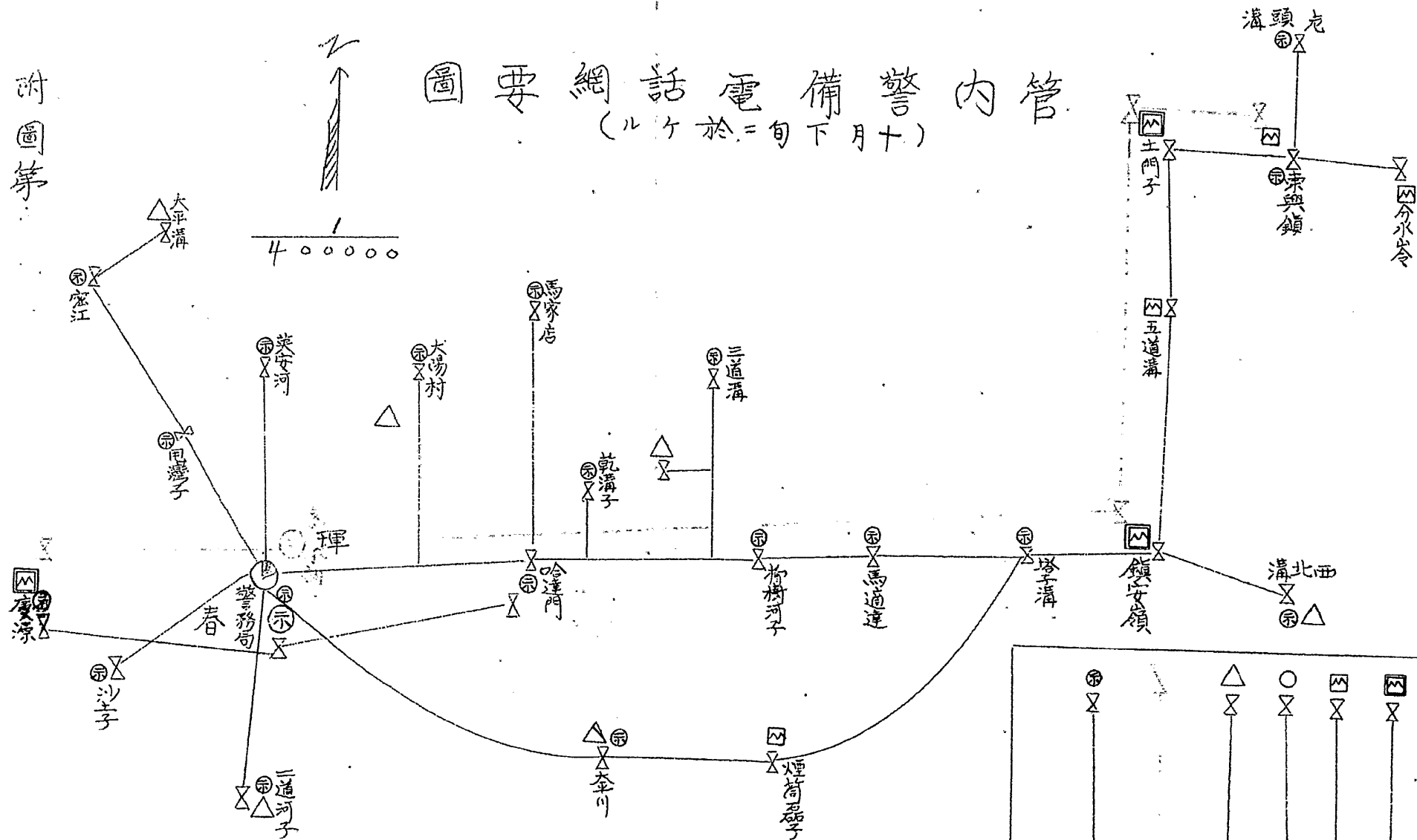
附圖第三



附圖第

管内警備電網要圖

(十月下旬於此)



⊗	△	○	⊞	⊞	凡 例
領警	自衛團	滿遊	滿電	日軍	

步兵第七十三聯隊國境守備隊月報
自一九三一年
至一九三二年

目次

第一章	警備、概況
第一節	鮮内警備
第二節	對岸警備
第二章	對岸ニ於ケル政情並治安、概況
第一節	對岸ニ於ケル政情
第二節	對岸ニ於ケル治安概況
第三章	討伐、概況
第一節	和龍縣
第二節	安圖縣
第四章	對岸ニ於ケル馬匪賊、概況

第一節 和龍縣

第二節 安圖縣

附表

第一編 成裝備一覽表

附圖

第一、茂山地區警備行軍實施一覽表

第二、對岸馬匪賊、狀況要圖

第一章 警備ノ概況

第一節 嶺内警備

茂山守備管区内ハ一般ニ平穩ニシテ特記スヘキ
 事項ナキニ十月上旬ヨリ關東軍ノ秋季討伐ニ依
 リ和安縣内ニ蟠踞中ノ匪賊ハ根據地ヲ破壊セラ
 レ其ノ一部茂山ニ長對岸ニ出沒シ掠奪ニ作並ニ
 警務機關ノ襲撃嶺内侵入ヲ畫策シツツアリ
 是カ爲常ニ國境ニ沿フ地區ニ於テ演習行軍
 實施シ且警務機關ヲ督勵シテ綿密ナル連繫並ニ
 情報ノ交馳集ニ努メツツアリ
 演習行軍實施要圖附圖第一ノ如シ

第二節 對岸警備

對岸警備ノ概況ハ各警務機關ノ努力ニ依リ概ネ
小康ヲ保チツツアリ

和龍縣南坪警務機關ニ於テハ閩東軍秋季治安肅
正討伐ニ関シ警務連絡委員會ヲ組織シ各分駐所
等ノ連絡並ニ治安工作ニ努メツツアリ

安圖縣内ノ狀況ハ十月上旬閩東軍討伐隊ノ行動
ニ依リ軍廠溝附近ノ共產匪ノ根據地ヲ撲滅シ爾
後分散配置ヲ拂リ治安工作ニ努メ概ネ順調ニ治
安ヲ維持セラレアリシモ各所ニ移動シタル共匪
ハ警務機關ノ稀薄ナル地ニ出没シ入質ノ拉致物

質ノ掠奪ヲ敢行シツツアリテ尚樂觀ヲ許ササル
 情況ニアリ

第二章對岸ニ於ケル政情並治安概況

第一節 對岸ニ於ケル政情

一 皇軍討伐隊ニ對スル慰問募集

和龍縣ニ於テハ省公署ノ指令ニ依リ秋季討伐

ニ從事中ノ皇軍ニ對シ謝意ヲ表スル目的ヲ以

テ縣下一般ヨリ慰問品ヲ募集中ナルカ各農民

ニ於テハ穀類ヲ縣ニ取纏メ之ヲ賣却慰問品ニ

代フル計畫ヲ進メツツアリ

ニ 粟粟栽培禁止

間島省ニ於テハ康徳三年度ニ於ケル粟粟栽培

ヲ指定以外全般的ニ禁止スルコトナリ之カ
 爲和龍縣ニ於テハ舞内越境耕作者等ヲ禁止
 規定ニ抵触セサル様佈告ヲ發シタリ
 三、滿警恤金支給内規制定

和龍縣長ハ十月九日附討伐等ニ從事シ死亡又
 ハ負傷セル警察官及自衛團員ニ對シ治安維持
 會費中ヨリ恤金ヲ支給スヘク内規ヲ定メ夫々
 通告セリ

四、警務連絡委員會組織

和龍縣南坪警務機關ニ於テハ本期討伐間治安
 ニ関スル思想對策上領警分署カ主催シ警務連

終委員會ヲ組織シ各機關密接ナル連絡ヲ保持
シ治安工作ヲ進メツツアリ其ノ規定左記ノ通
リ

南坪地區警務連絡委員會規定

第一條 本規定ハ昭和十年関東軍秋季治安肅正
計畫ニ基キ管内(徳化社、崇善社、合化社、一部三合
社、一部)ヲ以テ南坪地區警務連絡委員會設置ス

第二條 警務連絡委員會ハ思想對策ニ関シ延吉
地方警務連絡委員會長ノ統制下ニ於ケル各機
関ノ協同動作ヲ圓滑ナラシムルヲ目的トス

警務連絡委員會ノ任務左ノ如シ

一、思想對策ニ關シ各警務機關、緊密ナル連繫ノ保持

ニ思想對策ニ對シテ警務統制運用ニ關スル事項
ノ立案審議

三、延吉地區委員長及部隊長、諸治安工作ニ對スル命令指示企畫等、普及及徹底ノ助成

四、關係軍並警備機關ト、折衝連絡

第三條 南坪地區警務連絡委員ハ左記人員ヲ以

テ之ニ充ツ

委員長

南坪嶺警分署長

副委員長

第四區警察署長

委員

合化社高峯歳子分駐所長

咸朴洞分駐所長

葫芦頭溝分駐所長

紅溪河分駐所長

徳仁保長

合化保長

崇善保長

委員長之ヲ兼ス

幹事

南坪領事警察署高等係

第四區警察署高等係警長

オブサーヴ

茨山憲兵分隊員 一名

オブザーヴァ

及ハ警察署員

一名

前記職員中事項アル時ハ臨時代理者ヲシラ會
同セシムルコトヲ妨ケス

第四條 委員長ハ委員會ヲ總理シ必要ニ應シ委
員會々議ヲ開催シ議案ヲ審査採決シ併セテ之
シカ實行ヲ指導監督ス

委員會ハ月ニ一回開催スルヲ例トスルモ當地カ
警備ノ都合上特ニ必要アリト認ムル場ノ外ハ
直通警備電話ヲ以テ之レヲ行フモノトス

第五條 委員ハ議案ノ提出審議關係機關ヘノ業
務傳達其ノ他委員長ノ臨機定ムル事項ヲ處理

ス

第七條 本委員會ハ南坪領事警察内ニ置キ委員
會事務所ハ別ニ之ヲ常置セサルモノトス

本委員會ニ於テ協議決定セル事項若クハ上級
委員會ヨリノ指令ニ基ク事項ヲ實行ニ移ス場
合ハ委員長指示ノ下ニ各機關ハ所要ノ人員ヲ
派遣シテ實行班ヲ編成シ實施スルモノトス

第八條 本委員議ニ於テ協議決定セル事項ノ實
行ヲ各機關ニ要求セル場合ハ各機關ハ直チニ
之ニ應スル義務アルモノトス

第九條 本委員會ニハ當分ノ間 游動警察隊ヲ

六

置ク游動警察隊ノ組織及其ノ行動ハ別紙ニ依
ル
附則

一 本委員會ハ上級委員會ノ指示若クハ命令アリタル時之レヲ開散ス

本工作ニ要スル經費ハ各本属機關ノ經費ニ依ルヲ原則トス

游動警察隊ノ組織並行動要領

一 游動警察隊ノ編成系統、人員並裝備

一 南坪警察分署員 五名 (省長銃一、外輕機一ヲ附ス)

一 第四區警察署長以下 (自衛團員ヲ含ム) 三一名 長銃携帶

計

三六名

游動隊ハ他ニ速達通信連絡用トシテ茂山國境
守備隊長ノ承認ヲ受ケタル軍用鳩十羽ヲ携行
必要ニ應シ行動上ノ情况ヲ記シ茂山守備隊長
及南坪分署長宛隨時放鳩スルモノトス

三、行 動 期 間

自昭和十年十月五日約二月間ノ豫定
至同 年十月三十日

但シ情況ニ依リ変更又ハ延期スルコトアルヘシ
三、游 動 區 域

德化社崇善社一圓ノ安和縣界接壤地帯トス

崇善社石人溝―大玉石洞―竹林村―德化社車

七

敵子區間

四行 動方針

- 一、本警察隊ハ其ノ本然ノ特性ヲ以テ軍ノ肅正工作ニ適應協カスルト共ニ各機關ノ思想對策計畫實施ヲ志モ効果タラレメ尚當地方ハ安圖縣内匪賊根據地ト接壤シ軍ノ同縣内ニ於ケル肅正工作進涉スルニ從ヒ逃避匪賊敗竄匪ノ當地方ヘ溢出スルヲ掃滅シ以テ一層治安ノ確保ヲ期スルモノトス
- 二、特ニ本肅正工作期間ハ其ノ主力ヲ傾注シテ當地方ニ於ケル共產分子及反滿抗日分子ノ侵入

策動等凡有思想的存在並兵力共匪賊ノ武力團
 体ノ侵入跋扈ノ防遏絶滅ヲ期スル目的ヲ以テ
 積極的ニ實力ヲ發揮シテ地方治安ノ禍根ヲ芟
 除シ確守タル治安維持ニ努力ス

五、行動要領

一、從來ノ治安工作ヲ強化スルト共ニ匪賊ノ侵入
 防遏 又ハ撃滅ヲ圖リ本然ノ地方行政機関ノ
 實行スル清郷ノ徹底ヲ期スルニ在リ
 二、本行動ノ重点ハ安圖縣老峯ヨリ和龍縣崇善社
 古城里ニ至ル間ノ安和縣界及崇善社北方地區
 德化社東北地區(森林地帯)ノ接壤地域ニ置キ同
 八

區間ヲ游動シ道入匪賊ノ擊滅緝復搜索檢擧ニ
努ム

三、本警察隊ノ本據ハ滿警蘆葉分駐所(竹林村)ニ置
キ概ネ隊ヲ三班ニ分テ定期的ニ右區管ヲ游動
スルモノトス

但シ情況ニ應シ分散又ハ集團的態勢ヲ採リ地
域的ニ行動若クハ定駐スルコトアルヘシ
四、行動ハ總テ正確果敢敏速ヲ期スルヲ旨トスル
モ特ニ左記事項ニ留意スルモノトス
一、警察本然ノ特性ニ鑑ミ特ニ共匪、政治匪ノ根
本的芟除ヲ目的トスル謀報及搜索檢擧ニ萬全

ヲ期スルヲ要ス

乙、良民ト不逞分子ノ判別ニ對シテハ的確ナル
資料ノ蒐集ニ努メ措置上遺憾ナキヲ期ス

丙、各隊員ハ共同動作ノ實果ヲ收ムルコトニ依
リ根本目的ヲ達成スルモノナルコトニ着意
シ徒ニ功名ニ走り廻置ヲ誤リタル為虚算ヲ
生セシムルカ如キコトナキ様留意ヲ要ス

丁、通報連絡ノ方法ニ就テハ可及的嚴密ニシ要
スルハ連絡ヲ定メ傳書鴉警備電話又ハ人ニ
依ル連絡ヲ勵行スル等具体的方法手段ヲ講
シテ粗漏ナキ課注意ニ關係各機関ヲシテ一

九

心一體的工作、實現ニ努ムヘシ

第二節對岸ニ於ケル治安概況

一 和龍安圖縣内ニ蟠踞中ノ匪賊ハ閩東軍ノ秋季討伐ニ依リ其ノ根據地ヲ破壊セラレタル為大部ハ白頭山麓及安撫縣境地帯密林中ニ其一部ハ長對岸方面ニ難ヨ逃レ掠奪工作並警察機關ノ襲撃ヲ為シアリ

ニ 討伐隊ハ相当苦心シテ匪賊ノ根據地ヲ突止メ之ヲ確壊討伐ニ從事シアルモ既ニ匪賊ハ秋季討伐計畫ヲ察知シ食糧品ノ隱匿分散避難セル下其ノ地區カ密林地帯ニシテ入馬ノ行動容易ナ

ナラサル為徹底的掃蕩ハ困難ニシテ一時追ヒ
拂ノ程度ニ過キサルモノ、如シ

三、安圖縣城ヲ中心トシテ附近一帯ノ治安ハ今次
伐ニ依リ革期尙諸工作ノ進展ヲ見タリト虽モ
皇軍カ相当期間駐屯治安維持ニ任セサルニ於
テハ之カ治安ノ確保ハ望ミ得ラレサルモノト
觀察セララルル狀況ニアリ

第三章 討伐ノ概況

第一節 和竜縣

和龍縣泉永洞地方ニ蟠踞中ナリシ革命軍所屬
新來母一旅約罕名ハ討伐開始ト共ニ五口江流

域ニ移動ヲ企圖シツツアリシカ十月二十三日
 午後七時頃該匪一派ト認メラルル匪賊ハ明新
 社青山里字松下坪自衛團部落ヲ襲撃セリ
 急報ニ接シタル三道溝守備隊及南坪警務機関
 二於テハ應援出動シ交戦約二時ノ後撃退セシ
 メタリ

第二節 安圖縣

月日	討伐場所	討伐部隊ノ人員	賊数
三、二、 安圖縣 大荒溝附近	第二獨立守備隊第六大隊 金子討伐隊 主力	共匪 約ニツツ	

一〇、五	同	一〇、四	一〇、三	同	一〇、二
同 後車廠子	同 高力礪子	同 右	同 車廠子	同 金廠	安圖縣 大荒溝附近
第二獨立守備隊第七大隊 金子討伐隊主力	安圖縣 大沙河警備隊	同 右	第二獨立守備隊第七大隊 森部隊	滿軍第七旅第八團步兵第一營 第一連	獨立守備隊第七大隊 福島討伐隊 三八名
共匪 十數名 死体=遺棄	兵馬匪 約一〇〇	同 死体 屍體 遺棄	海龍軍 四〇 死体 彈藥 一二〇 遺棄	兵 匪 約八〇	海龍軍 四〇

第四章 對岸ニ於ケル馬匪賊ノ概況
 第一節 和竜縣

四六	同 西江口	安圖縣 西江口警隊	共匪混合 約一五〇
----	----------	--------------	--------------

月日	場所	匪賊種類 員數	概要
四二八	第四保 善社	共匪 八	<p>午前十時頃 寇徒朝解ニ共匪四名現 レ夕食ヲ強要スルニ奧地面ニ逃去ス 午後六時頃 通行中、和竜縣第四保重廠 子居住鮮人李子錫根(當十九年)ヲ襲 ヒ所持金五兩ヲ強奪シ身柄ヲ左地一軒小屋 ニ抑留監禁シ何レニ引揚ケタリ</p>
四三一	小谷峯	武装共匪 約四〇	

和竜縣第四保重廠子居住鮮人李子錫根(當十九年)ヲ襲ヒ所持金五兩ヲ強奪シ身柄ヲ左地一軒小屋ニ抑留監禁シ何レニ引揚ケタリ

第二節 安圖縣

可、可	可、ハ	月日
安圖縣 老峯	安圖縣 老峯	場所
共 四匪	共 一、四匪	匪種類 數
<p>概 要</p> <p>安圖縣三道居住滿人杜老兩當三十九年ハ 物品購入ノタメ古城里ニ來ル途中此地ニ於 テ上記賊ニ出會セルカ被害ナカリシト 安圖縣居住滿人張海鵬ハ所用爲古城 里ニ來ル途中上記ニ於テ賊ニ遭遇シ渠等</p>		

可、三	第四保 崇善社 小谷峯	武裝共匪 四〇
<p>和龍縣第四保芒葉分屯居住滿人楊明 德(當五十二年)ハ三道溝ヨリ食糧品ヲ購入馬 車一台ニ積載シ三長對岸古城里ニ運搬 途中裝ハシ該食糧全部ヲ掠奪セラレタル上 身板ヲ擲留セラル</p>		

<p>一 二 三</p>	
<p>安圖縣 七人班</p>	
<p>共匪 二</p>	
<p>ハ石人溝集周部落、警備状況人員銃器 数等ヲ訊シ居タルカ共匪ノ偵察隊ナリト 各人異手銃携行ノ匪賊ニ名合地ニ移動 潜伏シ旅行者ノ金品強奪討伐隊ノ行動 偵察中ナリト</p>	

步兵第七十三聯隊國境守備隊編成裝備一覽表

昭和十年十一月一日調

備 考	合 計	小三 隊長	中 隊	本 部	守備區		編 成 入 員	馬 匹	裝 備	職 員	摘 要
					隊	分					
一(一)ニ附シアルハ無線電信所要員ヲ不入	1			1	佐少		總 計				
	2		1	1	尉大						
	3	1	1	1	尉中						
	3		3		曹特						
	3(1)	1	1	1(1)	長曹						
	10	2	6	2	面(軍)						
	21(1)	7	14(1)		兵等						
	148(1)	39	109(2)		兵一						
	17(3)	50	135(2)	6(1)	計						
	2	1			手計						
	1				五軍						
	2	1			長護						
	1				長一靴						
	1				長工縫						
	5	2	3		兵護						
	203(3)	54	138(2)	11(1)	計						
	1				馬乘						
	1				計						
4	1	3		機直							
4	1	3		機輕							
1		1		砲重迫							
1		1		砲重組							
4	1	3		筒彈擲							
		小隊長 森田一壽	中隊長 渡田八郎	國境守備隊長 松澤正雄	職 員						
				一六尉一名共連隊分遣 無線電信所支隊分遣	摘 要						

1561



歩七四四守備隊
第一號

歩兵第七四四聯隊國境守備隊月報
自十月三十一日

目次

第一 警備(討伐)ノ概況

鮮内警備

第二 對岸ニ於テハ政情茲治安ノ概況

一 治安概況

二 政情一般

三 宣傳政治工作ニ關スル事項

四 馬匪賊及鮮匪團ノ概況

五 日軍ノ概況

六 滿軍警察隊自衛團ノ配置移動及教育訓練

ニ關スル事項

第三 交通通信補給衛生其他ニ關スル事項

第一 警備(討伐)ノ概況

月間本項ニ関シテハ特記事項ナシ

第二 對岸ニ於ケル政情並治安ノ概況

一 治安概況

東邊道秋季治安肅正工作ト森林警察隊ノ配備ニ刺戟セラレ賊團ハ逐次長焔撫縣等方面ニ移動ヲ開始シ窮地ヲ脱スヘク画策シアリ之ニ伴ヒテ長白縣内ハ本月ニ至リ万順小熊飛箆熊飛等ノ新頭目ノ移來ヲ見其ノ勢力亦侮ルヘカラサルモアルヲ思ハシメ縣下ニ跋扈シアル從來ノ匪賊ト合セテ縣下ノ治安ニ想到スル時未タ偷安ヲ許ルササルモアリ止ヲ思ハシム

二 政情一般

長白縣治安維持會ニ於テハ治安工作ノ一方
策トシテ凡ソ如ク佈告文ヲ府内要所又縣下
一級ニ貼申シ其ノ實行ヲ強要セリ

十月十五日迄各地ニ裁答シアル高粱ハ全部
刈取ルハシ萬一之ニ從ハサルモノハ嚴罰ス
ル

康德二年十月九日

長白縣治安維持會

長白縣第一次警務會議開催

長白縣長翟潤田ハ十月六日ヨリ八日迄三日

間縣下各警察(分)署長九名ヲ招致シ警務會議

ヲ開催セリ

本會議ニ於ケル春日首席警務指導官ノ指示

指示注意

- 一 管内状況報告要領
- 一 法規訓令等ノ周知徹底ニ関スル件
- 一 注意報告方ニ関スル件
- 一 銃器彈藥ノ保管空網ニ関スル件
- 一 機密厳守
- 一 定期報告其他期限付諸調査報告期日勵行
- 一 貨物品ノ取扱
- 一 公文書ノ取扱区分ニ由スル事項
- 一 戸口調査
- 一 保甲法實施
- 一 銃器回収
- 一 集家ノ實施
- 一 公文用紙ノ齊

日	時	工	作	地
十月十三日		長	白	發
十月十四日		半	武	溝(内矢)
十月十五日		十	四	道溝(独洞)
十月十七日		十	三	道溝
十月十八日		十	二	道溝
十月三十一日		八	道	溝

一 森林警察隊トハ連為快調ニ就テ
 人 治安肅正工
 長 白縣當局ニ於テハ關東軍秋季治安肅正工
 依 一伴ニ縣内治安宣撫工ヲ為スルヲ宣傳
 文 二千枚ヲ携行シテ記日定ニヨリ現地警察
 署員ヲ勤員シ治安肅正ヲ計ル
 也 記

十月二十二日	新	房	子
〃 二十三日	大	羊	念
〃 二十五日	孤	心	子
〃 二十七日	歸		長

治安肅正工作宣傳文

一 保甲制度ハ正本清源ノ治安方策ナリ
 一 互道政治ヲ實行スルニハ匪賊肅正ニ依ラ
 ネハナラヌ

一 官吏及軍警ハ我等民衆ノ保障ナリ
 一 関東軍ハ我等ヲ救フ天使ナリ
 一 我等ハ日滿兩國ノ親善ヲ一生懸命圖リマ
 セ

警務連絡長白地区委員會議之
 警務連絡長白地区委員會議之計畫一閱シテ

上安七心領警長白駐在所長牧部長ハ安東地
区委員長(安東憲兵隊長)ニ提言喚議ノ結果原
案其儘實施スヘク決定シ同部長ハ十月十四
日取長該規約又試案ヲ作製シ關係機關ニ送
付スル事ニ決シ目下實施ノ圖ニ心準滯中ナ
リ

長白府内一齊檢索實施

長白地 区委員會ニ於テハ奉天地方委員會幹
事長ヨリ安東地区委員會ヲ經テ左記ノ如ク
指令ニ按シタリヲ以テ十月十五日長白府内
一齊檢索ヲ實施セリ

左記

全滿一齊思想對策實施計畫大綱
方針

- 一 本季軍隊ノ剿匪行動開始ニ先立ケ全滿一齊
- ニ各疑個所及不定分子ヲ搜索檢舉シ匪賊勢
- 力増蒼ノ根源ヲ覆滅ス
- ニ一齊檢舉ニ依リ思想匪政治匪ノ情況ヲ明確
- ニシ以テ將來ノ對策上ノ根據ヲ確定ス
- 實施要領
- 一 搜索檢舉實施期日
- 十月上旬中可成速ニ實施ス
- ニ 搜索檢舉上着意スハキ箇所
- 一 思想匪政治匪ト其ノ背後系統ノ連絡箇所
- ニ 思想匪政治匪活動ノ根據
- 三 對蘇對支ト境通邊要點
- 四 匪賊相互ノ連絡箇所
- 五 資金供給ノ仲介所トハ中玉系銀行大商店等

三 檢索檢舉實施上特ニ重点ヲ置クハナリ地城凡

ハ如シ

奉天撫順清涼山城鎮通化本溪湖圖鳳城安東

文洲ハ莊河支連營ハ海城

四 駐滿蘇聯要人ヲ檢舉シ若クハ領事館其他蘇

聯要家機關ヲ檢索セントスル場合ハ應テ

中央委員首長ニ報告シ其指示ヲ俟クモノトス

五 檢索檢舉實施上ノ注意

一 關係ハ本軍隊特務機關ト緊要ニ連絡ヲ保持

スルニ

三 宣傳政治工作ニ關スル事項

月間該當事項ナシ

四 馬匪賊及鮮匪團ノ狀況

ハ長白縣下ニ於テ凡ソ萬軍、登仁、好仁義、双勝、聯合

匪等主要賊團ノ情勢ニ就テハ十月十日歩
 七四〇号第四九号ニ依リ報告セムニ其後大ナル
 移動變化ヲ認メス

又東滿特委根據移動最近ノ策動

東滿彈春方面ヨリ南下セム旅行者ノ談片ヲ
 綜合スルニ最近中央東滿特委ニ在リテハ日
 滿官憲ノ討伐ヲ蒙リ其ノ勢力振ハス外部的
 抵抗ニ堪ヘカネ漸次東邊道下臨江縣僻地ヲ
 移動シタルモノノ如ク彼等ハ東邊道一帯ニ
 於テハ紅軍匪徒雜匪ヲ叫合シ其ノ勢力ヲ扶
 殖スルト共ニ劫掠セム秋期ヲ利用シ東邊道
 一帯各地又解内方面ヲ襲撃スヘク陰謀中ナ
 リト

3. 十月中ニ於テハ長白毒下賊情別紙附圖第一

如...

本月間長白縣下...

、鮮匪團、圍...

五日軍、狀況

聞東軍秋季治安...

師團歩々、國...

備、越江向地方...

六、滿軍警察隊...

、長白縣與...

、訓練ヲ終了...

シ、ア、リ、シ...

所本月二十四日...

父 白野 尾善雄 21

記銃器禪薬ト要員九十二名辭内経田ニテ著
長也リ

龙 記

一七九式長銃 一八五

一四 禪薬 一〇〇〇〇

一 一号モトセ人拳銃 一三

一四 禪薬 一三〇〇

一 当筒式貫包 一三

森林警察隊第一中队配置変更

森林警察隊第一中队ハ二十道溝軌道第六終

点ニ本部設置ノ豫定ナリシモ探木公司事業

ノ關係上今回二十道溝榊家溝子(軌道第四終

点ト第五終点ノ中間)ニ変更設置スルコトニ

決定尚現在軌道沿線ニ配置中ノ各警察隊員

十一月五日迄ニ迄記ノ通り配置替ヲ為ス
 ハク目下上部ニ對シ経伺中ナリ
 迄記

駐 地	配 置 人 員		摘 要
	現在人員	新配置人員	
三浦(海軍)第一隊	一七	四二(日本)名	
三浦(海軍)第二隊	二〇		
第三隊	一九		
第四隊	三〇	二〇	
第五隊		二〇	
第六隊		二〇	
第七隊		二〇	
第八隊		二〇	
第九隊		二〇	
第十隊		二〇	
第十一隊		二〇	
第十二隊		二〇	
第十三隊		二〇	
第十四隊		二〇	
第十五隊		二〇	
第十六隊		二〇	
第十七隊		二〇	
第十八隊		二〇	
第十九隊		二〇	
第二十隊		二〇	
計	一一〇	一〇二	現在人員五十八名ニ對シ八名ノ剩 員ニ對シ該人員ニ對シ整理ノ旨

森林警察隊編成表

記

新設森林警察隊編成配備
 新設森林警察隊ハ今般諸準備完了シ十月三
 十一日迄ニ各駐屯配備ニ就ク豫定ニアリ尚
 編制駐屯地等記及別紙附圖第二ノ如ク十
 九ニ分散配置等ニ關シテハ現地到着後多少
 ノ変更アリ
 臨江縣撫松縣兩縣下ハ去ル二十日一齊ニ配
 備完了セリト

大隊本部	隊別	人員	表	備
	配置			
馮江	警正	1	警正	1
	警佐	1	警佐	1
	巡官	2	巡官	2
	警長	2	警長	2
	警士	1	警士	1
	計	7	計	7
	警長	6	警長	6
	警長	5	警長	5
	警機		警機	
	馬	5	馬	5
彈藥		彈藥		

第七中隊	第六中隊	第五中隊	第四中隊	第三中隊	第二中隊	第一中隊
長白縣 四頭房子	月 六頭房子	月 三道溝	臨江縣 小西溝	松江縣 東漫江	十五道溝 興地	長白縣 韓家溝
一 /	一 /	一 /	一 /	一 /	一 /	一 /
三 /	三 /	四 /	四 /	四 /	四 /	四 /
八 2	八 2	八 2	八 2	八 2	九 2	九 2
八 =	八 =	八 4	八 4	八 4	八 4	八 4
九 4	九 4	九 4	九 4	九 4	九 4	九 4
六	六	七	七	七	七	七
九 =	九 =	九 6	九 7	九 7	九 7	九 7
二	二	二	二	二	二	二
				未 機關 著	各 中隊 三千 備 三〇〇發	長 銃 三千 一〇〇發 共 各

一 交通

第三交通々信補給衛生其他ニ関スル事項

一 鴨綠江輪船公司ガロベラ船運航一部中止
 朝鮮總督府命令鴨綠江船航路就船ゴロベラ
 船ハ十月末日迄就航豫定ノ處九月中旬以來
 降雨ナク為ニ最近鴨綠江ハ平水ヨリ約八十
 程ノ減水ヲ示シ平水東興ヨリ新架坡鎮間ハ
 本月三日以降途航中止ノ止ムナキニ至レリ
 又義線ニ等道路新架坡鎮東興間開通ス

備考	合計
一 亞細亞亞細亞ハ日係ヲ示ス 示像以下ノ構成分駐ハ大隊長ニ於テ交通計画之ニ多トス	1
	7
	8
	13
	1
	3
	5
	6
	10
	10

憲義線二等道路中新架坡鎮一東興間(平出)三
 十二新八昭和九年八月起工シ本年九月末日
 工事完了去々十月七日検査終了シ開通セリ
 道路ノ状況

本路線ハ國境道路トシテ咸南平北兩道ヲ連
 絡スル重要道路ニシテ鴨綠江岸ニ沿ヒ附圖
 第三ノ如ク開設セラレ從來舟便ノ他ナカリ
 シハ國境地帯ニ本道路ノ開通ニヨリ國境線自
 動車道路ノ全通ヲ見タリ
 然レ共全線ヲ通シテ五六所ハ惡路アリテ降
 雨時ニハ自動車ノ通行甚難ス廣シテノ
 二通信

長白縣公署内ニ無線設置計畫
 對岸長白縣ハ滿洲國内僻遠ノ地ニ在リテ中

央方面トノ公文書等ノ往復ニモ教員ヲ要シ
 緊急ヲ要スル事項ニ関シテハ總テ縣内交通
 機関ヲ利用シ其要務ヲ達シツアリテ全ク孤
 立の状態ニアルカ為縣當局ニ於テハ容年未
 無電ノ設置方ヲ要望シツツ下リ然レ處中興
 當局ニ於テモ之ヲ認メ十月中旬着工ノ事ト
 決定セリ

三 補給

農作物ノ狀況
 當地方ニ於テハ農作物ハ比較的發育良好ニ
 リシモ夏季ニ於ケル冷害ト秋收期直前ニ於
 テル霜害ニ依リ著シク減收ヲ豫想サズ農民
 等ハ半作ナリト稱シ結氷期間中ノ食糧品
 不足ヲ憂慮シ不ルニ状態ナリ

説明ターゲット

次の原稿

不鮮明

3年12月18日

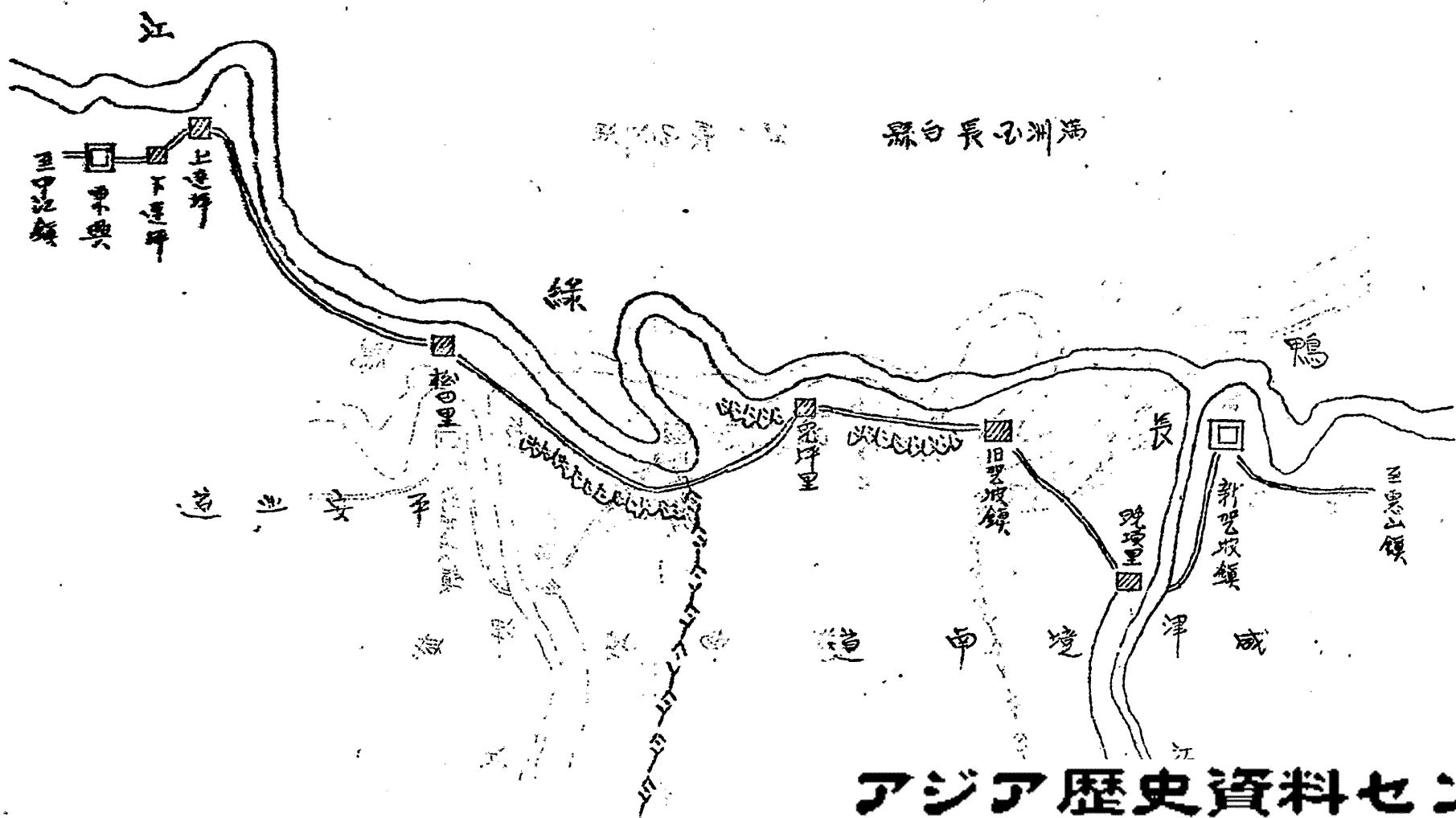
主務者又は

撮影立会者

加部東保夫



新豐 振領 ←→ 東興 間道 等開通要圖



1585

發送先

19 D
37 Bl
74 L
新 寺
73L 2宗
76L 2宗
77L 2宗

1586

秘

歩兵第七十五聯隊月報(十月)

昭和十七年十月

目次

第一 警備、概要

第二 對岸治安、概況

第三 各縣匪賊、概況

第四 交通、通信、補給、衛生

第五 常時國境守備隊、勤務直接充當部隊、

縮成

步兵第七十五聯隊月報

第一警備ノ概況

一 警備一般

警備機關ト連繫ヲ密ニシ情報ノ交換集蒐ニ
 努メ特ニ秋季演習出張間ハ残留者ニ於テ屢
 ヲ非常呼集ヲ實施シ事アル場合直ニ之ニ應
 シ得ル如ク訓練ヲ行ヒ尚残留者中ヨリ豫メ
 出勤部隊ヲ編成シ置キ國境守備勤務ノ遺憾
 ナキヲ期シソ、アリタルモ直對岸附近ハ一
 般ニ平穩ニシテ鮮内住民ハ安ンシテ其業ニ

服ニアリ

第二 對岸警備ノ概況

二十月ニ入り皇軍聯合大討伐開始ト同時ニ各地ニ據根スル兵匪^共団ハ根據地ヲ捨テ奥深ク逃避セル情況ニシテ對岸附近匪賊モ何レニカ逃避セルモノノ如ク對岸附近^並一帶ニ比較的平穩ナリ

第三 各縣匪賊ノ概況

三 和龍縣

匪賊ノ移動狀況

和龍縣ニ道清泉水洞奥地新地方ニ根據ヲ有

スル匪賊新來好部隊ハ容月九月海龍軍ノ召
 集ニ依リ安圖縣車廠子ニ移動シ早クモ皇軍
 ノ大討伐アルヲ察知セル渠等ハ各地ニ根據
 セル海龍軍並東北人民革命軍用部トヤカ善
 後策ニ就キ安圖縣車廠子河北ニ於テ容月十
 五日ヨリ企二十日迄六日間ニ亘リ協議シタ
 ル事項左記ノ如シ

記

一協議開催日時昭和十年九月十五日企二十

日迄

ニ 集合団部

一、匪賊 新來好部隊ヨリ匪首以下 一三名

口、 海龍軍部隊ヨリ匪首以下 二三名

ハ、東洋人民革命軍第二團長李成八以下 一〇名

三、協議事項

近ノ日本軍ニ於テハ大討伐ヲ次行スヘキ
 筈ニシテ該軍ハ相當大部隊ノミナラス其
 ノ計画準備モ整備シアルニ付吾等聯合軍
 ヲ以テ到底對抗シ得サルハ明カナルニ付
 今回ノ討伐ニ於テハ全ク無抵抗主義ヲ執

リ分散行動ニ出スルヲ最モ合理的ナリト
意見合致セリ其状況左ノ如シ

不安圖縣車廠子ハ從來ノ根據地トシテハ
森林地帯ヲ控ヘ最モ理想トレタムモ和
龍縣ト接壤シ殊ニ全縣官地方ニハ近ク
森林警察隊ノ設置計畫アリ斯ル場合ハ
僅カ五、六十精里ノ短巨離ナルニ依リ漸
次森林ノ大量伐採ヲ為ストキハ今冬中
ニ根據地附近迄進歩スルハ明カニシテ
危険ヲ及ホス虞アリニ付日本軍討伐前

迄ニ安圖縣大沙河方面ニ移動スルコト
ニ決定セリ

口然ルニ安圖縣大沙河ニ移動スルト雖モ
夫々分散行動ヲ採ルヲ以テ食糧等ニ窮
スルコトナク目下貯藏品ノ運搬ニ努ム
ルト共ニ東北人民革命軍所屬黨員約ニ
十名残留シ残留勒教整理ニ忙殺シ居レリ
ハ分散行動地域及人員

ハ新來好部隊一三名ハ和龍縣一帶ヲ中
心トシ場合ニ依リテハ又シ更ニ二隊

ニ分ツコト

口、海龍軍一~~派~~二十名ハ延吉縣仁清一帯
ヲ中心トシ又必要ニ應ジニ隊ニ分
ツコト

ハ東北人民革命軍第一^五獨師第二團長李
成ハノ引率セン約五十名ハ安圖縣境
仁溪河流域ニ移動シ匪賊柏仲明一~~派~~
ト合流シ全地方一帯又ハ德化崇善社
一帯ニ於テ活動スルコト、セリ

又、和龍縣明新社泉水洞地方ニ根據中ノ革命軍

所屬新來好一約四十名ハ皇軍ハ大討伐開
 始ト同時ニ安圖縣車旅子地方ニ移動中ノ皇
 軍ノ銳鋒ハ安圖縣一圓ニ伸ヒツ、アルヲ以
 テ比較的の手續ナル安和縣界紅旗河方面ニ移
 動シ目下同地ニ蟠居中ノ合流匪相仲明一
 ト合体シ今後ニ於ケン善後策ヲ考究中ナル
 趣キヤルカ目下極度ノ糧食難ニ陥リ餓死一
 名ヲ出シタル狀況ニ鑑ミ近ク朝鮮ニ長村峯
 地方ニ進出シ小都市ノ襲撃ヲ決行スヘク計
 画中ナリト

四安圖縣

一 安圖縣車廠子地方ニ蟠居中、東北人民革命軍第一獨立師王德泰一※武裝匪ニ百余名ハ非武裝共匪男女四百名ヲ引率シ樺田安圖ノ兩縣境地帯夾皮溝大沙河兩江口一帯ニ亘リ移動中ノ處皇軍ノ聯合討伐漸次安圖西部方面ニ指向肅正シツクアルヲ以テ渠等ハ後方安和縣界方面ニ一時遁豫スハク各分散行動ヲ採リツク移動ヲ開始セリ

二 匪賊頭目海龍軍約二百名ハ皇軍聯合大討伐

計開始ト同時ニ根據地タル安國縣五道陽倉
 ヲ捨テ全地東方約二里ノ地黒密林内奥深ク
 逃避シ居リタルカ計伐隊ノ西部車廠子方面
 ニ進出ト同時ニ覆滅サレタルモ元根據地挽
 回ニ目下膺心中ナリ

3. 車廠子ニ根據中ナリシ革命軍第二軍ハ落葉
 期ニ於ケル日滿軍ノ大討伐ヲ予想シ本月七
 日師長ノ命ニ依リ沂屬兵士並群眾ノ大部分
 ヲ從ヒ安全地帯ニ向ヒ移動セリ
 目下全地ニ殘留セム者ハ殘務整理ノ及日自

衛隊員二十名及農作物收穫ノ外武装民衆若
 干ニシテ密林中ノ各處ニ舍ヲ空家ノ儘放
 置シアリト革命軍ノ移動先ハ安撫縣界楊木
 頂子說ト安和縣界ノ老嶺方面說トニ說アリ
 又安圖縣車廠子ニ根據シテ共匪ハ今期ノ討
 伐ヲ事前ニ察知シ根據地ニ於テハ到底抵抗
 不可能トシ目下皇軍ノ討伐ヲ避クツ、分散
 行動ヲナスコトニ決定シ在車廠清救國軍第
 二團ノ四ヶ連約百三十名ハ四隊ニ分シ冬營
 準備工作ノ傍ヲ討伐軍ノ奇襲並ニ後方攪亂

ノ為主トシテ安和縣境老峯接壤地方ヲ始メ
 京圖線ニ分散遊動スヘク行動ヲ開始セル赴
 キニシテ既ニ其一隊約四十名ハ二三道溝
 地区ヲ目標トシテ九月二十五日頃根據地車
 寮子ヲ出發和龍縣西部泉水洞密林地帯ニ潛
 入シ居ルモノ、如シ
 各地守備隊ハ偵諜ヲ密ニシ彼等ノ行動ヲ察
 知シヤヲ奇襲シ一舉ニ殲滅スルコトヲ準備
 ス

八 安圖縣車廠子北方ニ蟠居セル非武装共匪ノ
 本年ノ作付ハ主トシテ馬糞鉞、高粱等ナルカ
 例年ニ比シ作柄良好ナレヲ以テ非武装群衆
 約五百名ニ對シ六ヶ月以上ノ糧食維持ニ差
 支ナク相當ノ冬營準備アリト豪語シ居レリ
 六 渠等ハ既ニ秋期討伐ヲ予想シ車廠子根據地
 ニハ要所毎ニ防禦陣地ノ構築ヲナシ或ハ水
 年收穫シタル馬糞鉞高粱ノ糧秣ヲ附近一帯ノ
 密林中ニ隱藏スル等最近ハ特ニ之カ對策ニ
 齎心中ナリ

車廠子一帯ニ蟠居中ノ共匪ハ本年冬期間ハ
 全縣大沙河子地方ニ武装隊ニシテ連六〇非武
 裝約ニ〇〇ヲ移駐セシメ假根據トシテ冬營
 スヘク計畫中ノ由ナルカ之カ理由トシテハ
 万一討伐隊ノ進撃ヲ車廠子ニ於テ死守シ難
 キトキハ該地ヲ第二ノ根據トナス計畫ナリ
 又延吉地区分散配置要圖第一ノ如シ

第四交通、通信補給衛生

一 訓戒一 用灣子間國際鐵橋ノ狀況

一 訓戒一 用灣子間ニ架設セラレ、國際橋梁ハ
 大連市吉川組ノ請負（金額五萬九千八百圓
 材料國道局負擔）ニシテ昭和九年五月二十
 日起工竣工期日ハ今年末ノ豫定ニシテ銳意
 工事中ノ處昨九年夏季ノ降雨増水ニ依リ完
 成橋脚流失約五萬余ノ損失ヲ蒙リ一時工事
 ハ行愆ミノ状態ニアリシカ當局（國道局資
 金注入）ノ斡旋ニ依リ其後逐時進歩本年十月

二十日開通式舉行ノ豫定

橋梁ノ狀況

1. 鐵橋

長サ

二二四、八米

幅

八米

高サ

一、一米

橋脚

九個（脚間二四、七八米）

2. 木橋

前記鐵橋ノ延長タル木橋ハ全吉川組ノ請
負（三萬五千円）ニシテ工事中ノ處九月下

旬竣工セリ

長サ 一八〇米

幅 六米

高サ 九米

橋脚 二三個(脚間七五九米)

ハ土盛

國際鐵橋—木橋間ニ連續シアル土盛ハ
 春(國道局)ヲシテ鐵橋上ニ連續セシムル
 為高サ九米長サ七〇米ノ土盛ヲセルモノ
 ニシテ凡分通り終了シアリ

ニ開通式ノ豫定期日

十月二十日(車馬ノ通行ハ當分許可サレス)

ニ暹春輕便鐵道鮮肉敷ノ狀況

暹春輕便ノ鮮肉敷ニ工事ハ國際鐵橋ノ竣工ト

相俟テ開通スヘク工事進捗中ナルカヤク敷ニ

ミ完了ハ十一月初旬ノ豫定ナリ

ニ工事ノ狀況

國際鐵橋—訓我驛間ノレール布設工事ハ雄

基中元儀三郎(五千圓)ニテ請員ト目下工事

中ナリ

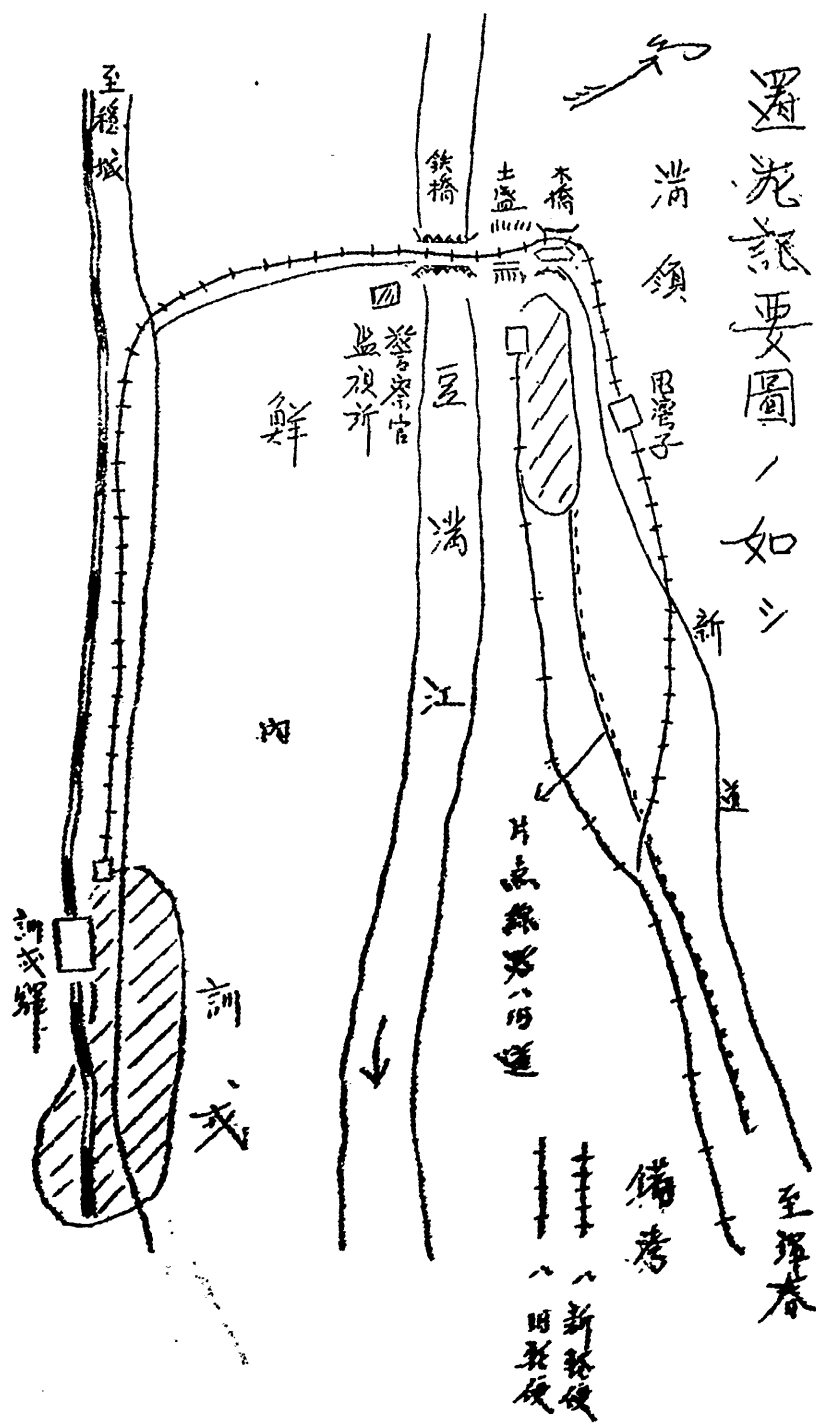
ニ用灣子側レール敷設並木橋工事ハ輝春本並
松友（一萬二千円）ニテ請負現在工事七分
通り終了ス

木橋ハ前記國際鐵橋側木橋ニ同シ

ニ其他参考事項

一 國際鐵橋及輕便ノ開通ニ伴ヒ用灣子税關
関分卡ニ於テハ工費一萬圓ヲ以テ廩舎及
宿舎ヲ滿整分署ニ於テモ（工費不詳）新
築ノ豫定ナリ

ニ滿領側國際鉄橋ヨリ輝春ニ通ル新設道



路ハ沿線居住民ノ賦役ヲ以テ建設シアリ
 テ全道路ハ八分通リ終了セリ
 四訓我一用灣子間國際鐵橋並輕鐵ノ關係位
 遷延証要圖ノ如シ

2. 管内鐵道及自動車網要圖第二ノ如シ
3. 通信
 - 管内通信網要圖第三ノ如シ
 - 管内軍用通信網要圖第三其一ノ如シ
 - 間島通信網要圖第三其二ノ如シ
4. 補給
 - 順調ニ實施シアリ
5. 経理
 - 確實ニ實施シアリテ良好ナル成績ニアリ
6. 衛生

將校以下保健ノ状態良好ニシテ防衛勤務
實施ニ支障ナシ

第五編成

常時國境守備勤務直接充當部隊ノ編成
附表第一ノ如シ

附表第一

匪賊ノ出没情況

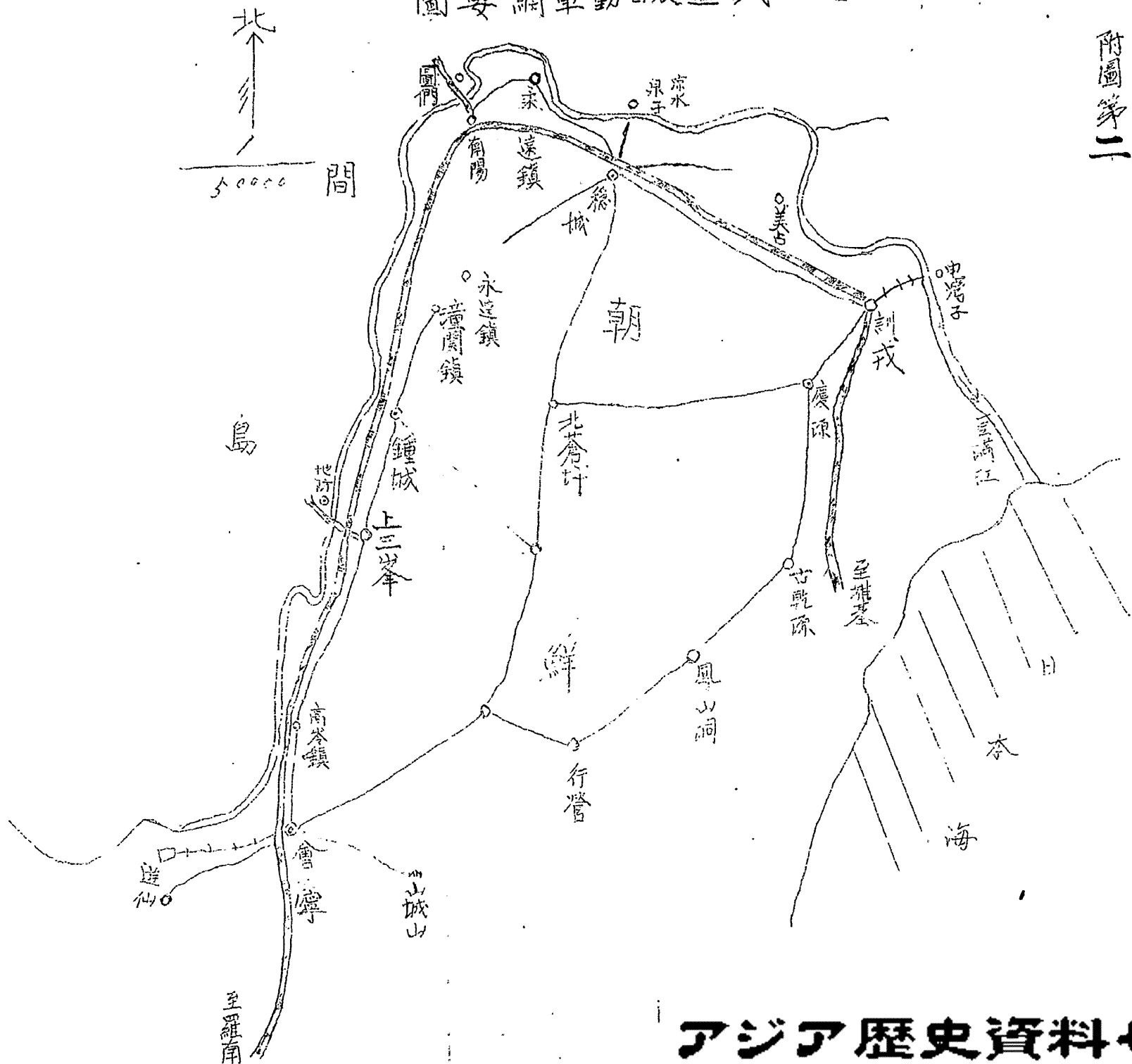
地区	延吉	吉	縣
日月	十月	二月	日
蟠石地	鷄冠山	山	官地
匪首	不	明	不明
系統	武裝	共匪	二〇
行	動	ノ	概
要			
<p>午前零時鷄冠山ハ榆樹川東北方四軒ノ武裝匪賊二十名ヲ末襲セリ 老頭清ヲ備隊長上田少尉ハ此報ニ接シ部下二十名ヲ指揮シ午前三時老頭清ヲ發回五時三十分現場ニ着セシモ該匪賊ハ守備隊ニ急報セシモノアリト知り若干ノコソシテ掠奪シ午前零時二十分迄是レ匪影ヲ認メス守備隊ハ附近一帯ノ地ヲ掃蕩シ午前九時守備隊ニ歸還ス</p> <p>午前八時ニ地方集團部落ニ匪賊襲撃シ來リ同地展望哨ニ數十數ノ小銃ヲ發放セリ 同地自衛團ハ直ニ之ニ應戰ニ時間ニシテ午前十時之ヲ北方ニ擊退セリ</p>			

縣		吉		延			
日 八 月		十 月		日 七 月 十			
清道三	清道五	台兵亮	部賊洞銀				
明不	明不	明不	明不				
二 共 武 ハ 匪 装	二 匪 ハ 賊	二 匪 ハ 賊	一 匪 ハ 賊				
<p>午後八時三道清北方約一里ハ青道清附近ニ武 装匪二十名集合シテ了ラ同地ニ備隊ハ交戦ニ 分ニシテ之ヲ揮掛河子河各地方ニ攻撃退セ</p>		<p>八日夜七時ヨリ十二時ノ間ニ於テ匪賊約二十名 備隊ニ對シ射撃セシテ以テ威嚇射撃ヲ了ラ 勝子方面ニ逃走セリ</p>		<p>千前一時三十分線路巡察有清一兵兵台明ニ 九ニ軒附近ニ達セン時匪賊二名線路上ニ潜伏シ アルヲ發見直ニ追撃セルモ賊々清方面ニ逃走 セリ</p>		<p>七月夜匪賊一〇名銀洞賊部老頭清要方 ニ現シ「吾我ハ日本軍ノ為ニ根據地ヲ奪フニ為 某方面ニ移動スルモノナリト食ヲ強要シ附近各 地ニ安ヲ没ス</p>	

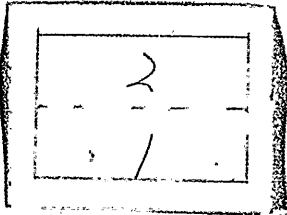

縣 龍 和	縣 去 延
日 九 月 十	日 月 十
河 旗 紅	清 道 三
明 不	明 不
ニッ 約 賊 匪 裝 武	工 口 共 匪
<p>和龍縣青山里集團部落居住鮮人黃個 外五名及朝鮮茂山邑内南山洞居住鮮人全 京先當四十五年計六名ハ藥草採取ノ為安 圖縣紅旗河許哥洞西南方約五里ハ山真ニ 越キ藥草採取中翌十日午後四時頃武裝匪 賊約二百名ニ遭遇シタルヲ以テ右六名ハ逸早 藥草ヲ放棄シ逃去シタルカ右ノ中茂山邑居住 ノ人全京先ハ遂ニ匪賊ノ為逮捕セラレテ殺セ ラレタリ</p>	<p>午後七時三十分共匪約五十名三道溝及松下 坪襲撃シ企圖ナリシ前通中ナルヲ希望哨 之ヲ發見直ニ各警備機關ニ連絡ス同地 守備隊ハ直ニ之ヲ奇襲シ敵ヲ機水洞奥地 ニ急迫ス</p>

管内鐵道及自來水網要圖

附圖第二

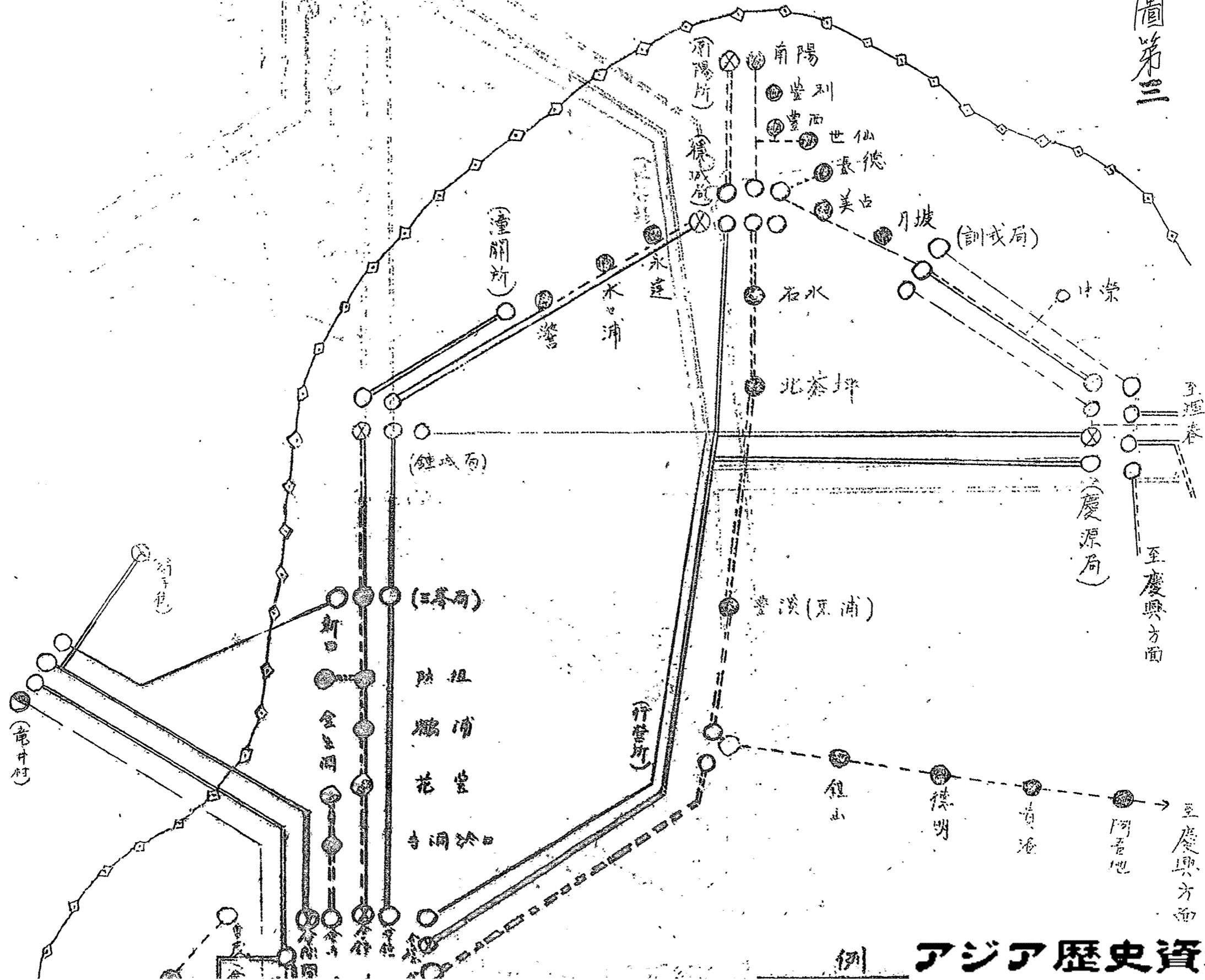


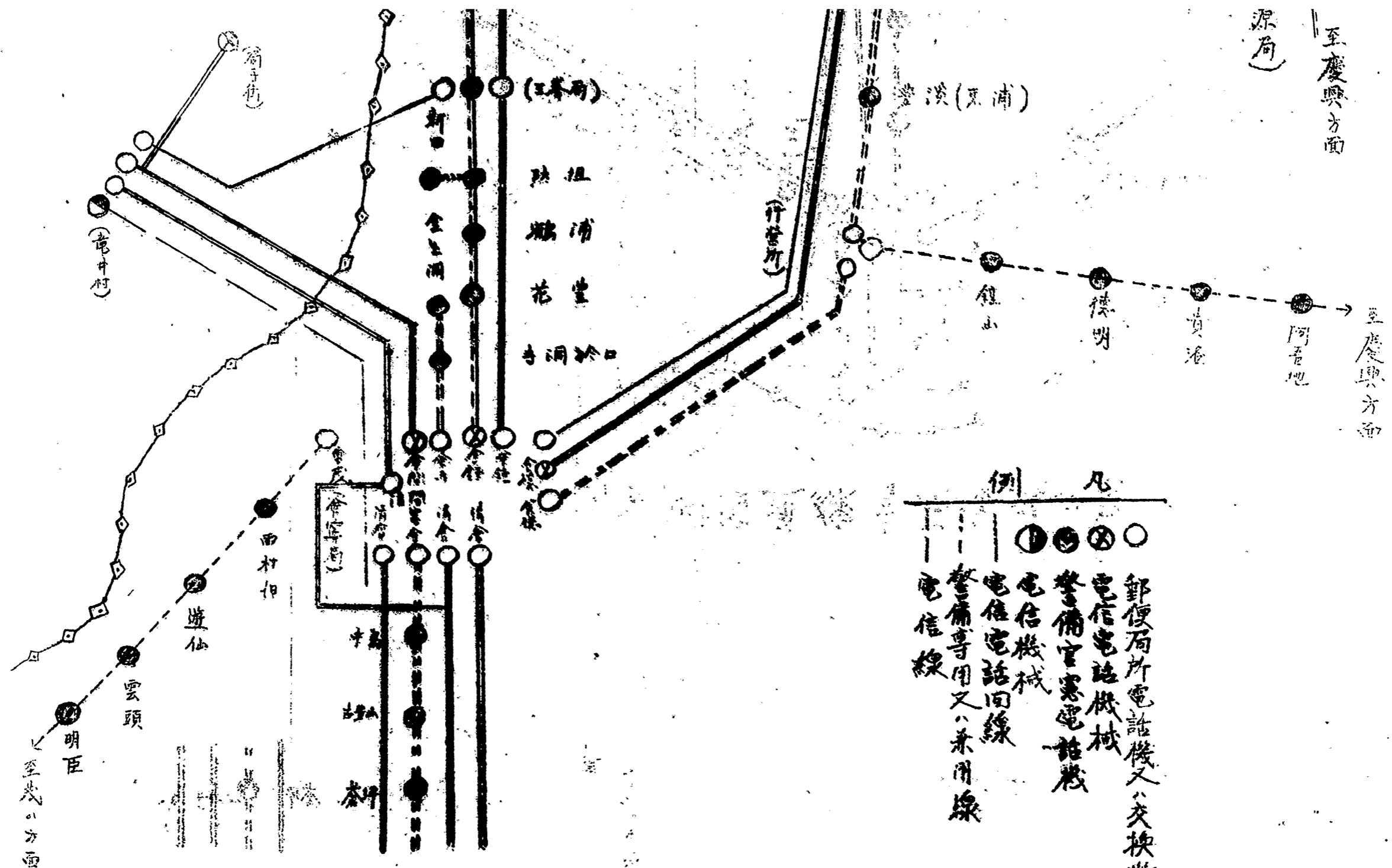
分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上の尺巻
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>3年 12月 18日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 加部東 保夫 </p>	

管内遞信局有線通網要圖

附圖第三



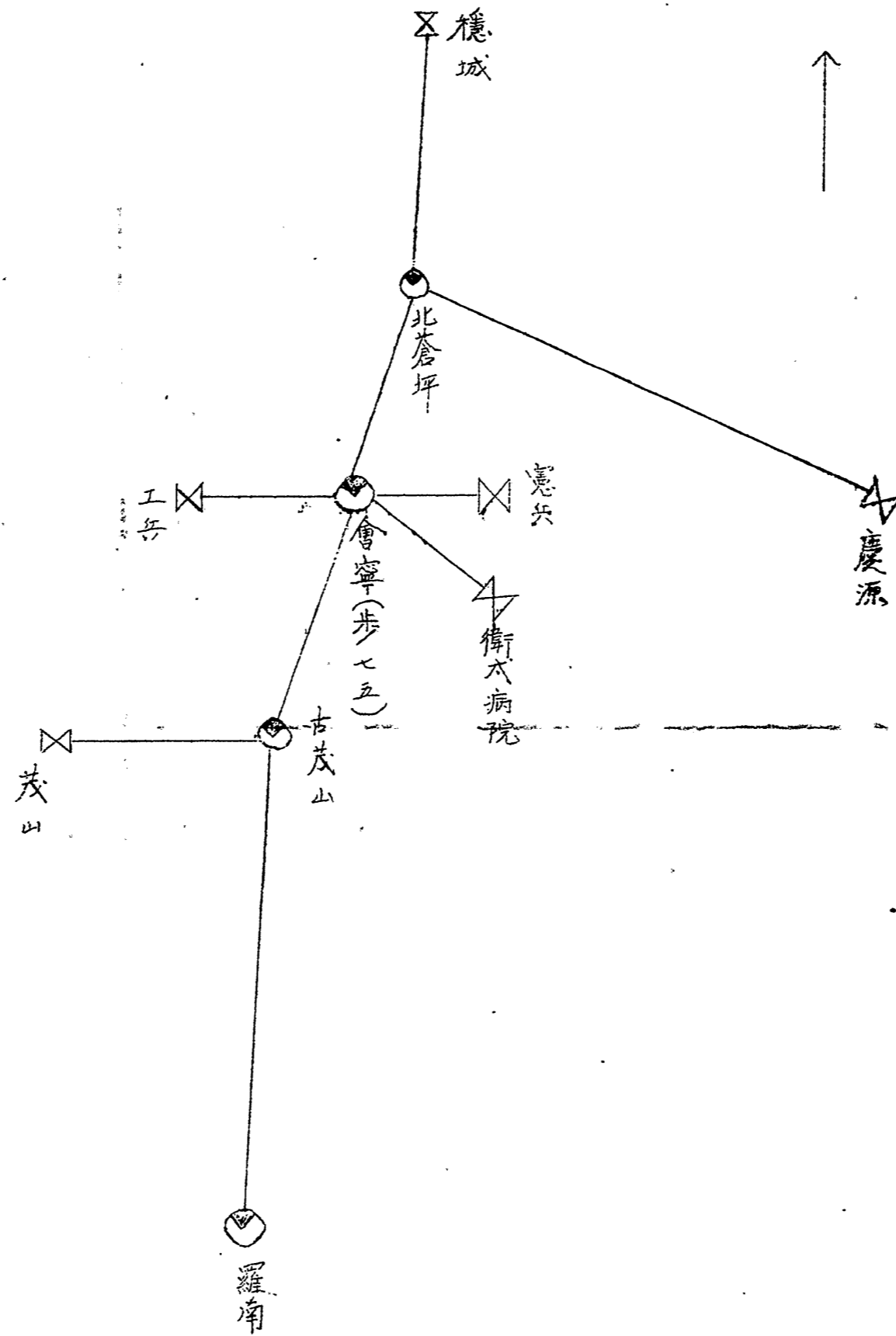


- 例 凡
- 郵便局附電話機又ハ交換機
 - ⊗ 電信電話機
 - ⊙ 警備官署電話機
 - ① 電信機
 - ⊖ 電信電話回線
 - ⋯ 警備専用又ハ兼用線
 - 電信線

1916

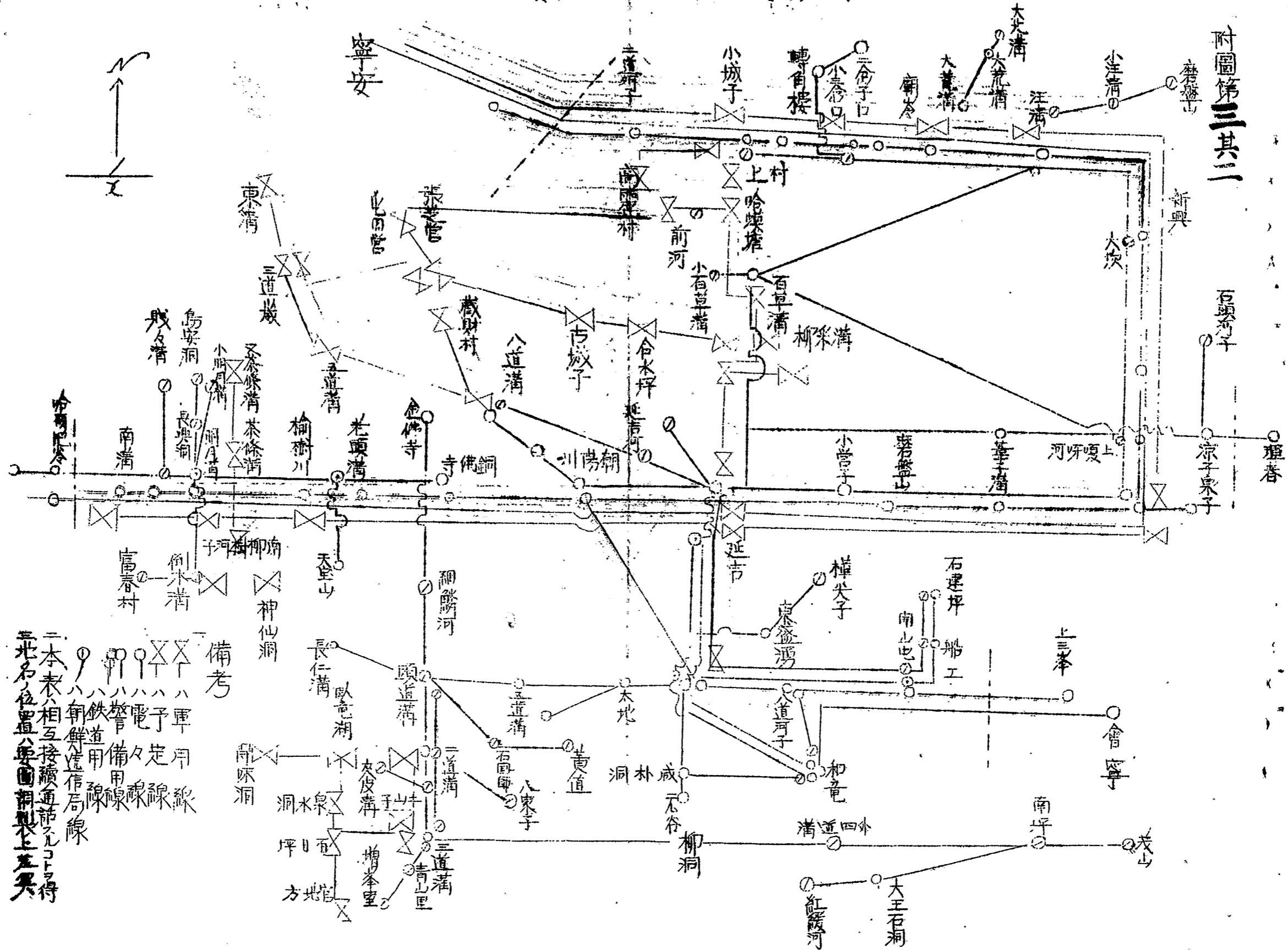
圖要網信通線有用軍内管

附圖第三其
附表



間島地方有線通信網要圖

附圖第三其二



備考
 ○ 八軍用定線
 ○ 八警備用線
 ○ 八鐵道用線
 ○ 八朝鮮通信局線
 ○ 本表相互接続通話ルコトヲ得
 ○ 北名、後置、八要圖、相製、上、五、天

附表第二

出動部隊編成表

計	第六分隊		第五分隊		第四分隊		第三分隊		指揮機關		小隊長		編成階級	
	機	輕	銃	小	銃	小	銃	小	機	關	一	一	週	軍
一													官士	番
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	(長伍)	曹
八	四	四	六	六	三	一	一	一	一	一	一	一	兵等	上
一													兵等	(一)
一													手以	刺
一													兵護	看
三	五	五	七	七	六	一	一	一	一	一	一	一	計	
	<p>摘要</p> <p>一週番士官本勸シタルトキ中隊長ハ別ニ週番士官ヲ命ズ 二本勸ニ週番士官消隊司令ナル場合ハ週番司令ハ臨隊他中隊連番士官ヲ消隊司令ニ任命ス 三兵三内ニ名ハ担能ヲ携行スニ名ノ内一名ハ樞兵ヲ充當スルモノトス 四看謀兵ハ十四年式拳銃履帯三發ヲ裝備シ其ノ他ハ小銃裝備トス 五トコクニテ輸送スル時ハ別命ナク 六第一分隊ヲ欠ク 七第四連隊手ハ少キニテ三連隊手ハ小銃其 八他ニ拳銃(彈藥一人ニ付ニ發ヲ裝備ス 九輕機筒銃ハ夜間ハ直ニ使用得ル如ク実包 十銃身ヲ裝ニ置クモノトス 十一トコクニテ輸送スルトキ別命ナクニテ五分隊ヲ欠ク</p>													

備考
 秋季演習殘留間ハ本表ニ依ラズ殘留人員ヲ以テ
 臨時出動ニ得ル如ク準備セリ